

※樹については側溝底+150以上の土溜りを設けること

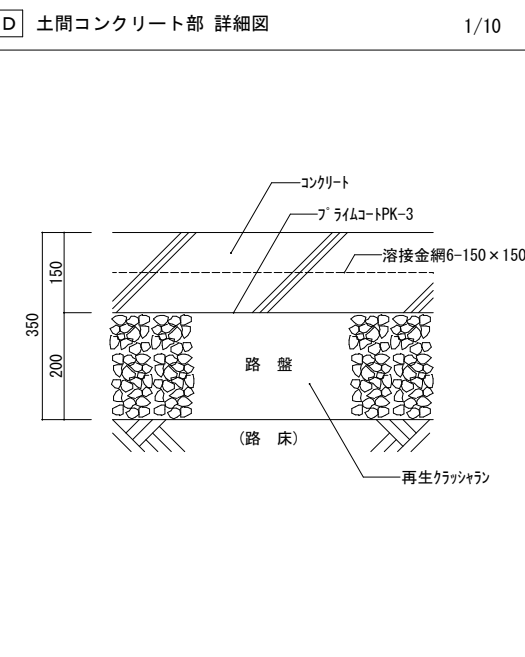
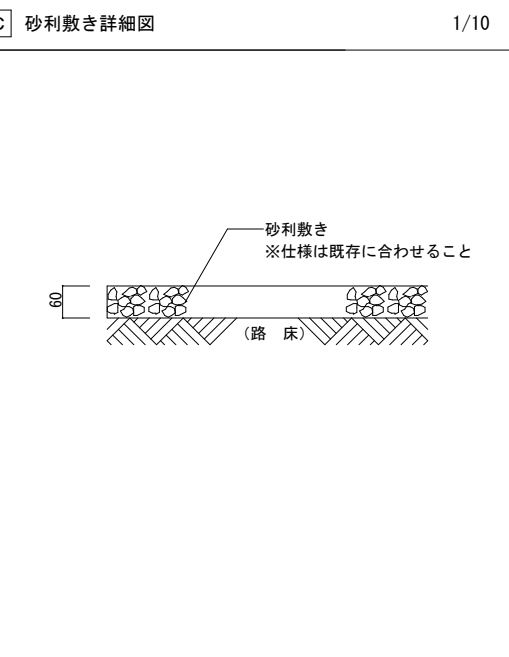
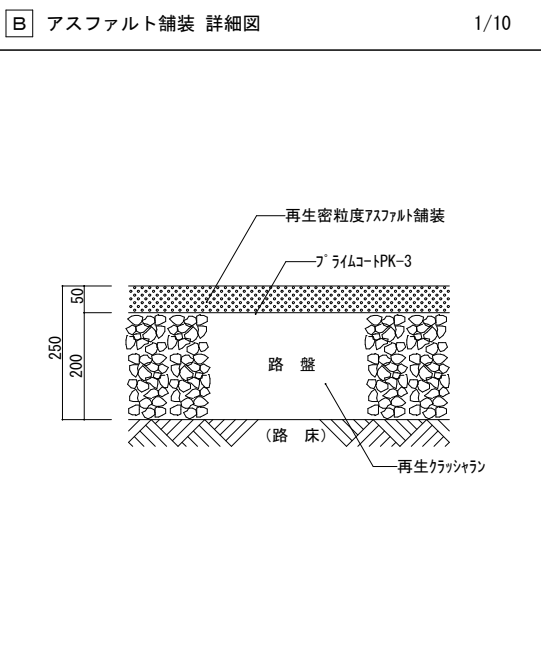
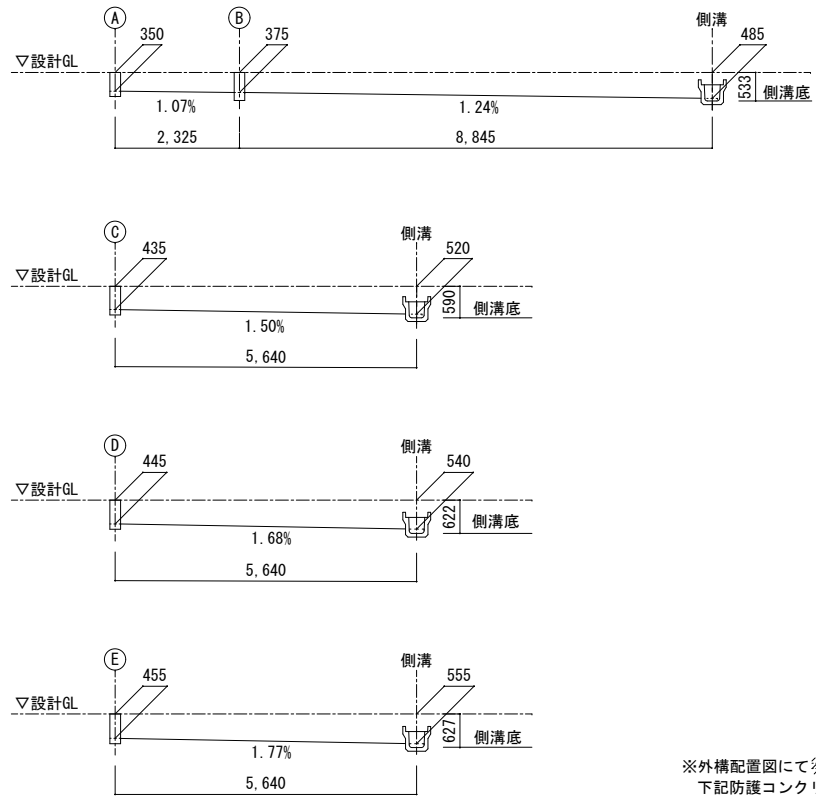
※樹については側溝底+150以上の土溜りを設けること

外構工事概要表			
No.	外構工事	仕様	備考・参考数量
①	駐車区画	ライン引き（普通車用）、車止め ×10台分 ライン引き（車いす用駐車場専用）、車止め ×1台分	
②	フェンス新設	PCメッシュフェンスH=1,200 [M]	総L=11.0M
③	フェンス改修	PCメッシュフェンスH=3,000 [L]	範囲はA-4-1配置図参照 総L=48.9M
④	側溝新設	落ちふた式側溝4種300A グレーチングT-25 普通目 溝幅300用 [F]	総L=58.8M

外構配置図 1/100

凡例	
●	設計GLからの高低差を示す
○	小口径雨水樹(樹底高さは勾配図による)
VP	雨水配管(管底高さは勾配図による)
■	雨水配管 保護コンクリート範囲
*	施工部名称末尾の*内の大文字7桁は詳細図番号を示す

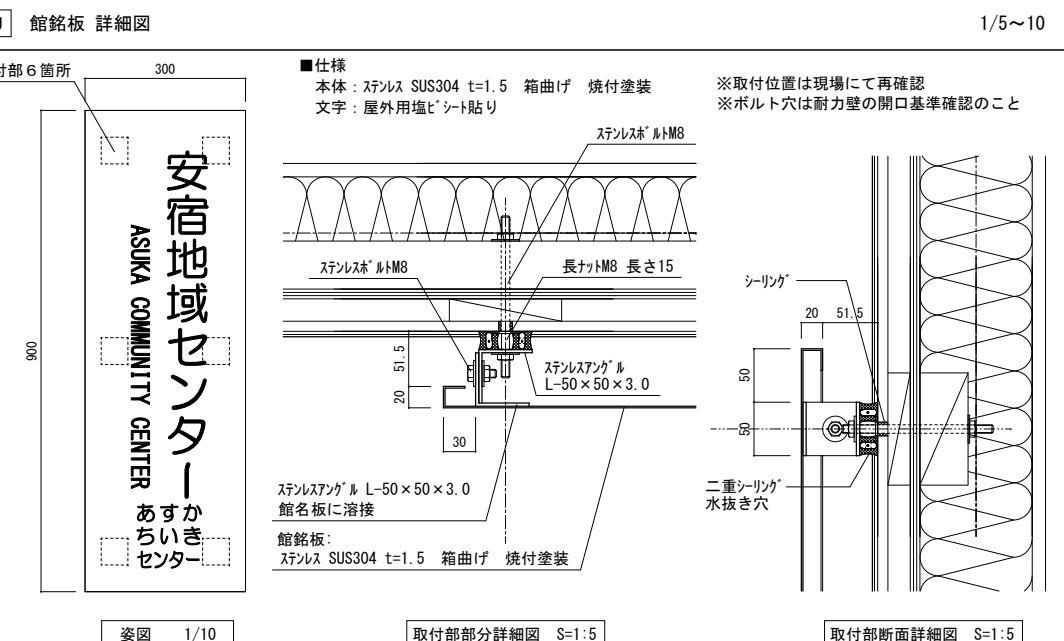
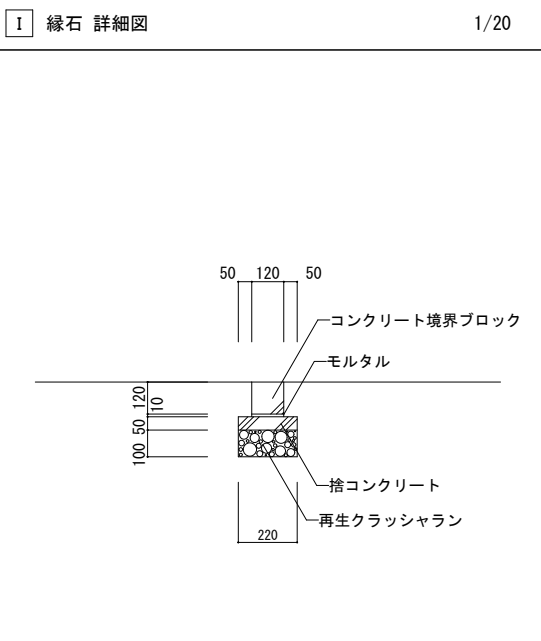
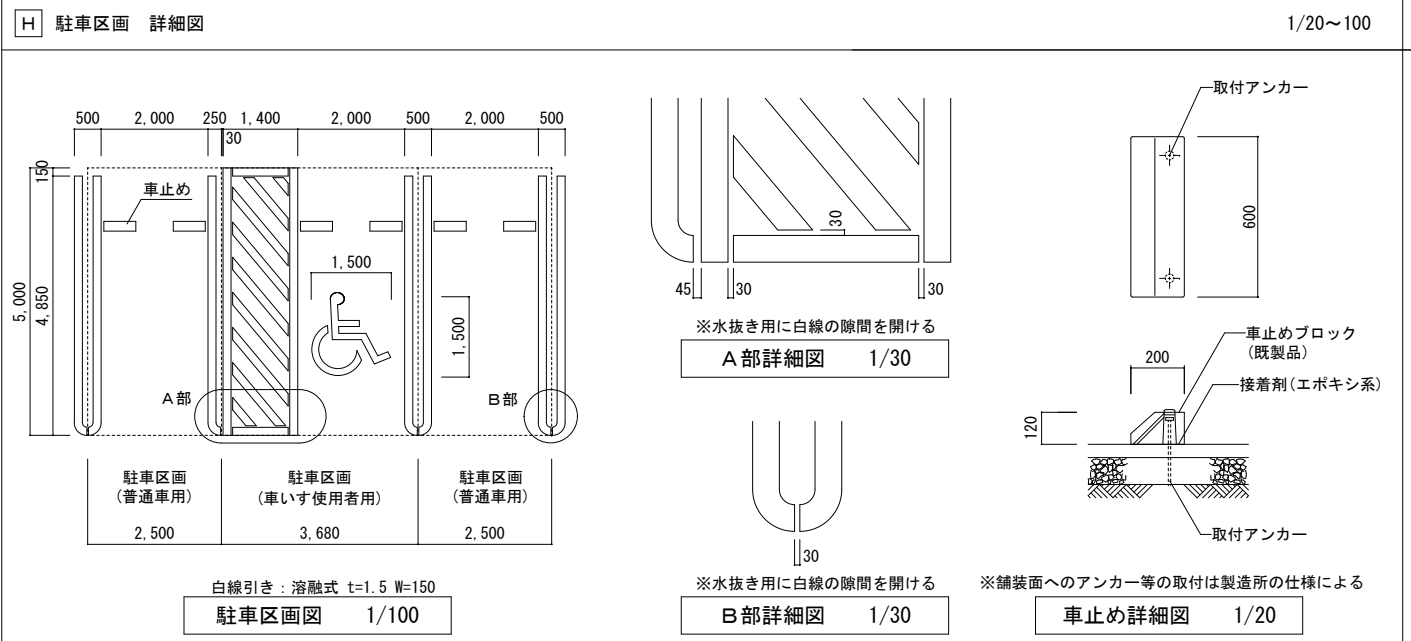
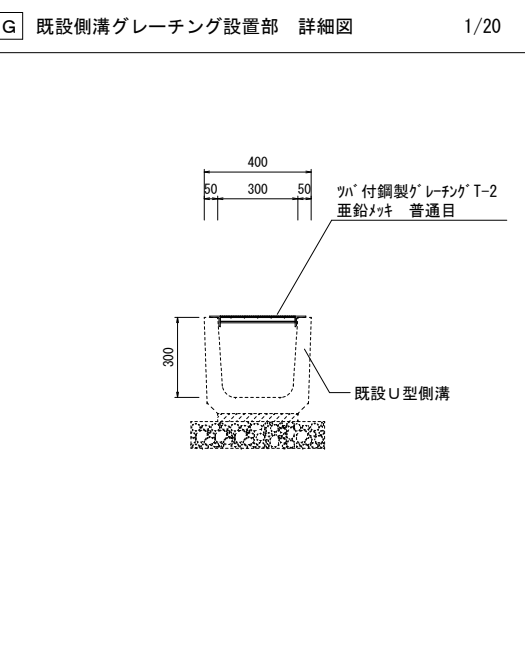
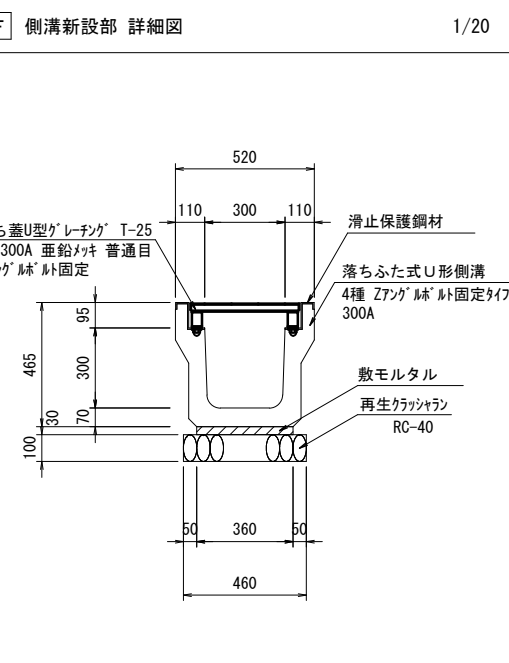
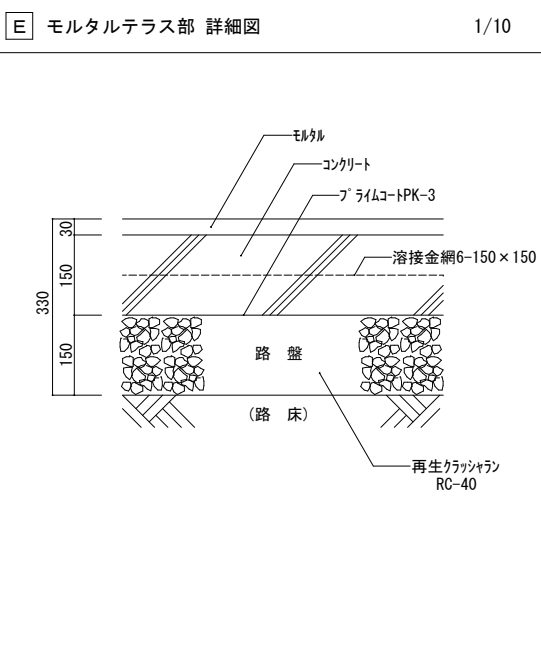
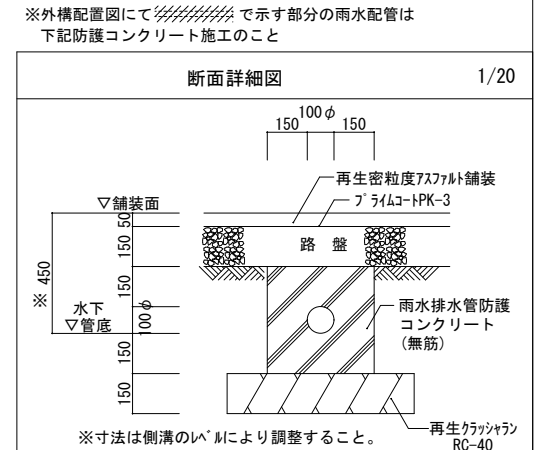
舗装工事	仕様	舗装参考面積
舗床1	アスファルト舗装 [B]	287㎡
舗床2	カーアスファルト舗装 [C]	157㎡
舗床3	土間コンクリート [D]	41.7㎡
舗床4	土間コンクリートの上、モザイク舗装 [E]	61.6㎡

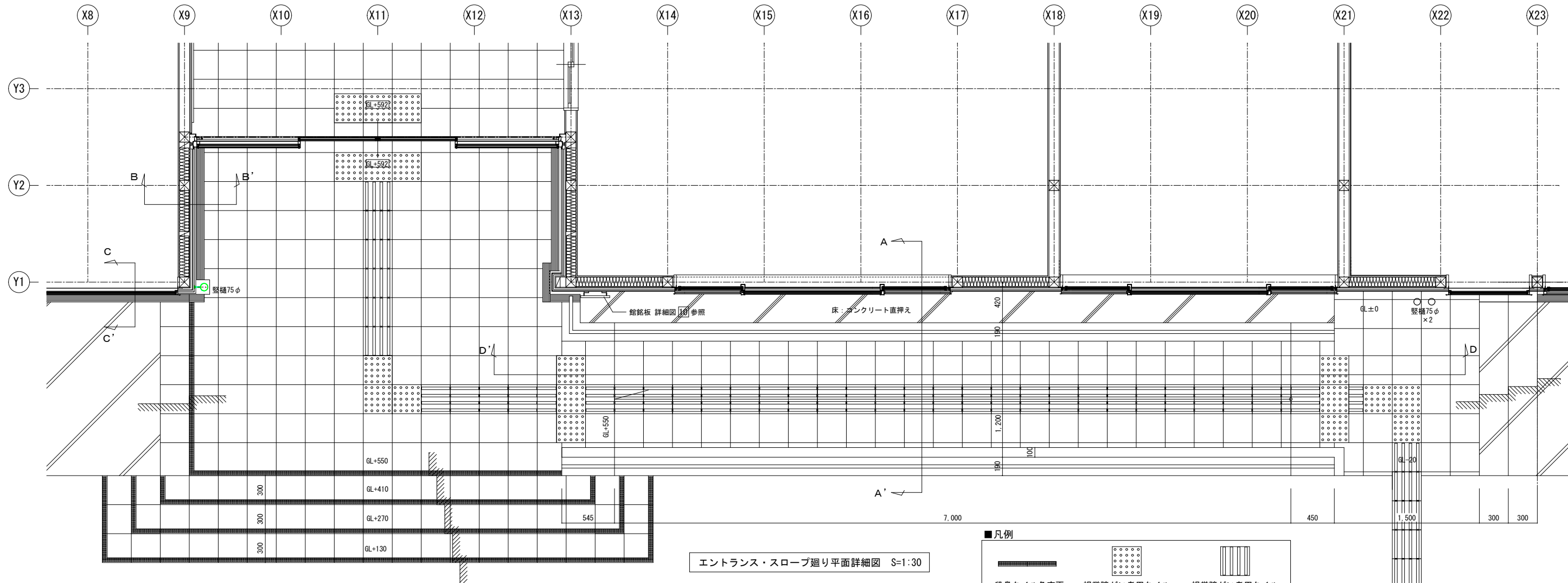


樹リスト

番号	名称	管底	摘要	蓋・備考
(a)	雨水樹	350	小口径樹 150φ	塩ビ製蓋 (化粧蓋)
(b)	"	375	小口径樹 150φ	塩ビ製蓋 (化粧蓋)
(c)	"	435	小口径樹 150φ	塩ビ製蓋 (化粧蓋)
(d)	"	445	小口径樹 150φ	塩ビ製蓋 (化粧蓋)
(e)	"	455	小口径樹 150φ	塩ビ製蓋 (化粧蓋)

※小口径樹は、泥だめバケツ付とする。



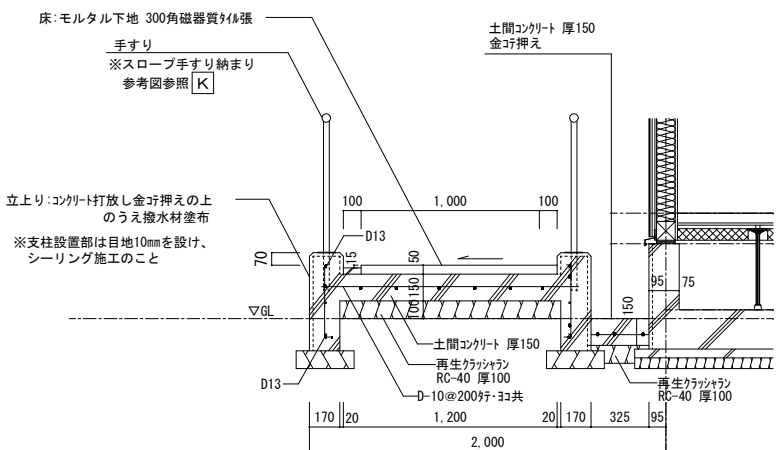


エントランス・スロープ廻り平面詳細図 S=1:30

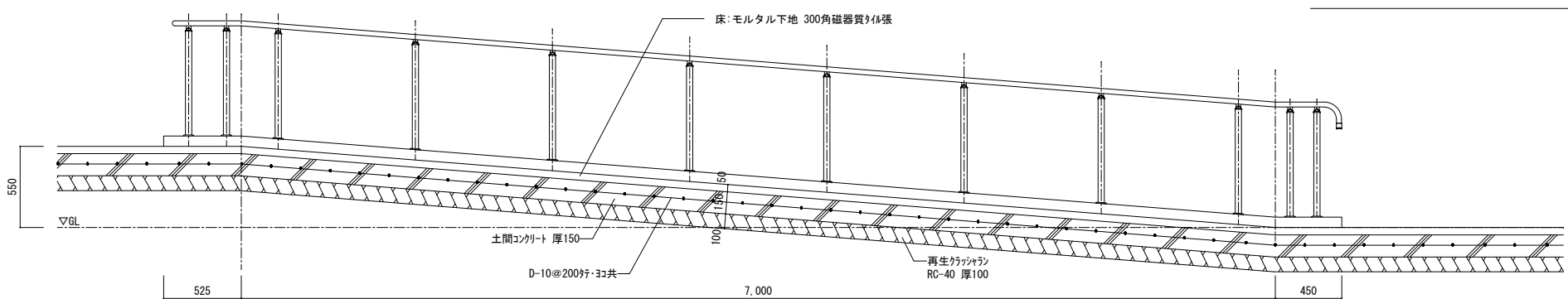
■凡例

- 段鼻タイル色変更
- 視覚障がい者用タイル (位置表示型)
- 視覚障がい者用タイル (誘導表示型)

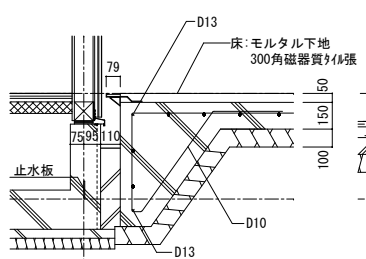
※視覚障がい者用タイルは周囲のタイル色と輝度比2.0以上とする。



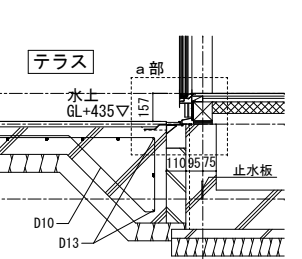
A-A' 断面図 S=1/30



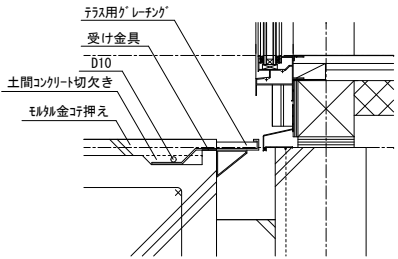
D-D' 断面図 S=1/30



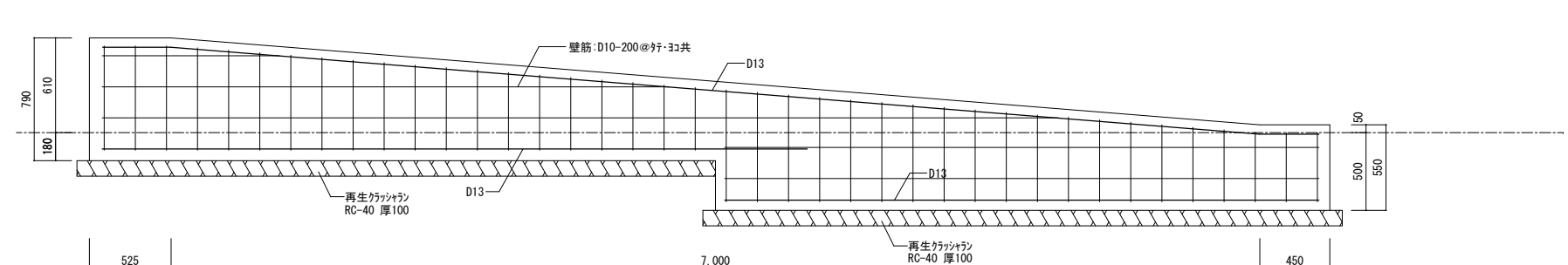
B-B' 断面図 S=1/30



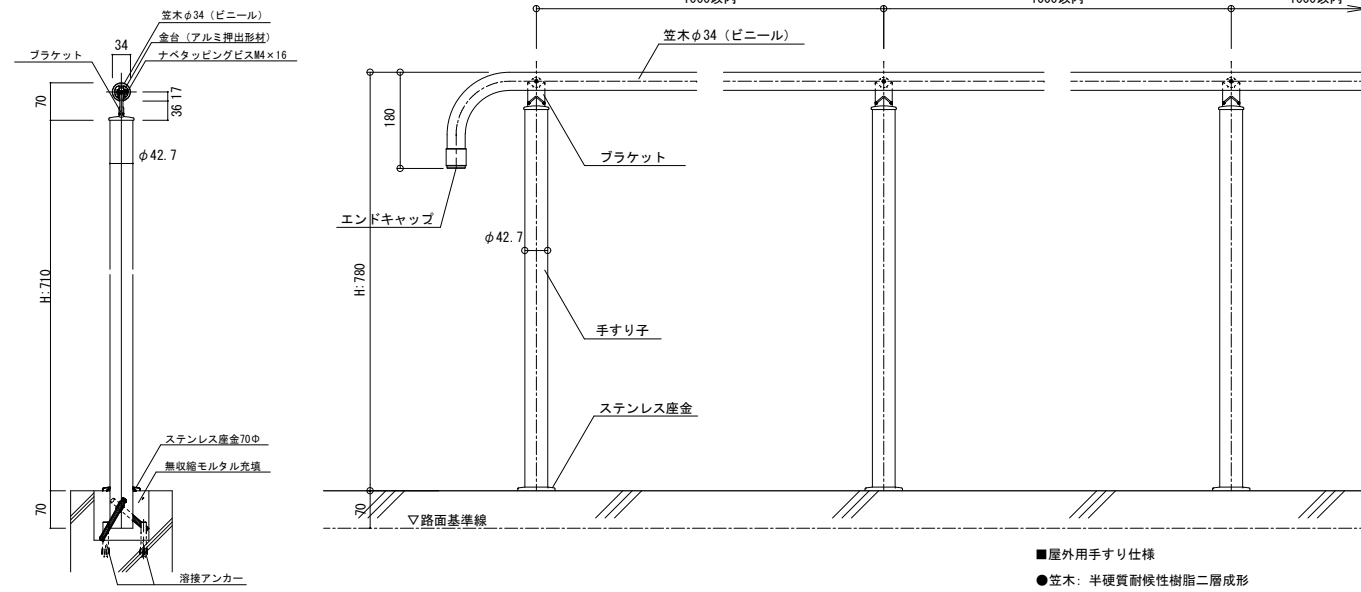
C-C' 断面図 S=1/30



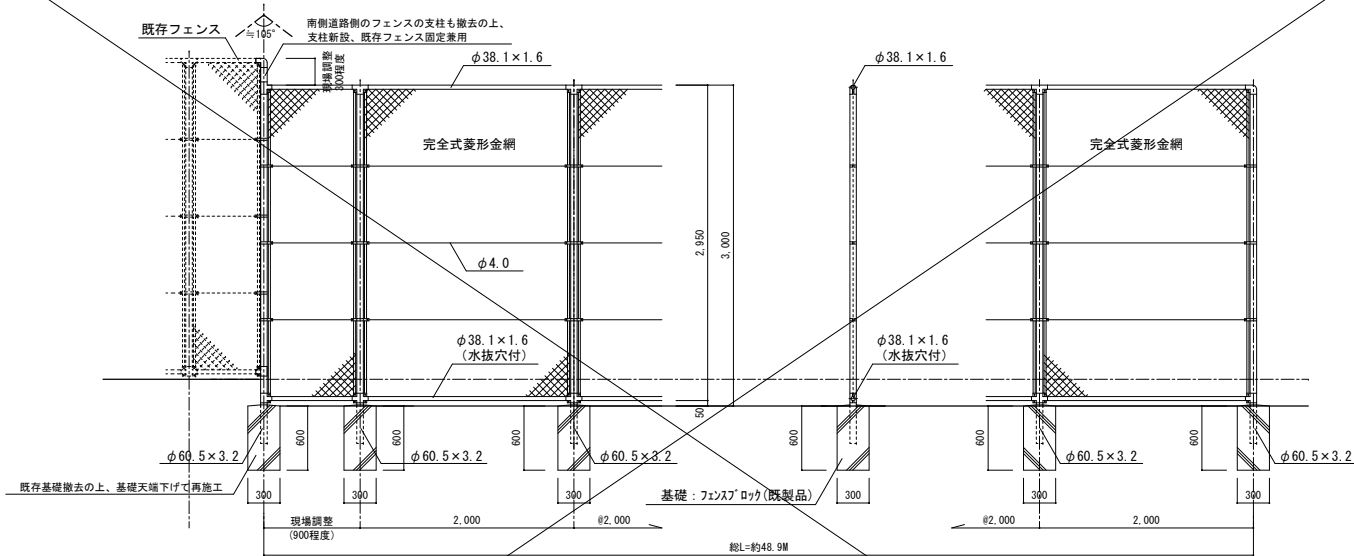
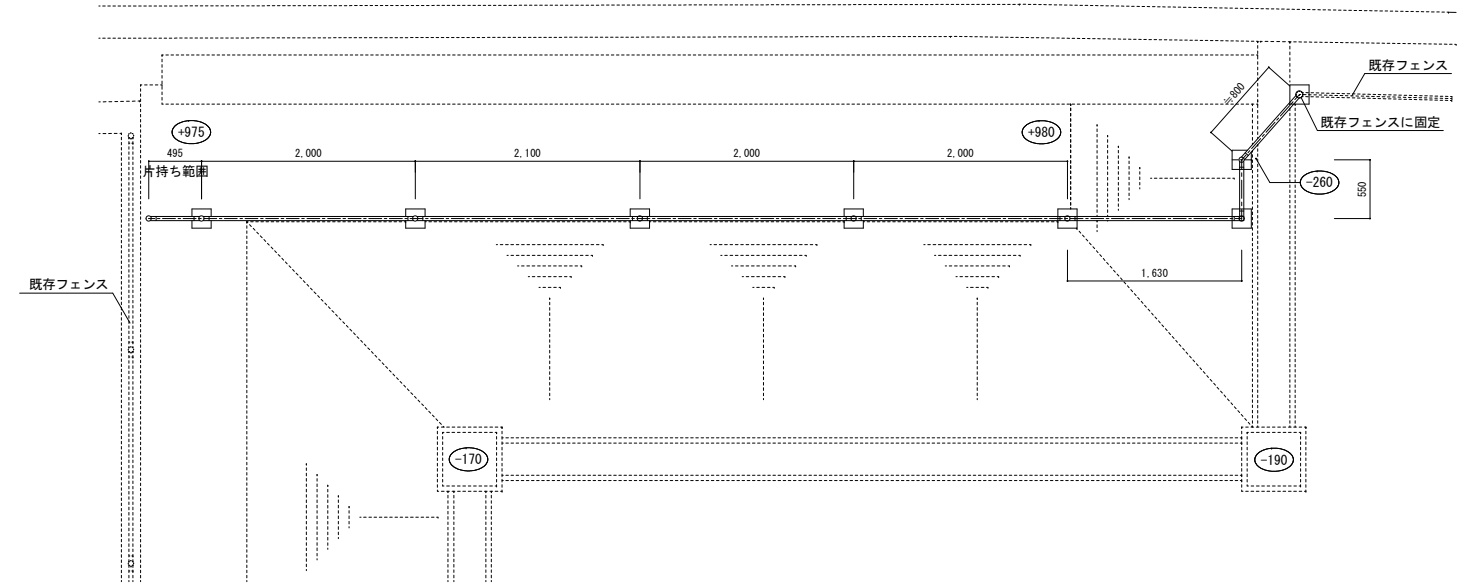
a部(テラスレチング部)詳細 S=1/10



スロープ立上り部詳細図 S=1:30



- 屋外用手すり仕様
- 笠木：半硬質耐候性樹脂二層成形（高耐候・光触媒・抗菌仕様）
- 笠木受：アルミニウム押出形材
- エンドキャップ：樹脂成形品
- 手すり子仕様
- ステンレス手すり子 SLS304 φ42.7×1.5t  
仕上：パフ#400以上（準鏡面）  
ヘアライン仕上



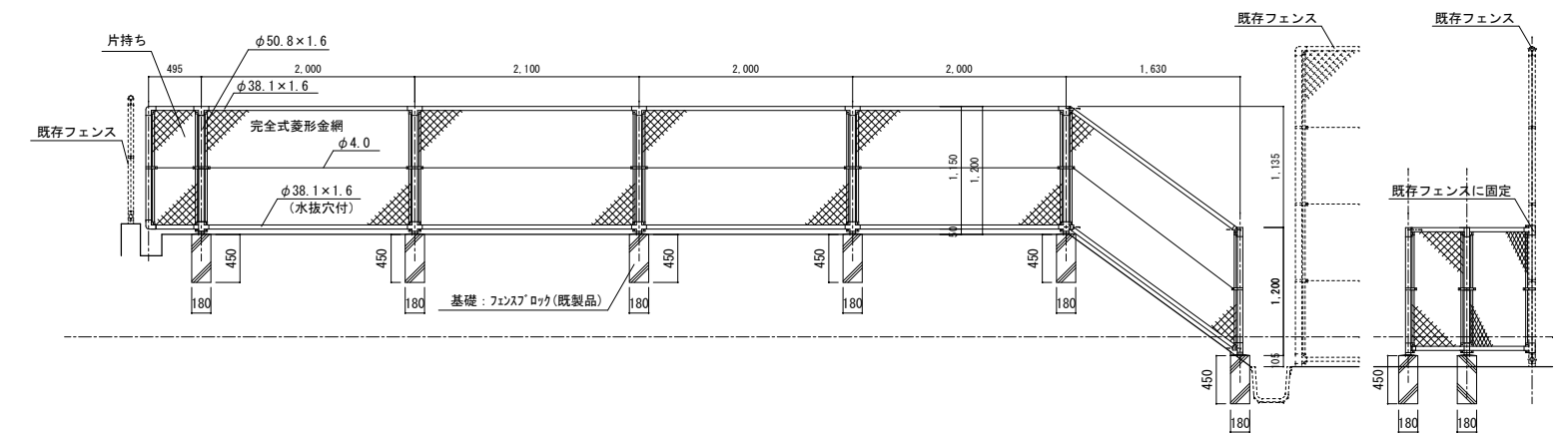
■現況写真

フェンス改修部詳細 1/50

※既存フェンス・基礎撤去の上、新設

設計条件  
設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。  
基礎条件・・・長期許容地耐力 98kN/m<sup>2</sup> (10t/m<sup>2</sup>)

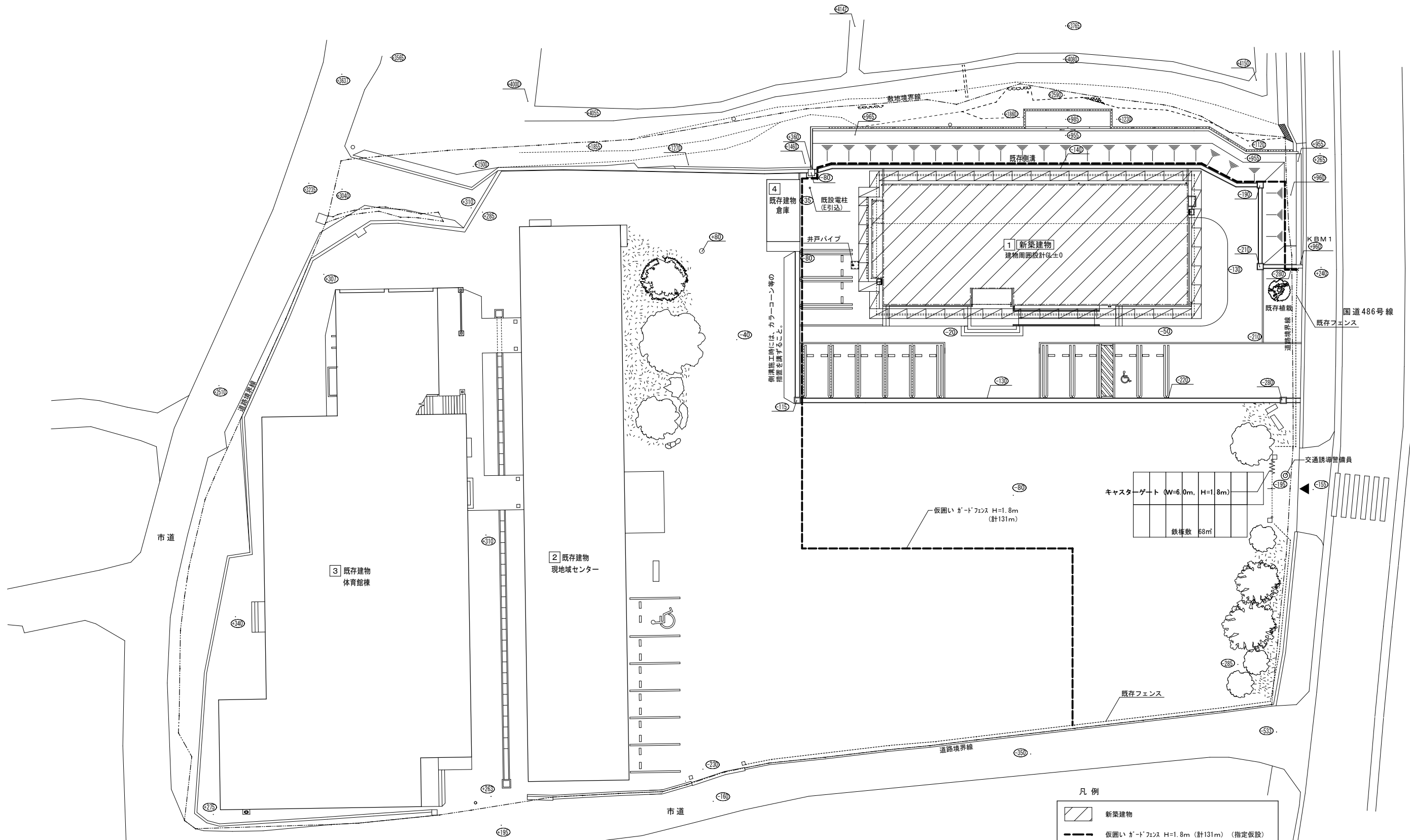
備考  
1. 外装は金網類を除く他は溶融亜鉛めっきとする。  
2. 本欄の金網規格は下記の通りとする。  
φ2. 6×40mm、φ2. 6×56mm  
φ3. 2×50mm、φ3. 2×56mm



フェンス新設部詳細 1/50

設計条件  
設計荷重・・・昭和57年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力に依る。  
基礎条件・・・長期許容地耐力 98kN/m<sup>2</sup> (10t/m<sup>2</sup>)

備考  
1. 外装は金網類を除く他は溶融亜鉛めっきとする。  
2. 本欄の金網規格は下記の通りとする。  
φ2. 6×40mm、φ2. 6×56mm  
φ3. 2×50mm、φ3. 2×56mm



**特記事項**

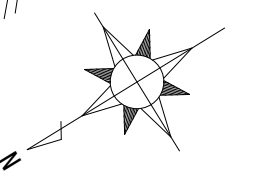
1. 仮設工事においては現場状況を確認のうえ計画を行うこと。
2. 工事関係者と近隣住民との動線交差に十分注意し、安全対策等を行い施工すること。
3. 工事用車両の搬出入等により路面を汚さないようタイヤの洗浄を行うこと。
4. 工事用車両出入口の安全確認及び道路内作業中には適宜、交通誘導警備員を配置する。
5. 粉塵対策としての散水や、工事用車両のタイヤ洗い等に伴う排水を隣接地に流出させないこと。
6. 掘方で発生した土を盛土として使用するため、仮囲い内に、掘削土を一時保管する場所を確保すること。
7. 工事エリア内については、仮囲い撤去後、請負者の責任において現況に復すること。

仮設計画配置図 1/250

KBM1 (擁壁天端) = 標高356.985M  
 設計GL = KBM1 - 960 とする  
 (\*\*\*の数字は設計GLからの高低差を示す。)

**凡例**

	新築建物
	仮囲いガードフェンス H=1.8m (計131m) (指定仮設)
	キャストゲート (W=6.0m, H=1.8m) (指定仮設)
	鉄板敷 t22 (計68㎡) (指定仮設)
	手すり先行くさび緊結式足場
	工事車両出入口
	交通誘導警備員 (計150人) (指定仮設) (敷地内誘導も行うこと)



# 構造設計標準仕様

## 1. 建築物の概要

(1) 工事名称	令和8年度 地域活動拠点整備事業 安宿地域センター新築工事(建築)
建築場所	広島県東広島市豊栄町安宿
(2) 工事種別	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 <input type="checkbox"/> 増築 <input type="checkbox"/> 増改築 <input type="checkbox"/> 改築
(3) 構造種別	木造(W)
(4) 階数	地上 平屋建て
(5) 主要用途	集会所
(6) 屋上附属物	なし
(7) 特別な荷重	なし
(8) 付帯工事	なし
(9) 増築計画	なし
(10) 構造計算ルート	X方向 ルート 1 Y方向 ルート 1

令第39条の規定(屋根ふき材等)

■屋根ふき材、内装材、外装材、帳壁その他これらに類する建築物の部分及び広告塔、裝飾等その他建築物の屋外に取り付けるものは、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃によって脱落しないものとする。

■屋根ふき材、外装材及び屋外に面する帳壁の構造は、構造耐力上安全なものとする。

令第129条の2(3)の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。

■屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水槽等」という。))は、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に、緊結すること。

□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備を除く。))は、

■風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

■建築物の部分を通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

■管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。

■管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防震ゴムを用いる等地震その他の震動及び衝撃の緩和のための有効な措置を講ずること。

□法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水槽等においては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。

□昇降機については、

□昇降機の荷重を建築物本体へ考慮した設計を行う。

□昇降機の受け材が直接取り付く梁、小梁、床等の安全性等の設計を行う。

## 2. 仕様材料

棟	適用箇所	種類	※品質基準強度に温度補正係を加えた呼び強度が39N/mm <sup>2</sup> の場合40N/mm <sup>2</sup> (JIS規格品)とする				備考
			設計基準強度 F <sub>c</sub> -N/mm <sup>2</sup>	品質基準強度 F <sub>q</sub> -N/mm <sup>2</sup>	スラブ厚 cm	比重	
共通	捨コンクリート	普通	18	18	15	2.3	
	土間コンクリート	普通	21	21	15	2.3	
		普通	21	21	15	2.3	
	基礎、基礎梁						
	柱、梁、床、壁						
外構							
押えコンクリート							
混和剤	JIS規格品						

※設計基準強度が36を超えるコンクリートについては、着工前に生コン工場の材料認定書を確認検査機関に提出すること

(2) コンクリートブロック (CB)

□A種 □B種 □C種 厚さ □100、 □120、 □150、 □190

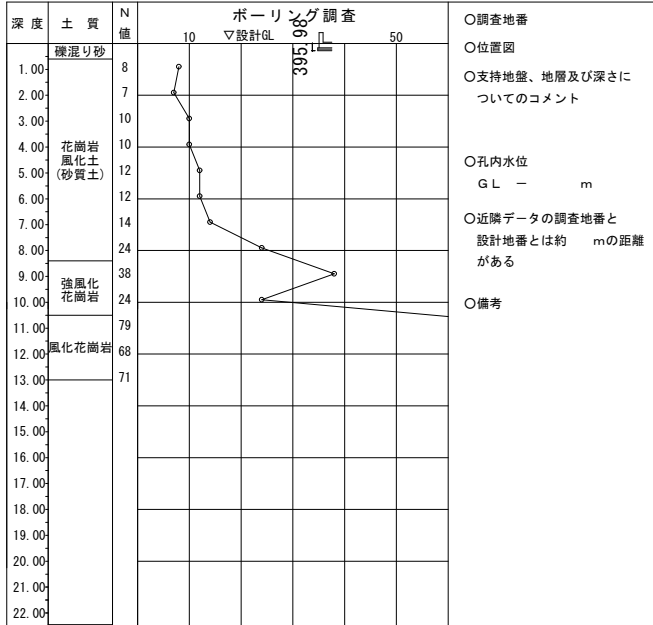
(3) 鉄筋	種類	径	使用箇所	継手工法
	異形鉄筋	SD295A	D16 以下	基礎・スラブ等
SD345		D19~D25		
高強度せん断補強筋				

(4) 鉄骨	種類	径	使用箇所	現場溶接	備考
	鋼材				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
				<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	

(5) ボルト	
<input type="checkbox"/> 高力ボルト <input type="checkbox"/> 普通:F10T <input type="checkbox"/> 特殊:S10T <input type="checkbox"/> 垂給付:F8T 認定品( <input checked="" type="checkbox"/> M16、 <input checked="" type="checkbox"/> M20)	
■中ボルト	高力ボルトすべり係数試験 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否 高力ボルト導入張力確認試験 <input type="checkbox"/> 要 <input type="checkbox"/> 否
■アンカーボルト	M12 SS400
<input type="checkbox"/> 頭付スタッドボルト	φ H= mm 使用箇所 ( 柱 大梁 小梁) φ H= mm 使用箇所 ( 柱 大梁 小梁)

## 3. 地盤

- (1) 地盤調査資料
- 有 敷地内 近隣
  - ボーリング調査 平板載荷試験 水平地盤反力係数の測定 スクリュウエイト貫入試験 現場透水試験 土質試験 液化化判定
  - 追加地盤調査 有 無
- (2) 地盤調査計画
- ボーリング調査 標準貫入試験 水平地盤反力係数の測定 液化化の検討 土質試験 物理検査 平板載荷試験 試験掘(支持層の確認)
- (3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、形状を変更する場合もある。
- (4) スクリューエイト貫入試験、土質構成



## 4. 地業工事

- (1) 地盤調査資料
- ベタ基礎 布基礎 独立基礎 試験掘 有無
  - 深さGL m 支持層— 長期許容支持力度 KN/m<sup>2</sup> 載荷試験有無
- (2) 表層改良工法

工法	材料	施工方法	備考

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書

試験杭 ( 有無 ) ( 打ち込み・載荷 ) 本

コラム径 (mm)	設計基準強度 (kN/m <sup>2</sup> )	改良深さ (m)	本数	特記事項
				( ) 内の数値は隣地低減された支持力を示す

## 5. 鉄筋コンクリート工事

- (1) 鉄筋コンクリート工事
- コンクリートの養生を令第75条の規定に従い行う。
  - コンクリートは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
  - 耐久設計基準強度 F<sub>d</sub>=□般、標準、□長期、□超長期とする。
  - セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
  - 水セメント比は5%以下とする。また、単位水量は185kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量は270kg/m<sup>3</sup>以上とする。
  - 地中壁の水セメント比は5%以下とする。また、単位水量は200kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量は360kg/m<sup>3</sup>以上とする。
  - 設計基準強度が36Nを超える場合の水セメント比は5%以下とする。また単位水量は175kg/m<sup>3</sup>以下、空気量は4.5%、単位セメント量はできるだけ小さい値とする。塩化イオン0.3kg/m<sup>3</sup>以下。調査計画は工事開始前に工事監督員の承認を得ること。
  - 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監督員の承認を得ること。
  - フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
  - 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一資料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
  - 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5 T-603)は、現場水中養生、または現場から養生とし、採取は打込み区ごと、打込み日ごととする。また、打込み量が150m<sup>3</sup>を超える場合は150m<sup>3</sup>ごとは、その回数ごとに一回を標準とする。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4通用に3本を用いる。※高強度コンクリートの場合は150m<sup>3</sup>を100m<sup>3</sup>と換算する。また、圧縮強度の1回の検査は一回につき3個ずつ採取した9個の供試体で行う。
  - ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送の際には、コンクリート圧送設備または同等以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継継中における打撃時間間隔の限度は、外気温が25℃未満の場合は15分0.25℃以上の場合は12分以内とする。
  - コンクリートの打ち込み及び締結の方法についてはJASS5(2009)7第7.5、7.6による。
  - コンクリートの打継ぎ処理はJASS5(2009)7第7.3による。
  - コンクリートの養生についてはJASS5(2009)8による。
  - 36Nを超える高強度コンクリートについてはJASS5(2009)19による。ただし、調査強度決定の材料齢は56日、強度管理材料齢は63日とする。

- (2) 鉄筋
- 鉄筋はJIS G3112の規格品を標準とする。施工はJASS5(2009)による。
  - 高強度せん断補強筋はJIS G3137に規定されるD種1号適合品とする。
  - 鉄筋の加工寸法、加工形状、かぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね高さ、定常長さは「配筋要領図」による。
  - D19未満は、すべて重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
  - ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を超えるときは、200箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
  - 外観検査 有無、引張試験 有無、超音波探傷試験 有無
  - SD490においては必ず施工前試験を圧接に従事する全ての圧接技量資格者に対して行うこと。また、SD490の圧接部は超音波探傷試験を全数で行うこと。
  - 柱の帯筋(HOOP)の加工方法は、H型(タガ型)W型(溶接型)S型(スパイラル型)とする。
  - コンクリート及び鉄筋の試験は第4条の試験機関で行うこと。

試験機関名 工事監督員の指定による  
代行業者名  
代行業者名とは、試験、検査に伴う業務を代行する者をいう。

- (3) 型枠
- 材料 合板厚12mmを標準とする。 ■施工はJASS5による。
  - 型枠存置期間

種類	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁	スラブ下、はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下	スラブ下	はり下
コンクリート	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント
	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種	高炉セメントA種
	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種	シリカセメントA種
コンクリートの圧縮強度	5N/mm <sup>2</sup> 高強度は9N/mm <sup>2</sup>	設計基準強度の50%		設計基準強度の100%				

- 注) 1 片持ばり、底、スパン9.0m以上のはり下は、工事監督員の指示による。  
注) 2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはり下の場合も原則として行わない。  
注) 3 支柱の盛りかえは、必ず直上層のコンクリート打ち後とする。  
注) 4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材、または、これに代わるものを置く。  
注) 5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一瞬に全部の支柱を取り払って盛りかえをしてはならない。  
注) 6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監督員の指示による。

## 6. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
- 日本建築学会「JASS6」「鉄骨精度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
  - 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」
  - (社)鉄骨建設業界「突合せ継手の食違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」

(2) 工事監督員の承認を必要とするもの

- 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
- 材料規格証明書又は試験成績書
- 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 取付スタッド
- 社内検査表

(2) 工事監督員の承認を必要とするもの

- (印以外の項目の検査については、工事監督員に報告すること)
- 現状検査  組立・開先検査  製品検査
- 建方検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

- 東京都アーク溶接工事管理規程(建築構造設計指針第12章)
- 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱(建築構造設計指針第12章)
- 日本建築学会「溶接工作規程、同解説I、II、III、IV、V、VI、VII、VIII」
- 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」

(5) 接合部の検査

- 溶接部の検査(検査結果は後日工事監督員に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監督員	
<input type="checkbox"/> 突合せ溶接部	超音波探傷試験	100%	30%	9%	国土交通省告示第1464号に関する溶接部の検査
	外観(目視)検査	100%	30%	9%	
	マクロ試験				
第三者検査機関名					
第三者検査機関とは、建築主、工事監督員又は施工業者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。					

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者による全数検査を行うこと。  
注2) 現場溶接は超音波探傷試験を100%行うこと。

- 高力ボルトは「JIS B1186の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらかしが50%以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは原則として一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているか検査する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合部の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めポイントは、JIS K5621、2回塗りを標準とする。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の錆調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めポイントを使用し2回塗りとする。
- 溶融亜鉛メッキ(外部階段)

(7) 耐火被覆の材料

- 

## 7. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監督員の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を5cm以上とする。
- 給湯設備は風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする事。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1389号第5に規定する構造方法によること。

## 8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監督員に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を携り保管すること。



有限会社 元廣建築設計事務所  
一級建築士事務所広島県登録 23(1) 第 0951 号

一級建築士登録 第 223245 号  
元廣 匡 伸

工事名: 令和8年度 地域活動拠点整備事業 安宿地域センター新築工事(建築)

図面名:

構造設計標準仕様

縮尺: —  
A2版: 100%  
A3版: 71%

査図: 部長: 課長: 主任: 担当:

日付:

R8年

図番:

S-01

# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

## 1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用し、特記無き事項は「国土交通省大臣官庁官庁 営繕部監修公共建築工事共通仕様書」平成( )年度版に準ずる。  
住宅瑕疵担保履行法による設計施工基準に準拠する必要がある場合はこれを優先する。

(2) 記号  
d...異形棒鋼の呼び名に用いた数値 丸鋼では径 d...異形棒鋼の最大径 D...部材の成 R...直径  
e...間隔 r...半径 c...中心線 l...部材の内寸法距離 h...部材間の内法高さ  
ST...あばら筋 HOOP...帯筋 S.HOOP...補強帯筋 φ...直径又は丸鋼

## 2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

図	折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に折曲げ形状および形状のキャップタイプのみを用いる。
	180°	4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
鉄筋の余長		4d以上	6d以上(※4d以上)	8d以上(※4d以上)	
折曲げ内法寸法R		SR235 : R≥3d SD295A・SD295B・SD345 : (D16以下)R≥3d, (D19以上)R≥4d SD390 : R≥5d			※片持スラブ、L配筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋折曲げ角度90°以下

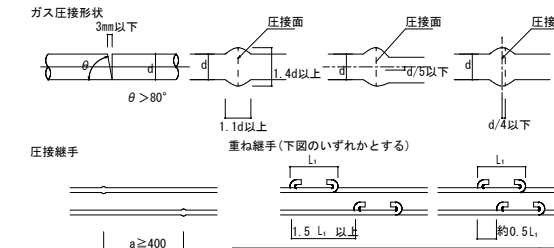
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ以下 D16 19φ以上 D19	3d以上 4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345 ( )内はSD390	16φ以下 D16 19φ~25φ D19~D25 28φ~32φ D29~D38	4d以上(5d以上) 6d以上(6d以上) 8d以上(8d以上)

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手長さ(定着長さは設計図書による。特記の無い場合は下記による)

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲(N/mm <sup>2</sup> )	定着の長さ		定着及び重ね継手の長さ(L <sub>1</sub> )
		一般(L <sub>2</sub> )	下ば筋(L <sub>3</sub> ) 小梁 スラブ	
SR235	21~27	35d フックつき	25d フックつき 15d フックつき	35d フックつき
	18	45d フックつき		45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21~27	35d または 25d フックつき(40d または 30d フックつき)	25d または 15d フックつき 10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき(45d または 35d フックつき)
( )内はSD390	18	40d または 30d フックつき		45d または 35d フックつき

### 継手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が5mmを超える場合は、圧接としてはならない

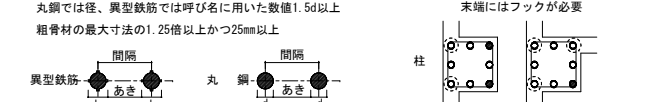


(4) かぶり厚さ(単位: mm)

部	位置	設計かぶり厚さ(最小)	設計かぶり厚さ(最大)
土に接しない部分	屋根スラブ	30	20
	床スラブ	40 <sup>(1)</sup>	30(20)
	はり	40	30
	柱	50 <sup>(2)</sup>	40 <sup>(2)</sup> (30)
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁	50 <sup>(3)</sup>	40
	基礎・壁	50 <sup>(4)</sup>	40 <sup>(4)</sup>

(注)  
1. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて30mmとすることができる。  
2. 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
3. コンクリートの品質及び施工法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。  
4. 軽量コンクリートの場合は、10mm増しとする。  
5. ( )内は柱上げがある場合。  
6. 鉄筋加工時の継手厚さは、設計かぶり厚さを採用し、最小かぶり厚さを下回ることのないようにする。

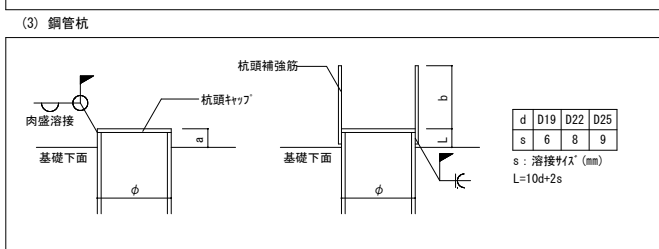
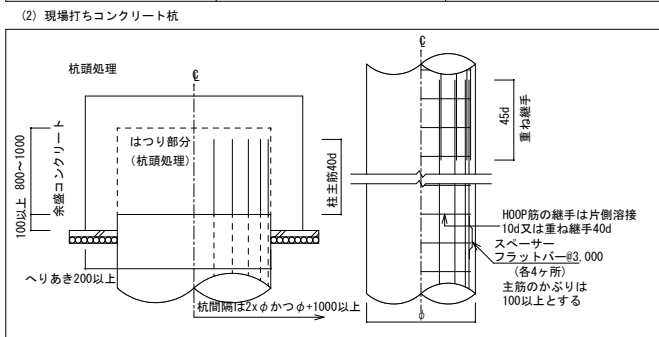
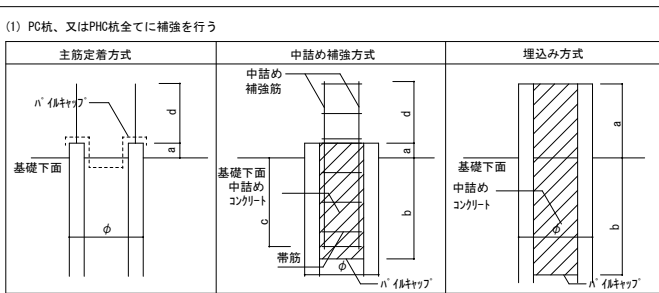
(5) 鉄筋のあき



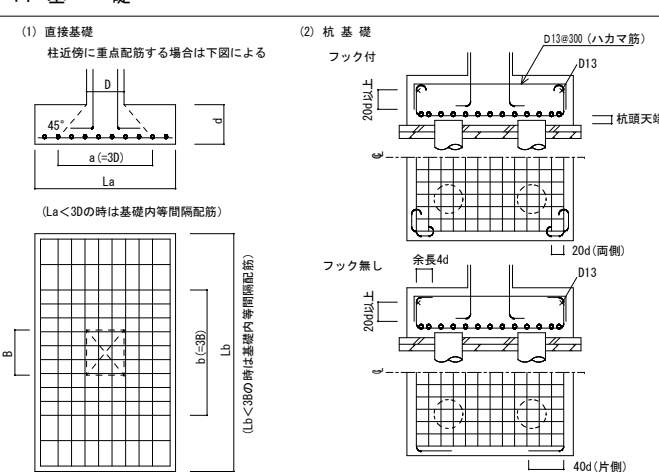
(6) 鉄筋のフック (a-fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。)

- a. 丸鋼
- b. あばら筋、帯筋
- c. 柱、梁(基礎梁を除く)の出ずみ部分の鉄筋(右図参照)
- d. 単純梁の下端筋
- e. その他、本配筋標準に記載する箇所

(7) 杭 (採用する杭種別を明記し、詳細および下記寸法 a~d は設計図書の特記による。)



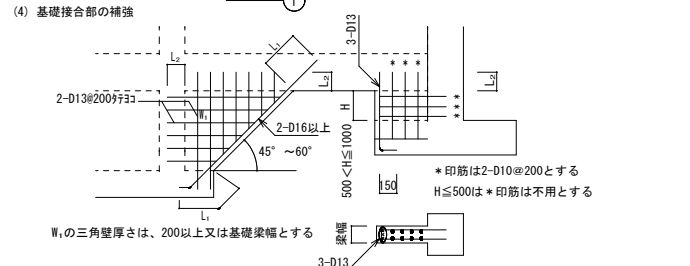
## 4. 基礎



(3) べた基礎

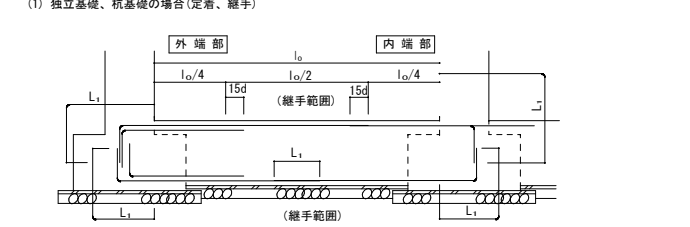


(4) 基礎接合部の補強

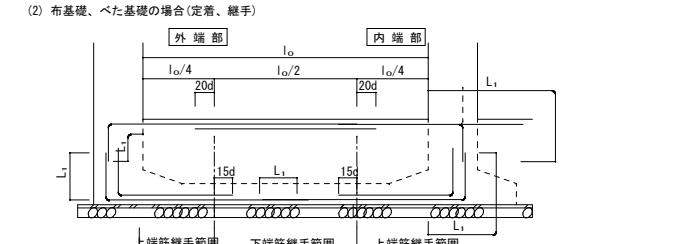


## 5. 基礎梁

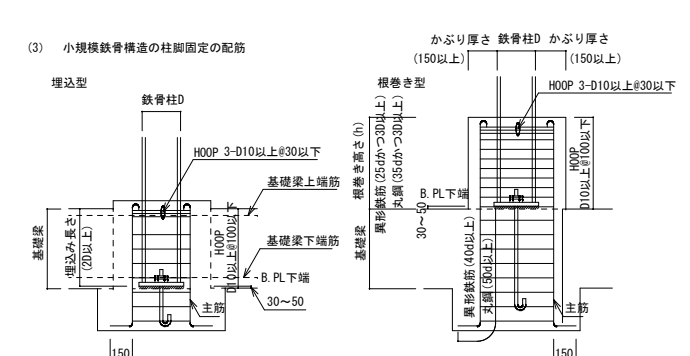
(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)



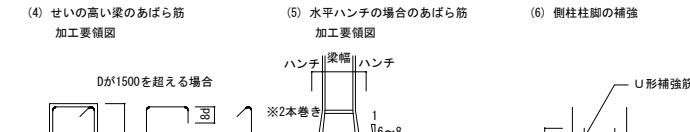
(2) 布基礎、べた基礎の場合(定着、継手)



(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定配筋



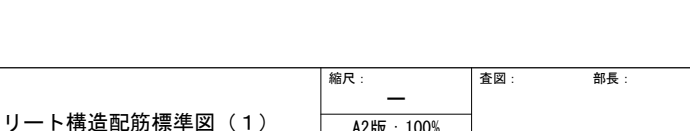
(4) せいの高い梁のあばら筋加工要領図



(5) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領図

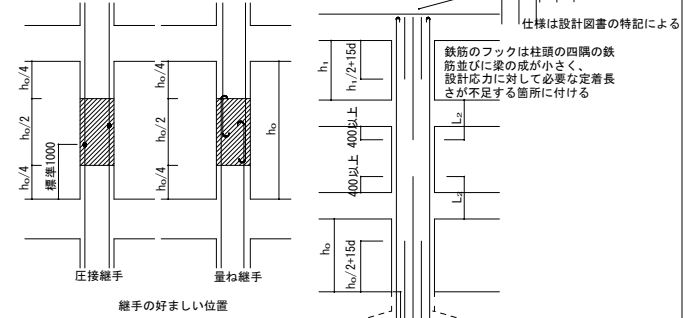


(6) 側柱脚の補強

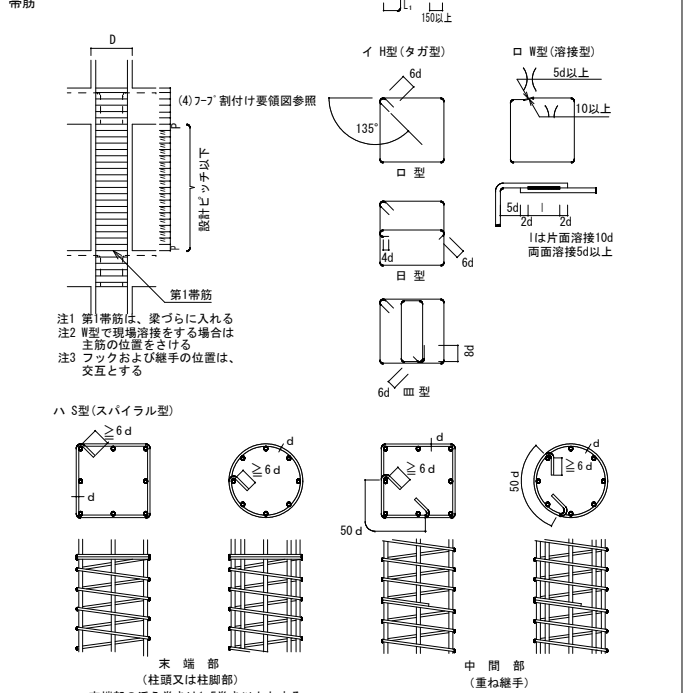


## 6. 柱

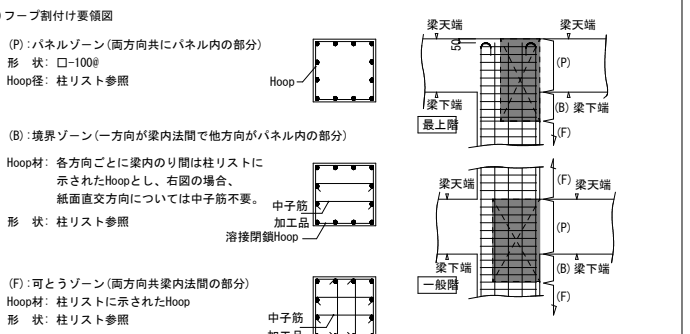
(1) 柱主筋の継手 (2) 柱主筋の定着及び余長さ



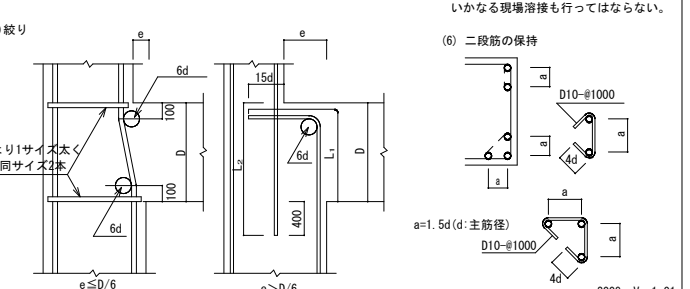
(3) 帯筋



(4) フープ割付け要領図



(5) 絞り

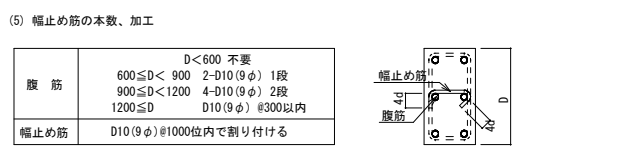
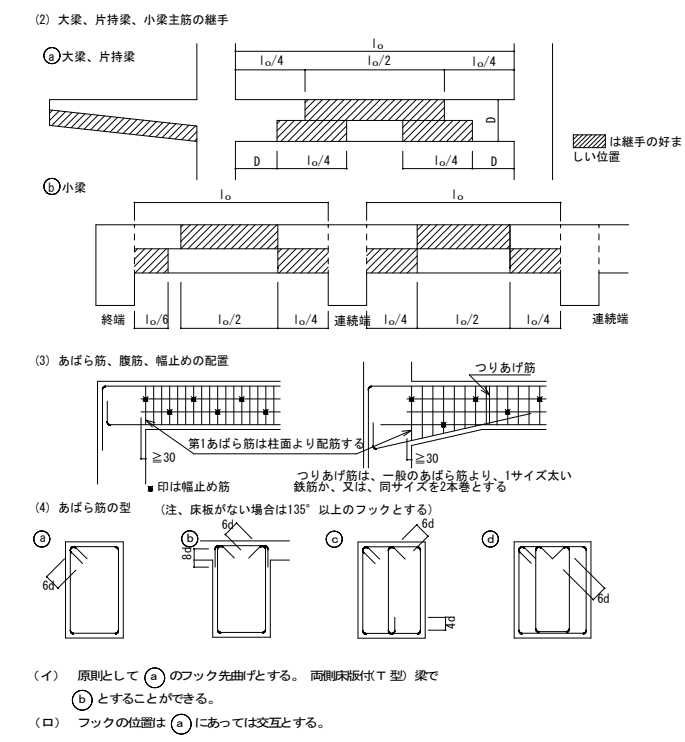
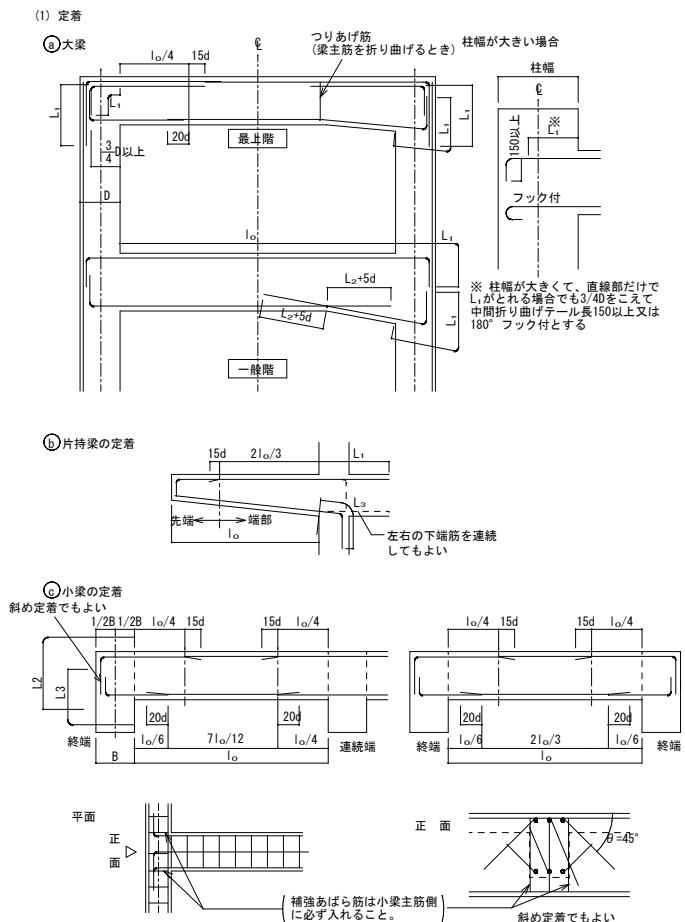


# 鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

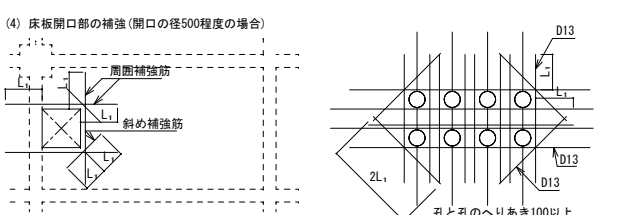
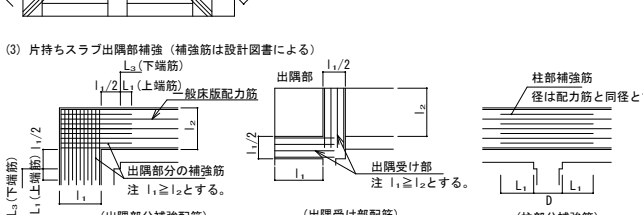
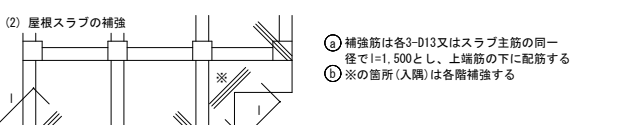
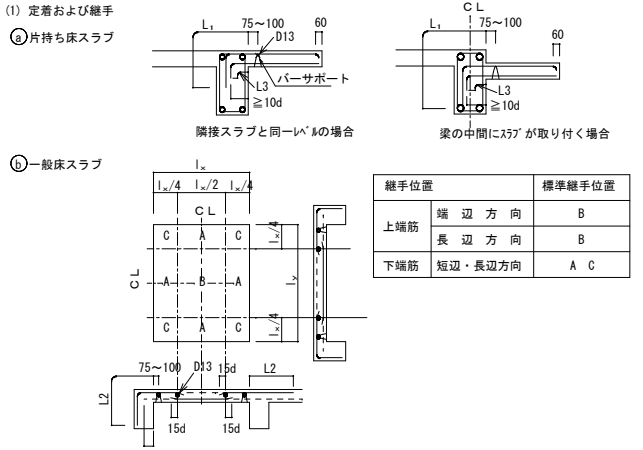
L=鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による。

## 7. 大梁、小梁、片持梁

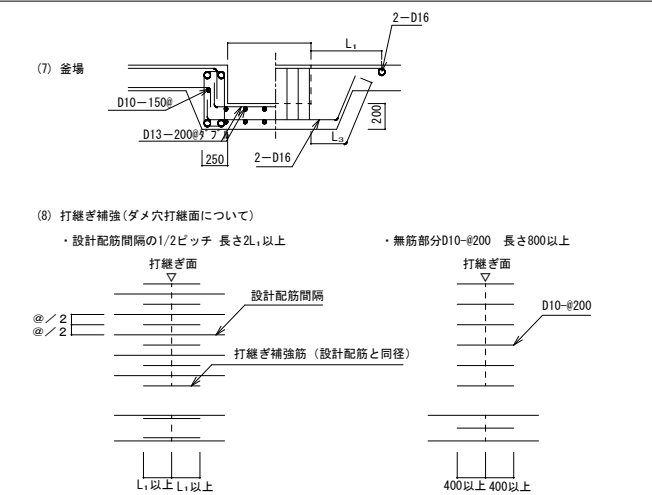
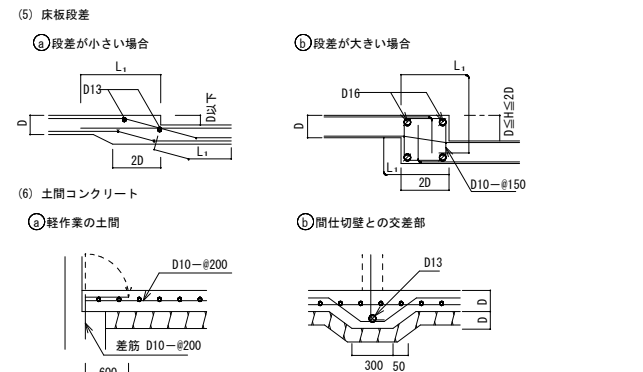
(大梁主筋定着およびカット位置は設計図書の特記による。特記のない場合は下図による。)



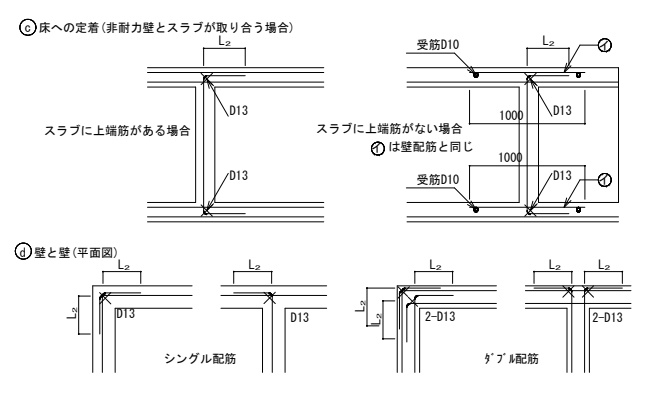
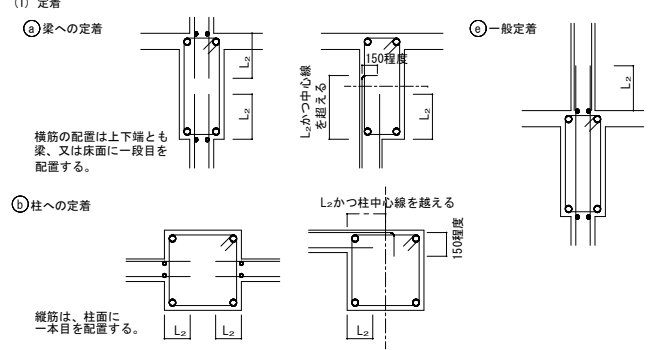
## 8. 床版



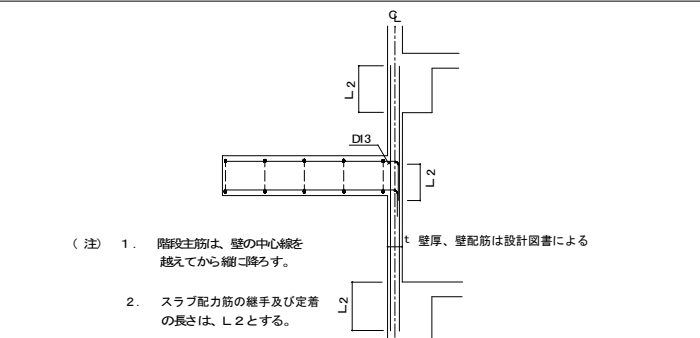
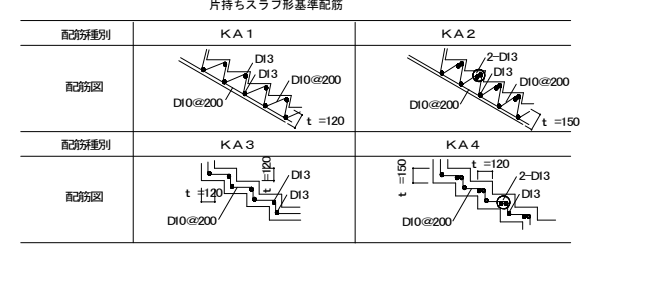
床版厚さD	周囲	斜め
D ≤ 150	各2-D13	各1-D13
150 < D ≤ 200	各2-D13	各2-D13
200 < D ≤ 300	各2-D19	各2-D16



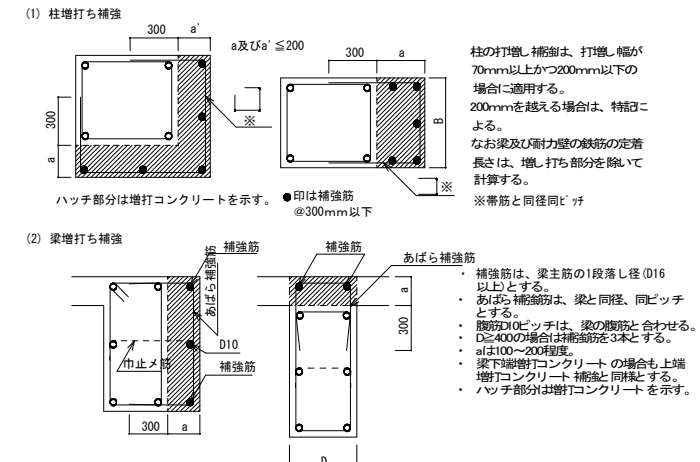
## 9. 壁



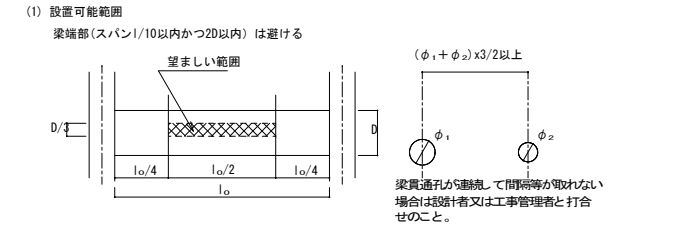
## 10. 階段



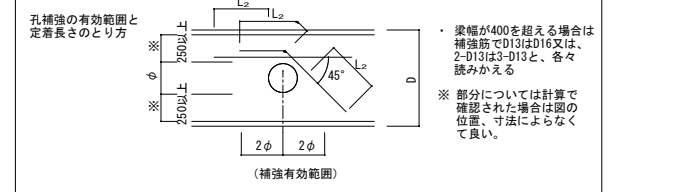
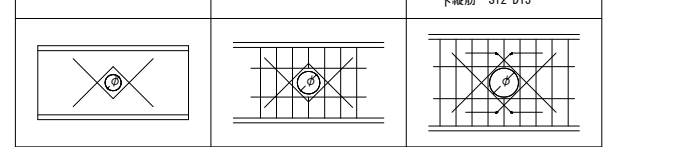
## 11. 柱、梁増打コンクリート補強



## 12. 梁貫通孔補強



80 ≤ φ ≤ 100 折筋 2-(2-D13)	100 < φ ≤ 150 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D13#100 横筋 2-(2-D13)	150 < φ ≤ 250 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13#100 横筋 2-(2-D13) 卡縦筋 ST2-D13
------------------------------	---	--



(3) 既製品 (使用の場合は、設計者又は工事管理者と打合せのこと) (既製品の適用範囲を準拠し、承認を得ること)

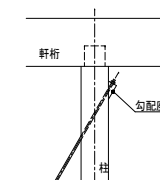
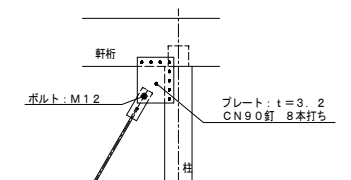
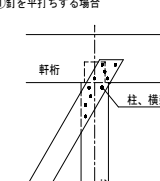
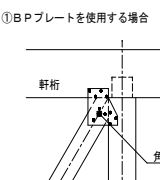
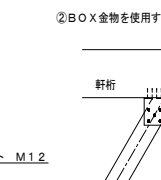
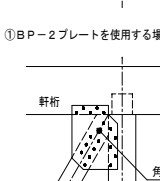
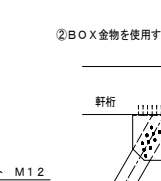

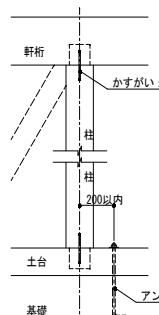
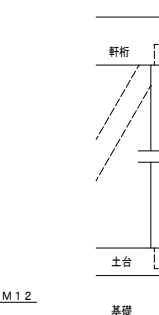
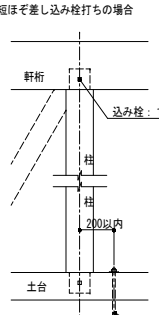
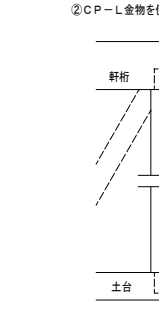
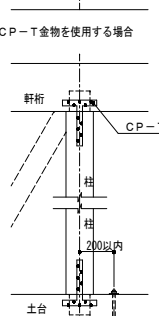
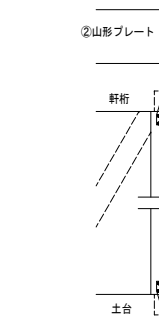
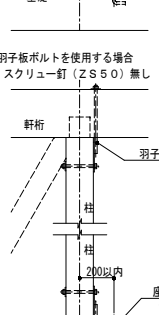
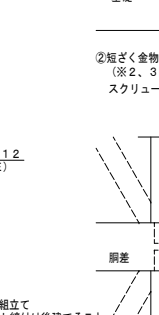
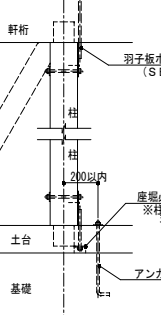
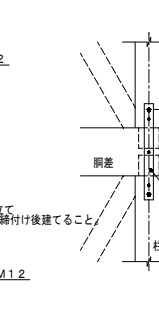
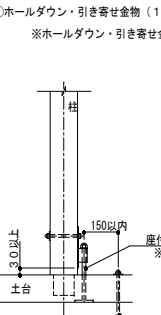
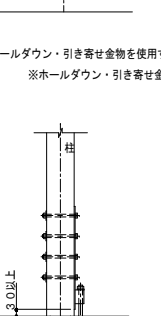
□ リング型 □ バイブ型 □ 金網型 □ プレート型

# 木躯体工事 標準仕様書 (1)

<p>I. 材料</p> <p>I-1. 木材の品質</p> <p>I-2. 木材の樹種</p> <p>I-3. 木材の含水率</p> <p>I-4. 接合金物等</p> <p>II. 指定寸法・仕上げ・養生</p> <p>II-1. 指定寸法</p> <p>II-2. 仕上げ</p> <p>II-3. 養生</p> <p>III. 防蟻・防蟻処理</p> <p>III-1. 適用</p> <p>III-2. 防蟻・防蟻措置を講ずる部分</p> <p>III-3. 薬剤による現場処理</p> <p>III-4. 薬剤による工場処理</p> <p>IV. 軸組</p> <p>IV-1. 土台</p>	<p>1. 構造用製材及び構造用集成材は、日本農林規格（JAS）に適合するものとする。</p> <p>1. 構造用製材は下表による。</p> <table border="1" data-bbox="454 233 878 869"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>部位</th> <th>樹種</th> <th>等級・強度</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">軸</td> <td>土台</td> <td>ひのき</td> <td>E95-F315</td> <td></td> </tr> <tr> <td>管柱</td> <td>すぎ</td> <td>E65-F255</td> <td></td> </tr> <tr> <td>はり</td> <td>すぎ・べいまつ</td> <td>E120-F330</td> <td>ハイブリットビーム</td> </tr> <tr> <td>はり</td> <td>べいまつ</td> <td>E170-F495</td> <td></td> </tr> <tr> <td>筋かい</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">組</td> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">床</td> <td>大引</td> <td>すぎ</td> <td>構造用製材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>根太</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>火打ばり</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">組</td> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">小</td> <td>母屋</td> <td>すぎ・べいまつ</td> <td>E120-F330</td> <td>ハイブリットビーム</td> </tr> <tr> <td>小屋束</td> <td>すぎ</td> <td>E65-F255</td> <td></td> </tr> <tr> <td>タル木</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>普通合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="10">各種ボード</td> <td>耐水合板</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>構造用合板</td> <td>針葉樹合板</td> <td>2級</td> <td>JAS規格品</td> </tr> <tr> <td>パーティクルボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5908</td> </tr> <tr> <td>ハードボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td>硬質木毛セメント板</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5404</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 6901</td> </tr> <tr> <td>シーリングボード</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5905</td> </tr> <tr> <td>ラスシート</td> <td></td> <td></td> <td>JIS A 5524</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>1. 構造材及び下張材の工事現場搬入時の含水率は20%以下とする。</p> <p>1. 接合金物の材質は、日本工業規格（JIS）に適合するものとする。</p> <p>2. 特記なき場合、接合金物は下記による。</p> <p>(1) (財)日本住宅・木材技術センター「接合金物規格（Zマーク表示金物）」による。</p> <p>(2) (財)日本住宅・木材技術センター「枠組壁工法用金物規格（Cマーク表示金物）」による。</p> <p>(3) (株)タツミ クレテック金物工法（同等品）による。</p> <p>1. 木材の断面を表示する寸法で、製材品はひき立寸法、その他の材料にあっては仕上がり寸法とする。</p> <p>1. 丸太はすべて、皮はぎ材とする。</p> <p>2. 見えがかりは、すべてカンナ削り仕上げとする。</p> <p>3. 土台・けた等で継ぎ伸ばしの場合上、やむを得ず短材を使用する場合の長さは、土台にあっては1m内外、その他の材にあっては2m内外とする。</p> <p>4. 継手及び仕口を明示していない場合は、一般慣用の工法による。</p> <p>1. 工事中に汚染や損傷などの恐れのある場合は、経張り・板当て等適当な方法により養生する。</p> <p>1. 防蟻・防蟻措置は、ひのき・ひば等の耐腐朽性及び耐蟻性の大きな樹種の心材若しくは芯持材を用いるか、又は薬剤による防蟻・防蟻処理をおこなうこととする。</p> <p>1. 防蟻・防蟻措置を講ずる木部は次による。</p> <p>(1) 土台、外壁部の柱・間柱、耐力面材及び地下地のうち、地盤面から1m以内の部分。ただし柱にあっては、室内の見えがかり部分を除く。又それぞれの接合部の木口、ほぞ及びほぞ孔を含む。</p> <p>(2) 浴室（浴室ユニットを除く）にあっては、軸組・天井・床組部材で下地材も含むものとする。</p> <p>(3) 台所及び洗面所等の水掛かりのおそれのある箇所の軸組・天井・床組部材で下地材も含むものとする。</p> <p>2. 防蟻のための土壌処理をおこなう場合は特記による。</p> <p>1. 薬剤の品質は、次による。</p> <p>(1) 木部の防蟻処理に使用する薬剤の品質は、JISK1570（木材防蟻剤）に適合する規格品とする。</p> <p>(2) 木材の防蟻処理に使用する薬剤の品質は、(社)日本しろあり対策協会又は(社)日本木材保存協会認定の防蟻剤とする。</p> <p>(3) 土壌の防蟻処理に使用する薬剤の品質は、(社)日本しろあり対策協会又は(社)日本木材保存協会認定の土壌処理剤とする。</p> <p>2. 薬剤を使用する場合の木材処理方法は、次による。</p> <p>(1) 塗布、吹付、浸漬に使用する薬剤の量は、木材及び合板の表面積1㎡につき300mlを標準とする。</p> <p>(2) 処理にむらが生じないように、上記1)の範囲内での量で、2回以上処理すること。</p> <p>(3) 木材の木口・仕口・継手の接合箇所、亀裂部分、コンクリート及び石などに接する部分は特に入念な処理を行う。</p> <p>1. 工場処理による防蟻・防蟻処理材は、次による。</p> <p>(1) 製材のJASの保存処理（K1を除く）の規格に適合するものとする。</p> <p>(2) JISA9108（土台用加圧式防蟻処理木材）の規格に適合するものとする。</p> <p>(3) JISK1570に定める加圧注入用防蟻剤を用いて、JISA9002による加圧式防蟻処理をおこなった木材とする。</p> <p>(4) (社)日本木材保存協会認定の加圧注入用木材防蟻剤を用いてJISA9002による加圧式防蟻処理をおこなった木材とする。</p> <p>2. 現場での加工・切断・穿孔箇所等は、III-3-2に準じて、塗布あるいは吹きつけ処理をおこなう。</p> <p>1. 断面寸法は、柱と同寸以上とし105mm×105mmを標準とする。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2. 継手は、柱及び床下換気口の位置を避け、腰掛け又は継ぎ又は腰掛けかま継ぎとする。</p> <p>3. 仕口は次による。</p> <p>(1) 隅部接合部は、大入れかねほぞ差し割りくさび締め又は片あり掛けとする。</p> <p>(2) T字取合部及び十字取合部は、大入れあり掛けとする。</p> <p>4. 金物による継手・仕口は、金物メーカーの仕様による。</p>	場所	部位	樹種	等級・強度	備考	軸	土台	ひのき	E95-F315		管柱	すぎ	E65-F255		はり	すぎ・べいまつ	E120-F330	ハイブリットビーム	はり	べいまつ	E170-F495		筋かい	すぎ	構造用製材		組	その他												床	大引	すぎ	構造用製材		根太				火打ばり				組	その他												小	母屋	すぎ・べいまつ	E120-F330	ハイブリットビーム	小屋束	すぎ	E65-F255		タル木				その他				普通合板				各種ボード	耐水合板				構造用合板	針葉樹合板	2級	JAS規格品	パーティクルボード			JIS A 5908	ハードボード			JIS A 5905	硬質木毛セメント板			JIS A 5404	せっこうボード			JIS A 6901	シーリングボード			JIS A 5905	ラスシート			JIS A 5524									<p>IV-2. 火打土台</p> <p>IV-3. 柱</p> <p>IV-4. 間柱</p> <p>IV-5. 横架材</p> <p>IV-6. 通し貫</p> <p>V. 耐力壁</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>V-2. 木ずり</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p> <p>VI. 小屋組</p> <p>VI-1. 小屋ばり</p> <p>VI-2. 小屋づか</p> <p>VI-3. むな木・母屋</p> <p>1. 木材の火打土台とする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、45mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 見つけ平使いとし、土台との仕口は、かたぎ大入れとし、N90釘2本平打ちとする。</p> <p>2. 鋼製火打とする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 柱の断面寸法は、次による。</p> <p>1) 管柱の断面寸法は、105mm×105mm以上とする。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2) 通し柱の断面寸法は、120mm×120mm以上とする。</p> <p>2. 柱端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かい及び面材耐力壁が取り付く柱の端部と土台及び横架材の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>1. 横架材との仕口は、大入れとし、N75釘2本を斜め打ちする。</p> <p>2. 筋かい当たりは、間柱を切り欠きN75釘2本を平打ちする。</p> <p>3. 通し貫当たりは、添え付けて、N65釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態及びスパンを勘案して適切なものとして特記する。</p> <p>2. 継手は、はり及び筋かいを受ける柱間を避け、柱より持ち出し、追掛け大せみ継ぎ又は腰掛けかま継ぎとし、継手用金物（じ止め）を使用する。</p> <p>3. 通し柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、金物の補強は次のいづれかによる。</p> <p>1) 短ざく金物当てM12六角ボルト締め、スクリュー釘打ちとする。</p> <p>2) かね折り金物当てM12六角ボルト締め、スクリュー釘打ちとする。</p> <p>3) M12羽子板ボルト締めとする。</p> <p>4. 金物による継手又は仕口は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>5. 耐力壁内で継手を設ける場合の補強金物は、係員の指示による。</p> <p>6. 梁等の横架材は、令第44条に適合の事。</p> <p>1. 柱に差し通し、両面からクサビ締めの釘打ちとする。</p> <p>1. 筋かいの耐力倍率による仕様は、次による。</p> <p>1) 壁倍率1.0</p> <p>・断面寸法が15mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>・径9mm以上の鉄筋を使用する。</p> <p>2) 壁倍率1.5</p> <p>・断面寸法が30mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>3) 壁倍率2.0</p> <p>・断面寸法が45mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>4) 壁倍率3.0</p> <p>・断面寸法が90mm×90mm以上の木材を使用する。</p> <p>2. 筋かい端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>3. 筋かいが取り付く柱端部の仕口は、国土交通省告示第1460号による。</p> <p>1. 断面寸法は、12mm×75mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、柱・間柱間で突付け、5枚以上毎に乱継ぎとする。</p> <p>3. 柱・間柱等への留め付けは、板そば20mm程度に目渡し張りとし、それぞれN50釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 面材耐力壁の仕様は、次による。</p> <p>1) 構造用合板はJASに適合するもので、接着の程度は特類とし、厚さは7.5mm以上とする。</p> <p>2) パーティクルボードはJISA5908に適合するもので、種類は曲げ強さの区分が8タイプ以外のものとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>3) 構造パネルは、JASに適合するものとする。</p> <p>4) ハードボードは、JISA5905に適合するもので、曲げ強さの種類は35タイプ又は45タイプとし、厚さは5mm以上とする。</p> <p>5) 硬質木片セメント板はJISA5417に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>6) セッコボードはJISA6901に適合するもので、厚さは12mm以上とする。</p> <p>7) シーリングボードはJISA5905に適合するもので、種類はシーリングインシュレーションボードとし、厚さは12mm以上とする。</p> <p>8) ラスシートはJISA5524に適合するもので、種類はLS4とする。</p> <p>2. 面材耐力壁の張り付け釘種類及び間隔は、国土交通省告示第1100号による。</p> <p>3. 面材耐力壁の張り付け方法は、次による。</p> <p>1) 構造用面材は、柱・間柱及び土台・はり・けた・その他の横架材に確実に釘で留め付ける。</p> <p>2) 建物の2階にわたり上下同位置に構造用面材壁を設ける場合は、胴差し部において構造用面材相互間に原則として6mm以上の隙間を設ける。</p> <p>3) 柱・梁以外の場所でもやむをえず構造用面材を継ぐ場合は、間柱及び胴差等の断面は45mm×65mm以上とする。</p> <p>4) 構造用面材は原則として縦張りとする。</p> <p>4. 構造用面材の地下に受け材を用いる場合は、次による。（真壁造の面材耐力壁仕様）</p> <p>1) 受け材の断面寸法は、40mm×60mm以上とする。</p> <p>2) 受け材は、柱及びはり・けた・土台又はその他の横架材に、N90釘で300mm以下の間隔で平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン及びはり間隔等を勘案して適切なものとして特記による。</p> <p>2. 末口135mm以上の丸太の継手は、受け材上で台持ち継ぎとし、下木にだば2本を補込みみずがい両面打ちとするか又はM12六角ボルト2本締めとする。受材当たりは渡りあごとし、手違いがくい打ちとする。</p> <p>3. 末口135mm未満の丸太の継手は、受け材上でやりちがいとし、M12六角ボルト2本締めとする。受材当たりは渡りあごとし手違いがくい打ちとする。</p> <p>4. 軒げた又は敷けたとの仕口は、かぶとあり掛け又は渡りあごとし、いずれもM12羽子板ボルト締めとする。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2. 端部仕口は、短ほぞ差しとし、かすがい両面打ち又はひら金物当て釘打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、次による。</p> <p>1) 母屋の断面寸法は、90mm×90mm以上とし、たる木当りの欠き込み等がある場合は正味断面として確保する。ただし多雪地域においては特記による。</p> <p>2) むな木の断面寸法は、母屋の断面寸法以上とし、たる木当りの欠き込み等を考慮して、特記する。</p> <p>3) 継手は、つかの位置を避け、つかより持ち出して、腰掛けかま継ぎ又は腰掛あり継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</p> <p>4) T字部の仕口は、大入れあり掛けとし、ふ節よりかすがい打ちとする。</p>	<p>IV-4. 間柱</p> <p>IV-5. 横架材</p> <p>IV-6. 通し貫</p> <p>V. 耐力壁</p> <p>V-1. 筋かい</p> <p>V-2. 木ずり</p> <p>V-3. 面材耐力壁</p> <p>VI. 小屋組</p> <p>VI-1. 小屋ばり</p> <p>VI-2. 小屋づか</p> <p>VI-3. むな木・母屋</p> <p>1. 断面寸法は、15mm×60mm以上とする。</p> <p>2. 留めつけは、つかに添えつけ、N50釘2本を平打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、軒の出等を勘案し適切なものとして特記による。</p> <p>2. 継手は、乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</p> <p>3. 軒先以外の留めつけは、受け材当りN75釘で両面から斜め打ちとする。ただし、たる木のせいが45mm以下の場合はN90釘を脇天打ちとすることができる。</p> <p>4. 軒先部の留めつけは、けたにひねり金物、・折り曲げ金物又はくら金物当て釘打ちとする。</p> <p>1. 垂木と間断面の転び止め材を載せ、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面にN75釘4本（表2本と裏2本を千鳥配置）を斜め打ち</p> <p>1. 木材の火打ちばりとする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 横架材との仕口は、かたぎ大入れとし、M12六角ボルト引きとする。</p> <p>2. 鋼製の火打ちばりとする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、床づか心から150mm程度持ち出し、相欠き継ぎのうえN75釘2本打ちとするか、腰掛あり継ぎとする。</p> <p>3. 土台との仕口は、大入れあり掛け、腰掛け又は乗せ掛けとし、いづれもN75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 大引との仕口は、突付けとしN75釘を斜め打ちのうえ、ひら金物当て釘打ち又はかすがい打ちとする。</p> <p>3. 下部は、つか石・土間コンクリートに突付けとし、根がらみを添えつけ釘打ちとする。又床づかが浮き上がらないような措置を講ずること。</p> <p>4. 鋼製床づかを使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、24mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継ぎ手は、柱間で突付け継ぎとしN75釘2本を平打ちとする。</p> <p>3. 留めつけは、柱・間柱当りにN75釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、45mm×60mm以上とする。ただし下地大引間隔が900mmを超えるときは45mm×105mm以上とする。ただし下地大引間隔は1,800mmを最大とする。</p> <p>2. 根太間隔は、畳床の場合は450mm内外とし、その他の場合は300mm内外とする。</p> <p>3. 継手は、受材間で突付け継ぎとしN90釘打ちとする。</p> <p>4. はり又は大引との仕口は、掛渡しとしN75釘2本斜め打ちとする。ただし、根太のせいが90mm以上の場合は大入れ渡りあご掛けとし、N75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン、はり間隔等を勘案して適切なものとし、特記による。</p> <p>2. 継手は、次のいづれかによる。</p> <p>1) 受材上で大材を下にして台持ち継ぎとしてM12六角ボルト2本締めとする。</p> <p>2) 受材より150mm内外持出し、追掛け大せみ継ぎとする。</p> <p>3) はりせいが120mm程度のものは、大材を受材より150mm内外持出し上端をそろえ、腰掛けかま継ぎ又は腰掛あり継ぎとし、短ざく金物面当てM12六角ボルト締め釘打ちとする。</p> <p>3. 仕口は、次のいづれかによる。</p> <p>1) 柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、羽子板ボルト締め又は箱金ボルト締めとする。</p> <p>2) T字取合は、大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。</p> <p>3) 受材が横架材の場合は、渡りあご掛けとする。</p> <p>4. 継手及び仕口に製成品の金物を使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 火打ちばりは前項 VI. 小屋組 VI-6. 火打ちばりに準ずる。</p> <p>1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。</p> <p>2. 基礎の構造は、次のいづれかとする。</p> <p>1) 布基礎</p> <p>2) 腰壁と一体となった布基礎</p> <p>3) ベタ基礎</p> <p>3. 構造体は、一体の鉄筋コンクリート造とする。</p> <p>4. 基礎の深さは、設計耐力の地盤まで掘り下げるとともに、建設地域の凍結深度より深くする。</p> <p>5. 立上り部分の深さは、地盤面より300mm以上とする。</p> <p>6. 立上り部分の巾は、120mm以上でかつ土台幅より大きくする。</p> <p>7. 基礎の寸法及び配筋は特記による。</p> <p>1. 鉄筋は、JISG3112又はJISG3117のJISマーク表示品とし、その種類及び径は特記による。</p> <p>2. 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。</p> <p>3. 鉄筋の継手は、D16以下では重ね継手、D19以上ではガス圧接継手とする。</p> <p>4. 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。</p> <p>5. 鉄筋の最小かぶり厚さは、基礎の立上り部分においては50mm以上、底盤においては70mm以上とする。</p> <p>1. アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM12アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。</p> <p>1) 構造耐力壁の部分は、その両端の柱心から200mm内外の位置に埋設する。</p> <p>2) 土台の切れ箇所、土台の継手及び仕口箇所の土台端部</p> <p>3) 上記以外の部分においては、間隔2.0m以内の位置に埋設する。</p> <p>3. アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは250mm以上とし、ボルトネジ部の先端は、土台の上端においてナットの外にネジ山が3山以上出るようにする。</p> <p>4. アンカーボルトの保持及び埋込み工法は、特記が無ければアンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠に固定しコンクリートの打込みを行うものとする。</p> <p>1. ホールダウン専用アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM16アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設位置は設計図書の特記による。</p> <p>3. ホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは360mm以上とする。</p> <p>4. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は、取り付く柱の位置に専用工具を用い正確に埋め込むこと。</p>	<p>1. 断面寸法は、15mm×60mm以上とする。</p> <p>2. 留めつけは、つかに添えつけ、N50釘2本を平打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、軒の出等を勘案し適切なものとして特記による。</p> <p>2. 継手は、乱に配置し、母屋上端でそぎ継ぎとし、N75釘2本打ちとする。</p> <p>3. 軒先以外の留めつけは、受け材当りN75釘で両面から斜め打ちとする。ただし、たる木のせいが45mm以下の場合はN90釘を脇天打ちとすることができる。</p> <p>4. 軒先部の留めつけは、けたにひねり金物、・折り曲げ金物又はくら金物当て釘打ちとする。</p> <p>1. 垂木と間断面の転び止め材を載せ、転び止め材の側面から軒桁・母屋・棟木の上面にN75釘4本（表2本と裏2本を千鳥配置）を斜め打ち</p> <p>1. 木材の火打ちばりとする場合は、次による。</p> <p>1) 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2) 横架材との仕口は、かたぎ大入れとし、M12六角ボルト引きとする。</p> <p>2. 鋼製の火打ちばりとする場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継手は、床づか心から150mm程度持ち出し、相欠き継ぎのうえN75釘2本打ちとするか、腰掛あり継ぎとする。</p> <p>3. 土台との仕口は、大入れあり掛け、腰掛け又は乗せ掛けとし、いづれもN75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、90mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 大引との仕口は、突付けとしN75釘を斜め打ちのうえ、ひら金物当て釘打ち又はかすがい打ちとする。</p> <p>3. 下部は、つか石・土間コンクリートに突付けとし、根がらみを添えつけ釘打ちとする。又床づかが浮き上がらないような措置を講ずること。</p> <p>4. 鋼製床づかを使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 断面寸法は、24mm×90mm以上とする。</p> <p>2. 継ぎ手は、柱間で突付け継ぎとしN75釘2本を平打ちとする。</p> <p>3. 留めつけは、柱・間柱当りにN75釘2本を平打ちする。</p> <p>1. 断面寸法は、45mm×60mm以上とする。ただし下地大引間隔が900mmを超えるときは45mm×105mm以上とする。ただし下地大引間隔は1,800mmを最大とする。</p> <p>2. 根太間隔は、畳床の場合は450mm内外とし、その他の場合は300mm内外とする。</p> <p>3. 継手は、受材間で突付け継ぎとしN90釘打ちとする。</p> <p>4. はり又は大引との仕口は、掛渡しとしN75釘2本斜め打ちとする。ただし、根太のせいが90mm以上の場合は大入れ渡りあご掛けとし、N75釘2本斜め打ちとする。</p> <p>1. 断面寸法は、荷重の状態、スパン、はり間隔等を勘案して適切なものとし、特記による。</p> <p>2. 継手は、次のいづれかによる。</p> <p>1) 受材上で大材を下にして台持ち継ぎとしてM12六角ボルト2本締めとする。</p> <p>2) 受材より150mm内外持出し、追掛け大せみ継ぎとする。</p> <p>3) はりせいが120mm程度のものは、大材を受材より150mm内外持出し上端をそろえ、腰掛けかま継ぎ又は腰掛あり継ぎとし、短ざく金物面当てM12六角ボルト締め釘打ちとする。</p> <p>3. 仕口は、次のいづれかによる。</p> <p>1) 柱との仕口は、かたぎ大入れ短ほぞ差しとし、羽子板ボルト締め又は箱金ボルト締めとする。</p> <p>2) T字取合は、大入れあり掛けとし、羽子板ボルト締めとする。</p> <p>3) 受材が横架材の場合は、渡りあご掛けとする。</p> <p>4. 継手及び仕口に製成品の金物を使用する場合は、金物メーカーの仕様による。</p> <p>1. 火打ちばりは前項 VI. 小屋組 VI-6. 火打ちばりに準ずる。</p> <p>1. 基礎は、1階の外周部及び内部耐力壁の直下に設ける。</p> <p>2. 基礎の構造は、次のいづれかとする。</p> <p>1) 布基礎</p> <p>2) 腰壁と一体となった布基礎</p> <p>3) ベタ基礎</p> <p>3. 構造体は、一体の鉄筋コンクリート造とする。</p> <p>4. 基礎の深さは、設計耐力の地盤まで掘り下げるとともに、建設地域の凍結深度より深くする。</p> <p>5. 立上り部分の深さは、地盤面より300mm以上とする。</p> <p>6. 立上り部分の巾は、120mm以上でかつ土台幅より大きくする。</p> <p>7. 基礎の寸法及び配筋は特記による。</p> <p>1. 鉄筋は、JISG3112又はJISG3117のJISマーク表示品とし、その種類及び径は特記による。</p> <p>2. 鉄筋は、設計図書に指定された寸法及び形状に合わせ、常温で正しく加工する。</p> <p>3. 鉄筋の継手は、D16以下では重ね継手、D19以上ではガス圧接継手とする。</p> <p>4. 有害な曲がり、ひび割れ、ささくれ等の損傷のある鉄筋を使用してはならない。</p> <p>5. 鉄筋の最小かぶり厚さは、基礎の立上り部分においては50mm以上、底盤においては70mm以上とする。</p> <p>1. アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM12アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. アンカーボルトの埋設位置は、次による。</p> <p>1) 構造耐力壁の部分は、その両端の柱心から200mm内外の位置に埋設する。</p> <p>2) 土台の切れ箇所、土台の継手及び仕口箇所の土台端部</p> <p>3) 上記以外の部分においては、間隔2.0m以内の位置に埋設する。</p> <p>3. アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは250mm以上とし、ボルトネジ部の先端は、土台の上端においてナットの外にネジ山が3山以上出るようにする。</p> <p>4. アンカーボルトの保持及び埋込み工法は、特記が無ければアンカーボルトを鉄筋等を用いて組み立て、適切な補助材で型枠に固定しコンクリートの打込みを行うものとする。</p> <p>1. ホールダウン専用アンカーボルト及び産金は、Zマーク表示金物のM16アンカーボルト、産金とする。</p> <p>2. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設位置は設計図書の特記による。</p> <p>3. ホールダウン専用アンカーボルトのコンクリートへの定着長さは360mm以上とする。</p> <p>4. ホールダウン専用アンカーボルトの埋設方法は、取り付く柱の位置に専用工具を用い正確に埋め込むこと。</p>
場所	部位	樹種	等級・強度	備考																																																																																																																															
軸	土台	ひのき	E95-F315																																																																																																																																
	管柱	すぎ	E65-F255																																																																																																																																
	はり	すぎ・べいまつ	E120-F330	ハイブリットビーム																																																																																																																															
	はり	べいまつ	E170-F495																																																																																																																																
	筋かい	すぎ	構造用製材																																																																																																																																
組	その他																																																																																																																																		
床	大引	すぎ	構造用製材																																																																																																																																
	根太																																																																																																																																		
	火打ばり																																																																																																																																		
組	その他																																																																																																																																		
小	母屋	すぎ・べいまつ	E120-F330	ハイブリットビーム																																																																																																																															
	小屋束	すぎ	E65-F255																																																																																																																																
	タル木																																																																																																																																		
	その他																																																																																																																																		
	普通合板																																																																																																																																		
各種ボード	耐水合板																																																																																																																																		
	構造用合板	針葉樹合板	2級	JAS規格品																																																																																																																															
	パーティクルボード			JIS A 5908																																																																																																																															
	ハードボード			JIS A 5905																																																																																																																															
	硬質木毛セメント板			JIS A 5404																																																																																																																															
	せっこうボード			JIS A 6901																																																																																																																															
	シーリングボード			JIS A 5905																																																																																																																															
	ラスシート			JIS A 5524																																																																																																																															



# 木躯体工事 標準仕様書 (2)

<p>国土交通省告示 第1460号</p> <p>壁筋かい端部仕口例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1号-I 9mm以上の鉄筋</li> <li>・1号-ロ 1.5×9.0cm以上の木材</li> <li>・1号-ハ 3.0×9.0cm以上の木材</li> <li>・1号-ニ 4.5×9.0cm以上の木材</li> <li>・1号-ホ 9.0×9.0cm以上の木材</li> </ul>	<p>①勾配座金を使用する場合</p>  <p>②仕口プレートを使用する場合</p>  <p>①釘を平打ちする場合</p>  <p>①BPプレートを使用する場合</p>  <p>②BOX金物を使用する場合</p>  <p>①BP-2プレートを使用する場合</p>  <p>②BOX金物を使用する場合</p>  <p>①M12ボルトを使用する場合</p> 	<p>国土交通省告示 第1460号</p> <p>柱と横架材との仕口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表三-I</li> <li>・表三-ロ</li> <li>・表三-ハ</li> <li>・表三-ニ</li> </ul> <p>柱と横架材との仕口</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表三-I</li> <li>・表三-ニ</li> </ul>	<p>①かすがいを使用する場合</p>  <p>②かすがいを使用する場合</p>  <p>①短ぼぞ差し込み栓打ちの場合</p>  <p>②CP-L金物を使用する場合</p>  <p>①CP-T金物を使用する場合</p>  <p>②山形プレート (VP) 金物を使用する場合</p>  <p>①羽子板ボルトを使用する場合 スクリュー釘 (ZS50) 無し</p>  <p>②短ざく金物を使用する場合 (※2、3階階差仕口ノミ使用可) スクリュー釘 (ZS50) 無し</p> 	<p>国土交通省告示 第1460号</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表三-ホ</li> <li>・表三-ヘ</li> <li>・表三-ト (15KN用)</li> <li>・表三-チ (20KN用)</li> <li>・表三-リ (25KN用)</li> <li>・表三-ヌ</li> </ul>	<p>①羽子板ボルトを使用する場合 スクリュー釘 (ZS50) 有り</p>  <p>②短ざく金物を使用する場合 (※2、3階階差仕口ノミ使用可) スクリュー釘 (ZS50) 有り</p>  <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (10KN用) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p>  <p>①ホールダウン・引き寄せ金物 (2ヶ所-15KN) を使用する場合 ※ホールダウン・引き寄せ金物は製造メーカーの仕様を確認して使用すること。</p> 
---	--	---	---	--	---

# 木躯体工事 標準仕様書 (3)

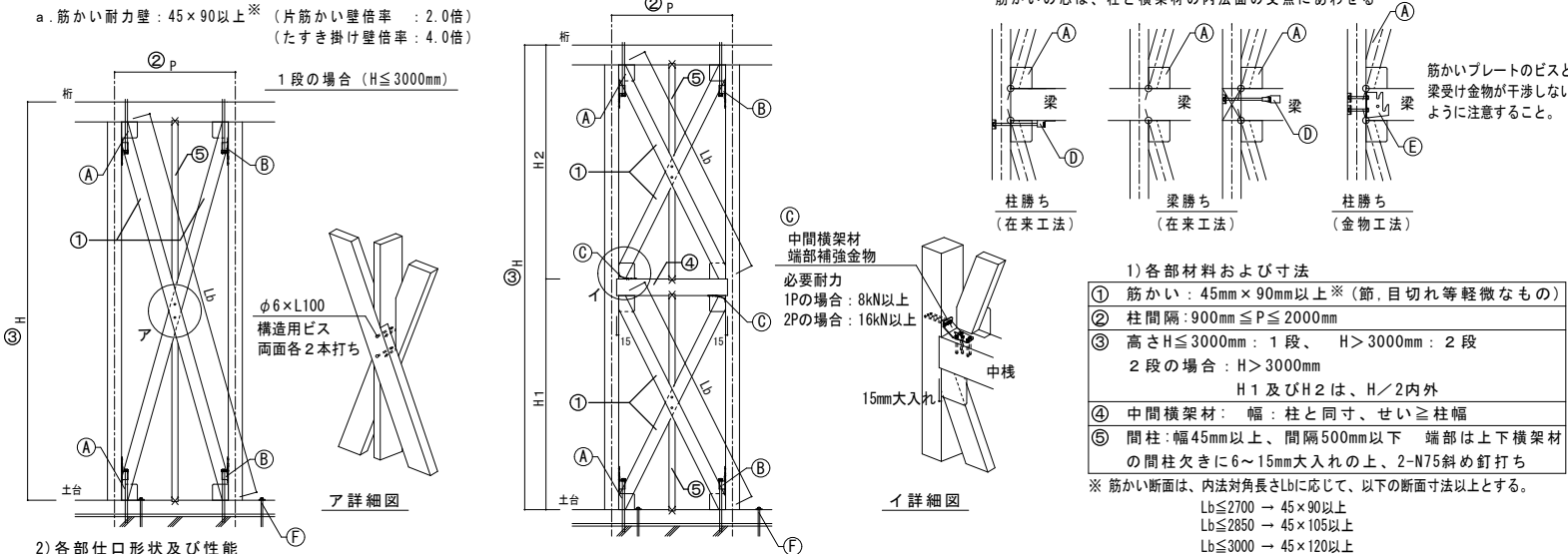
## 3-1 耐力壁

### 1 共通事項

各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。  
 耐力壁耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする。2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。  
 耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。  
 柱の有効細長比(断面の最小二次半径に対する座屈長さの比)は、150以下とすること。

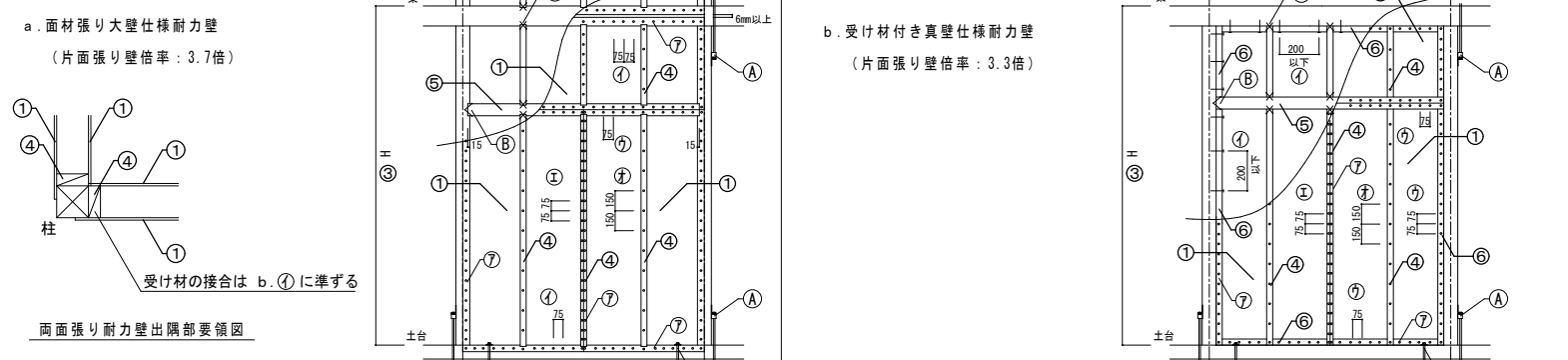
### 2 耐力壁の仕様

(1) 施行令46条に準じた耐力壁



- 2) 各部仕口形状及び性能
- ① 筋かい端部: 突き付けの上 筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
  - ② 各階の柱頭柱脚部: ホソ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
  - ③ 中間横架材端部: 15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力: 1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
  - ④ 梁端部在来仕口部補強金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする ⑤ 梁端部金物工法梁受け金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
  - ⑥ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける

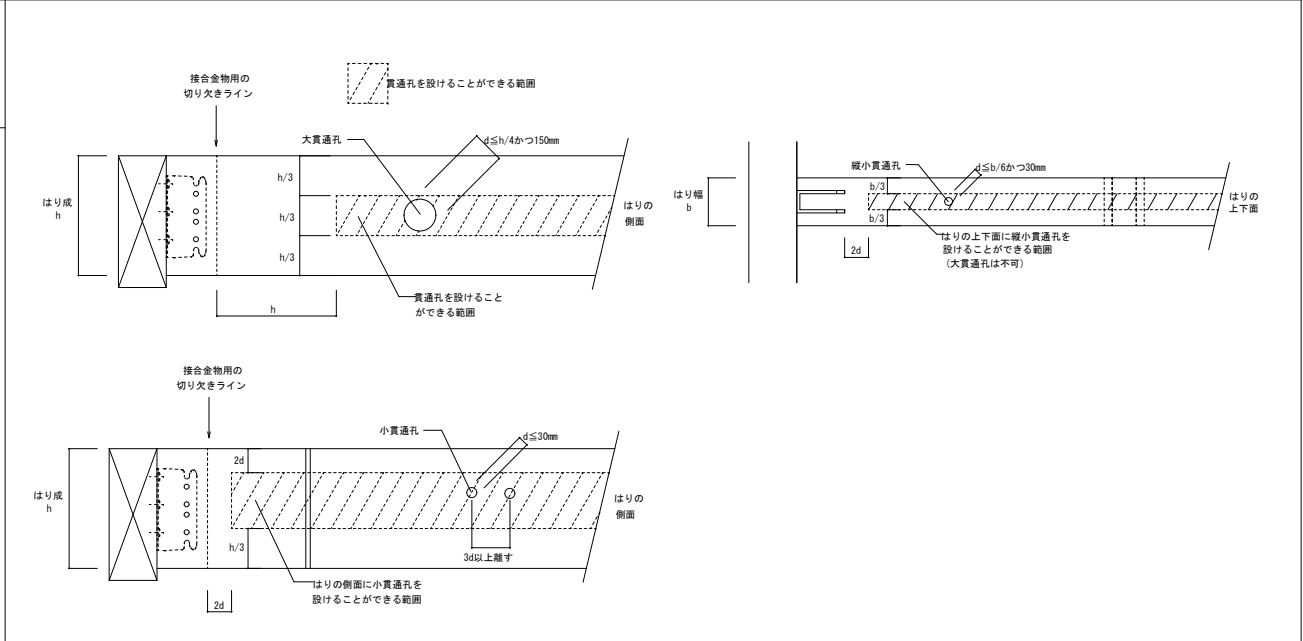
(2) 昭56建告1100号に準じた耐力壁



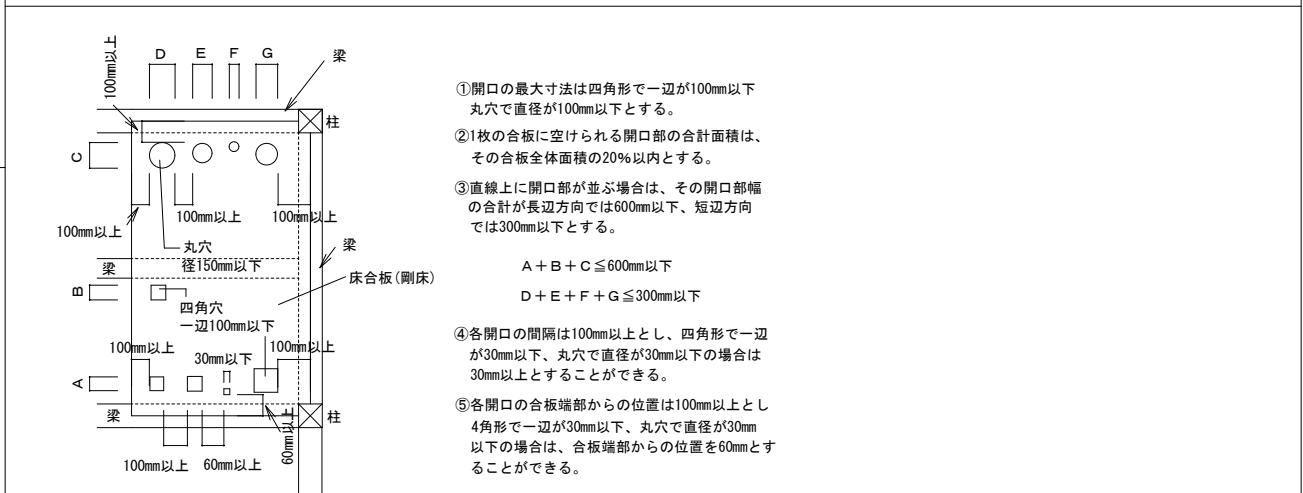
- 1) 各部材料および寸法
- |       |                            |
|-------|----------------------------|
| ① 面材  | 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上 |
| ② 柱間隔 | 600mm ≤ P ≤ 2000mm         |
| ③ 高さ  | 一連の耐力壁の両端柱芯間距離の5倍以下        |
| ④ 間柱  | 幅45以上、間隔500mm以下            |
| ⑤ 中棧  | 幅90mm以上                    |
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ① 各階の柱頭柱脚部: ホソ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
  - ② 中棧端部: まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
  - ③ 間柱端部: 間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
  - ④ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設ける
- 3) 構造用合板の釘打ち方法
- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
- ⑦ 柱及びはりに対するかきり寸法: 22.5mm以上
  - 合板に対するへり空き: 10mm以上
  - 柱はりのへり空き: 12.5mm以上
  - 金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
  - ⑧ 横架材・柱: CN50@75mm以下
  - ⑨ 中棧: CN50@75mm以下 ⑩ 間柱: CN50@75mm以下 ⑪ 中通: CN50@150mm以下

(注) (単位)mm

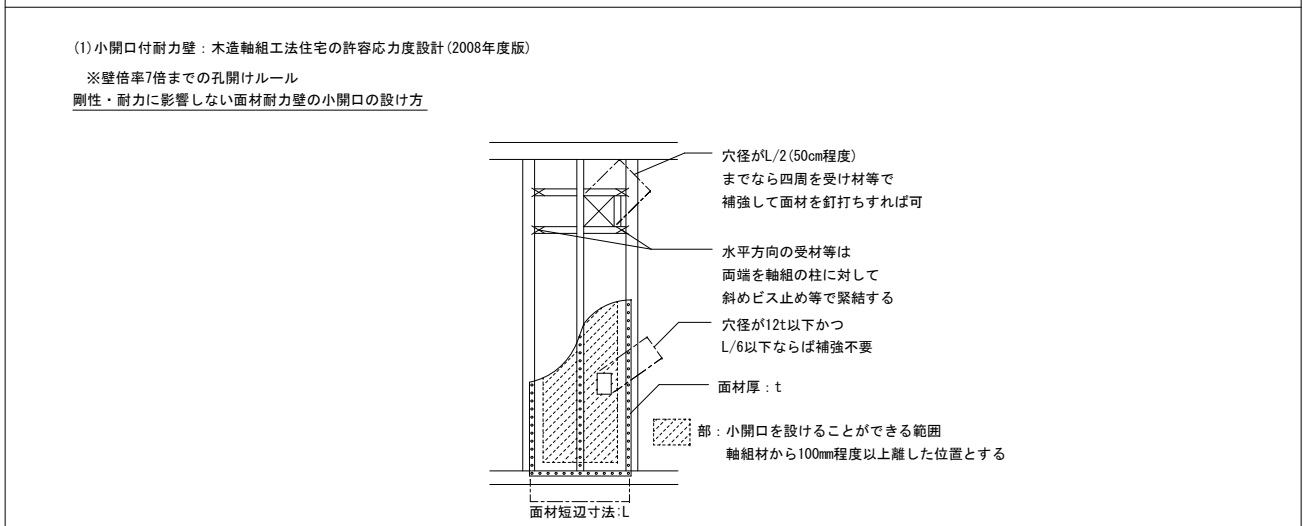
## 3-2 梁の貫通穴の基準

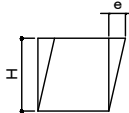
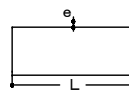
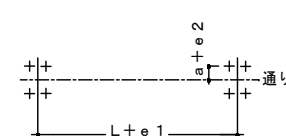
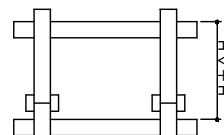
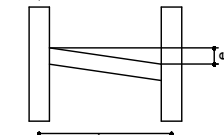
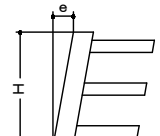


## 3-3 剛床の開口補強



## 3-4 耐力壁貫通孔

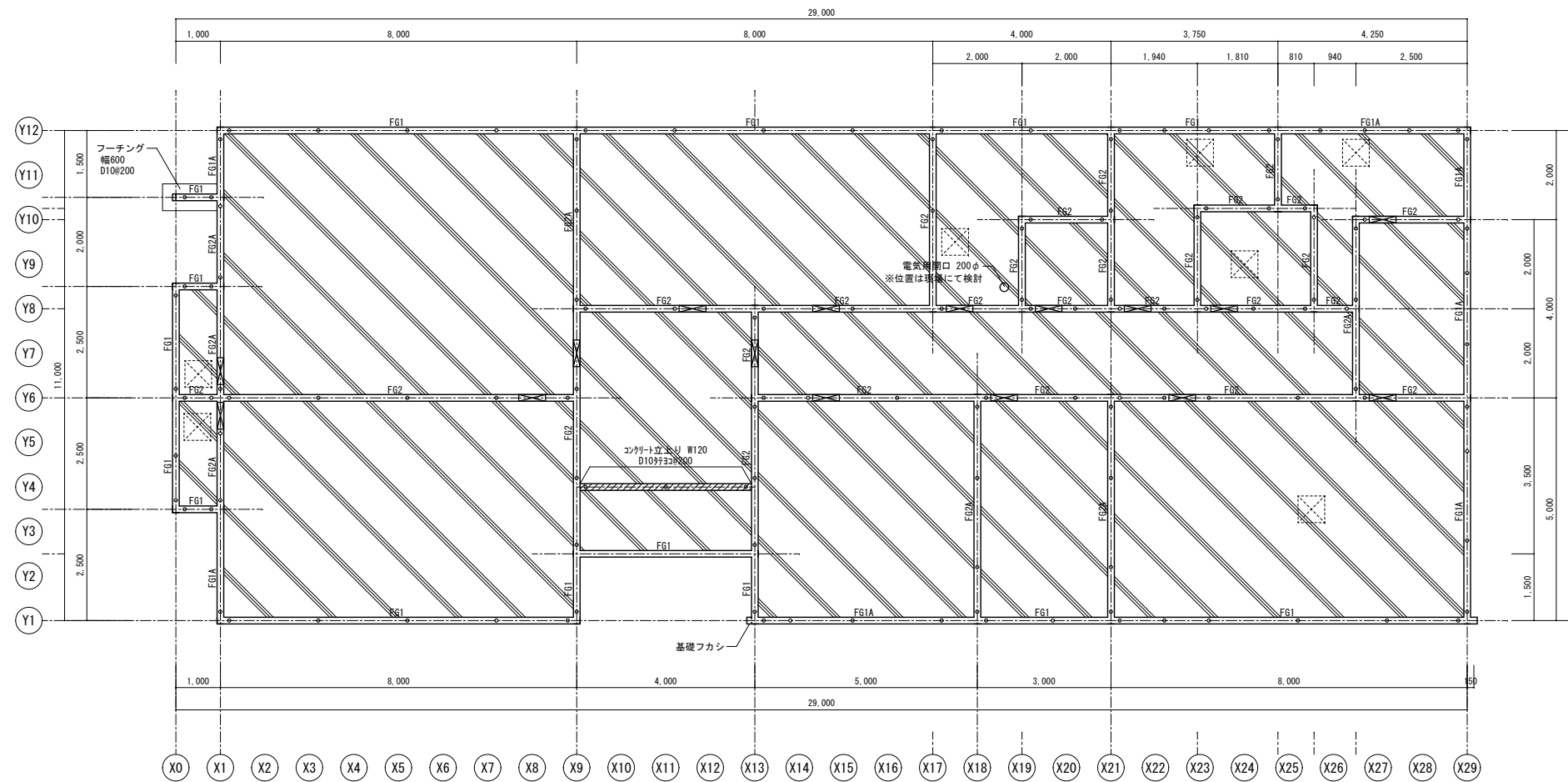


構造用集成材躯体木工事仕様書																											
<p>1 共通事項</p> <p>1.1 本仕様書は構造用集成材を主要構造部に用いた木工事に適用する。</p> <p>1.2 一般事項</p> <p>a. 集成材や接合金物等の部材の製作にあたっては製作要領書を提出し、監督員の承認を受けるものとする。</p> <p>1.3 準拠規程</p> <p>a. 大断面木造建築物設計施工マニュアル（日本建築センター）1988年版  b. 木質構造設計規程・同解説（日本建築学会）2006年版  c. 農林水産省「構造用集成材の日本農林規格」第683号</p> <p>2 材料一般</p> <p>2.1 集成材</p> <p>a. 集成材はISO認証取得工場の製造品と同等のものとする。  b. 集成材の品質は、「構造用集成材の日本農林規格」（農林水産省告示683号）とする。  c. ラミナの縦継ぎは、フィンガージョイント（フィンガー長さ15mm以上）とし、ラミナ厚は40mm以下を標準とする。  d. 樹種  ■ ベイマツ  □ カラマツ  ■ ヒノキ  ■ スギ  e. 等級（対称異等級構成構造用集成材）  ■ E170 - F495  ■ E120 - F300 ハイブリットビーム  □ E105 - F300  □ E75 - F240  □ LVL 120E-385F 55V-47H（施行令第46条2項適合材料）  （同一等級構成構造用集成材）  ■ E95 - F315  ■ E65 - F255</p> <p>2.2 製材</p> <p>□ 製材（ヒノキ 一等材料以上）  ■ 製材（スギ 一等材料以上）  □ 製材（ベイマツ 一等材料以上）</p> <p>2.3 接合金物</p> <p>a. 接合金物の品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。  b. 使用する鋼材の品質については、規格証明書を提出する。</p> <p>2.4 ボルトおよびナット</p> <p>a. 規格  ボルトおよびナットの規格は特記なき限り下記による。  ・JIS B 1180（六角ボルト）  ・JIS B 1181（六角ナット）  ・JIS B 0205（メートル並目ねじ）</p> <p>b. 品質  ボルトおよびナットの品質は、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。</p> <p>2.5 ドリフトピン・ラグスクリューボルト  形状および品質に関しては、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）等を準用し、材質はSS400または、これと同等品とする。</p> <p>2.6 丸座金  ・ボルトに使用する座金の寸法・厚さは下記による。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td colspan="5" style="text-align: right;">(単位: mm)</td> </tr> <tr> <td>ボルト径</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>22</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>座金の厚さ</td> <td>3.2</td> <td>4.5</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>丸座金の直径</td> <td>40</td> <td>60</td> <td>70</td> <td>80</td> <td>80</td> </tr> </table> <p>・引張りボルトに使用される座金の寸法および厚さは、別途計算する。  ・計算によって安全を確保できた場合はこの限りではない。</p>		(単位: mm)					ボルト径	12	16	20	22	24	座金の厚さ	3.2	4.5	6	6	6	丸座金の直径	40	60	70	80	80	<p>2.7 アンカーボルト</p> <p>a. 規格・形状  アンカーボルトの形状および寸法は特記による。  特記がない場合は、JIS B1178（基礎ボルト）によるL型またはJ型とし、ねじの特級は2級以上とする。</p> <p>b. 品質  アンカーボルトの品質は特記による。  特記がない場合、JIS G3101（一般構造用圧延鋼材）による。材質はSS400または、これと同等品とする。</p> <p>3 工作一般</p> <p>3.1 施工図（承認図）  施工図は設計図書をもとに、全体の納まりや詳細などについて十分検討した上で作成し、監督員の承認をうける。</p> <p>3.2 現寸図  a. 加工図及びCAD寸法図を原則とする。  b. 部材製作が著しく困難な場合は、必要に応じて現寸図模型を製作する。</p> <p>3.3 鋼製巻尺の確認  a. 鋼製巻尺は、JIS B7512（鋼製巻尺）による1級品を用いる。  同一工事に用いる巻尺は、それら相互の誤差の少ないものを使用する。  b. 工場製作用巻尺と現場製作用巻尺とを照合して、その誤差を確認する。  照合に関して、巻尺に対する張力は50Nとする。</p> <p>3.4 墨付け  墨付けは加工図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。</p> <p>3.5 集成材部材の寸法精度  製品の寸法精度は下記による。</p> <p>a. せい ±1.5%以内または±2.0mm以内  b. 幅 ±1.5%以内または±2.0mm以内  c. 長さ ±3.0mm以内  d. 断面直角度 ±1/100以内 かつ ±2.0mm以内</p> <p>3.6 ボルト穴</p> <p>a. 穴径  ボルトの公称軸径dに対する穴径は下記による。  ・ボルト d+1.0mm以内（M16未満） d+2.0mm以内（M16以上）  ・ドリフトピン d±0mm</p> <p>b. 精度  穴あけの許容差は下記による。  ・穴の心ずれ ±2.0mm以内  ・穴間隔のずれ ±2.0mm以内</p> <p>c. スリット加工  スリット加工の巾は下記による。  ・挿入鋼板 4.5mmの場合 6mm  ・挿入鋼板 6mmの場合 8mm  ・挿入鋼板 9mmの場合 11mm  ・挿入鋼板 12mmの場合 14mm</p> <p>3.7 表面仕上げ  面取り形状、表面仕上げの程度は、要求に応じた仕様とする。</p> <p>3.8 集成材部材の工場塗装</p> <p>a. 素地調整  塗装前に塗装面のよごれ、付着物等を撤去する。  b. 養生塗装として、パ-ton LVL（大谷塗料）F☆☆☆☆同等品以上の木材保護塗料を1回塗りとし、塗装膜に十分乾燥するまで養生する。</p> <p>3.9 接合金物の寸法</p> <p>a. 製品の寸法精度  ・幅、長さ ±2mm以内  ・ボルト穴径及び穴心距離 ±1mm以内</p> <p>b. ボルト穴  ・ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー  M12: D+1.0mm、M16以上: D+1.5mm</p>	<p>3.10 接合金物の溶接</p> <p>a. 溶接工は下記による技量を有する者とする。  ・手溶接 JIS Z3801（溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）  ・半自動溶接 JIS Z3841（半自動溶接技術検定試験における試験方法および判定基準）</p> <p>3.11 接合金物の防錆処理（塗装については、工場塗装範囲を記す）</p> <p>a. 屋内  ■ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回  □ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種</p> <p>b. 屋外  □ JIS K5621（一般錆止めペイント）1種 1回  ■ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種</p> <p>c. ボルト・ナット・座金  ■ JIS H8610（電気亜鉛メッキ）  □ JIS H8641（溶融亜鉛メッキ）2種 ※屋外のみ</p> <p>4 製品検査</p> <p>4.1 一般事項</p> <p>a. 製品は、工場製作完了後部材の検査をおこない検査記録を提出して、監督員の確認を受ける。  b. 製品検査の検査項目および検査要領は、あらかじめ定められた方法によりおこなう。</p> <p>4.2 検査の項目</p> <p>a. 形状、寸法  部材長さ、断面寸法、曲り、ねじれ、湾曲の角度、断面直角度などの基本寸法を計測する。  b. 取合い部  現場建方に支障がないよう、接合部の角度、ボルト穴径、ボルト穴相互位置、接合金物の取付け具合などを計測または確認する。  c. 外傷  部材表面のきず、接合金物の外傷などを計測または確認する。</p> <p>5 搬入及び運搬時養生</p> <p>5.1 輸送計画  製品の輸送にあたっては、建方計画に支障の生じないように道路状況、現場の作業の手順などを考慮し、十分な検討をおこなう。</p> <p>5.2 組立て符号  部材はすべて、加工図（部材番号、取合い符号などを記入）により符号をつける。</p> <p>5.3 輸送  積み込み、荷降ろしまたは輸送中に製品がひずみ・変形などを生じないように荷台を調整し、長尺物、異形物などは適切な養生方法を講ずる。</p> <p>6 建方</p> <p>6.1 一般事項</p> <p>a. 現場建方については、予め建方計画書を提出し監督員の承認を受けるものとする。  b. 建方計画にあたっては、建方精度に規定する諸寸法を保持するよう部材の組立て順序を立案し、あわせて作業期間中の安全を考慮する。  c. 建方に用いる機械は、最大吊荷重、作業半径および建物の規模・形状により最適な機種を選定しその機械の特性に適した使用方法を計画するとともに、不慮の衝撃などに対しても安全であるようにする。  d. 建方における仮設用の機械、資材の置きおおよび強風時に、各部材・接合部に生ずる応力に対しては、短期許容応力度を超えないようにし、倒壊防止に有効な措置をほどこす。</p> <p>6.2 搬入および仕分け</p> <p>a. 製品の受入れにあたっては、工場からの送り状と照合し、数量を確認する。  b. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。  c. 集積の際、部材は適当な受台の上に置き、材に曲がり・ねじれなどの損傷を与えないよう注意する。  d. 部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。</p>	<p>6.3 地組  建方に先立って地組をおこなう場合は、寸法精度を保持するために有効な架台・用具などを用いておこなう。</p> <p>6.4 建方</p> <p>a. 建方計画にもとづき、順次建方をおこなう。この際原則として、筋かい、方づえなどの斜材を同時に取付けながら進める。  b. 必要に応じて仮設支柱を立てて架構を保持する。この仮設支柱は本接合が完了するまで保持する。  c. 建方完了後または定められた工程の建方が完了した場合は、建方の検査を行う。ただし、検査記録により、その一部または全部を省略することがある。  d. 本接合は、建入れひずみを修正したのち、あらかじめ定められた順序、工法にもとづいておこなう。  e. 建て方の作業中、風圧力その他の荷重に対しては、必要に応じ臨時の筋かいその他の支持材で補強する。  f. トラス、その他の吊上げまたは建方にあたっては、適切な補強をおこなう。  g. 建方の作業中、横架材上に材料または機械などの重量物を積載し、あるいは柱に大きな引張力を与える場合は、監督員の承認をうけ、かつ必要な補強をおこなう。  h. 建方の精度基準は特記による。特記がない場合は下記による。</p> <p>① 建物の倒れ  <math>e \leq H/2,500 + 10\text{mm}</math>  かつ  <math>e \leq 30\text{mm}</math></p>  <p>② 建物の湾曲  <math>e \leq L/2,500</math>  かつ  <math>e \leq 25\text{mm}</math></p>  <p>③ 柱据付け面の高さおよびアンカーボルトの位置  ・柱据付け面の基準高さからの誤差は±3mm以下  ・柱隣接間中心距離の誤差 <math>e1 \leq \pm 1\text{mm}</math>  ・通り芯からの誤差 <math>e2 \leq \pm 3\text{mm}</math></p>  <p>④ 階高  <math>-5\text{mm} \leq \Delta H \leq +5\text{mm}</math></p>  <p>⑤ はりの水平度  <math>e \leq L/1,000 + 3\text{mm}</math>  かつ  <math>e \leq 10\text{mm}</math></p>  <p>⑥ 柱の倒れ  <math>e \leq H/1,000</math>  かつ  <math>e \leq 10\text{mm}</math></p>  <p>7 防腐・防蟻処理  GL+1.0mまでの木材の部分には、防腐防蟻処理を行う。</p>
	(単位: mm)																										
ボルト径	12	16	20	22	24																						
座金の厚さ	3.2	4.5	6	6	6																						
丸座金の直径	40	60	70	80	80																						



<p>キープラン</p>			<p>C・D：中柱・隅角 (GP-95)</p>	<p>C・D：中柱 (PBC-27・49)</p> <p>告示 平12建告1460号 (と) 相当</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-45)</p> <p>梁受金物2段使い 梁成 450~480 mm</p>	<p>H：土台-大引 (GDS-10BF)</p> <p>(120/150)</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-180)</p> <p>梁成 180~210 mm 勾配 4~10寸 ※ 4寸未満はTHにて対応</p>	<p>K：登り梁-母屋</p>
<p>※共通事項：表中に示すアンカーボルト・座金等によらない場合は、同等のものを使用すること。</p>			<p>C・D：中柱・隅角 (GP-140)</p>	<p>E：柱継部 (HDP-CC)</p> <p>告示 平12建告1460号 (と) 相当</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-51)</p> <p>梁受金物 2段使い 梁成 510~540 mm</p>	<p>I：土台継手 (GJ)</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-180)</p> <p>梁成 240~300 mm 勾配 4~10寸</p>	<p>隅木 (TP・TP+・KP)</p>
<p>A：中柱 (GP-95)</p> <p>告示 平12建告1460号 (い~は) 相当 (一般部) 1-M12 + 40角座金 とする。</p>	<p>A：中柱 (HDP-15)</p> <p>告示 平12建告1460号 (と) 相当 2-M12 + 60角座金 2-M12 + ネルダ' ウワッシャー 2-M16 + 54角座金 のうちのいずれかとする。</p>	<p>B：柱脚部 (HDCⅢ-L)</p> <p>告示 平12建告1460号 (ぬ超え) 相当 1-M16 + 付属品座金 とする。</p>	<p>C・D：中柱 (GP-190)</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-10)</p> <p>梁成 105~150 mm</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-51)</p>	<p>M・N：柱-登り梁 (GUD-180)</p> <p>梁成 180~210 mm 勾配 4~10寸 ※ 4寸未満はTHにて対応</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-180)</p>	<p>TP</p>
<p>A：中柱 (GP-95)</p> <p>告示 平12建告1460号 (に・ほ) 相当 (一般部) 2-M12 + 40角座金 とする。</p>	<p>A：中柱 (HDP-20)</p> <p>告示 平12建告1460号 (ち) 相当 2-M16 + ネルダ' ウワッシャー 2-M16 + 80角座金 (25.5kN) 2-M16 + 54角座金 (23.4kN) のうちのいずれかとする。</p>	<p>B：柱脚部 (PBH-63)</p> <p>告示 平12建告1460号 (ぬ超え) 相当 2-M16 + 付属品座金 とする。</p>	<p>C・D：中柱 (GP-235)</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-18)</p> <p>梁成 180~210 mm</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-57)</p> <p>梁受金物 2段使い 梁成 570~630 mm</p>	<p>M・N：柱-登り梁 (GUD-180)</p> <p>梁成 240~300 mm 勾配 4~10寸</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-240)</p> <p>梁成 180~210 mm 勾配 4~10寸 ※ 4寸未満はTHにて対応</p>	<p>TP+</p>
<p>A：中柱 (HDP-10)</p> <p>告示 平12建告1460号 (い~へ) 相当 2-M12 + 40角座金 2-M12 + ネルダ' ウワッシャー 2-M16 + 54角座金 のうちのいずれかとする。</p>	<p>B：隅角部 (GP-95・HDP-10/15/20)</p> <p>告示 平12建告1460号 (い・ろ) 相当 (隅角部) 2-M12 + 40角座金 (7.5kN) 2-M16 + HDW-M16 (9.2kN/17.6kN) とする。</p>	<p>B：柱頭部 (HMP-140)</p>	<p>C・D：中柱 (HDP-10・15)</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-24)</p> <p>梁成 240~300 mm</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-66)</p> <p>梁受金物 2段使い 梁成 660 mm~</p>	<p>M・N：柱-登り梁 (GUD-240)</p> <p>梁成 240~300 mm 勾配 4~10寸 ※ 4寸未満はTHにて対応</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-240)</p>	<p>水平斜め梁 (BAP-180・240)</p> <p>斜め梁角度：30°・45°・60° 梁成 180~240 mm</p>
<p>A：中柱 (HLP-10)</p> <p>告示 平12建告1460号 (はorへ) 相当 2-M12 + 40角座金 2-M12 + ネルダ' ウワッシャー 2-M16 + 54角座金 のうちのいずれかとする。</p>	<p>B：柱脚部 (HDCⅢ-S)</p> <p>告示 平12建告1460号 (り) 相当 1-M16 + 付属品座金 とする。</p>	<p>B：柱頭部 (HMP-260)</p>	<p>C・D：中柱 (HDP-20・15)</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-33)</p> <p>梁成 330~420 mm</p>	<p>F・G：柱・梁・梁-梁 (TH-66)</p>	<p>M・N：柱-登り梁 (GUD-240)</p> <p>梁成 240~300 mm 勾配 4~10寸</p>	<p>J・L：梁-登り梁 (GUD-240)</p>	

接合具		納まり例 (1階柱脚部)				
種類・記号	形状	種類・記号	種類・記号			
<b>梁受け金物</b> ■ TH-10 梁成: 105~150 ■ TH-18 梁成: 180~210 ■ TH-24 梁成: 240~300 ■ TH-33 梁成: 330~420	 < TH-10 > < TH-18 > < TH-24 > < TH-33 >	<b>柱脚金物</b> ■ HDCⅢ-S105/120 パイプ柱脚金物 ■ HDCⅢ-L105/120 パイプ柱脚金物 □ PBC-27-49 (T/+) スリット柱頭柱脚金物 □ PBH-63 スリット柱脚金物	GP-95, GP-95(+) 柱: 杉KD 横架材: ミツガKD HDCⅢ-S スプルス同一等級構成集成材 E95-F315			
			<b>土台継手金物</b> □ GJ-10 土台継手用	 < GJ-10 >	<b>登梁受金物</b> □ GUD-180 梁成: 180~210 勾配: 4~10寸 □ GUD-240 梁成: 240~300 勾配: 4~10寸	HDP-10, HDP-10(+) 柱: 杉KD 横架材: ミツガKD HDCⅢ-L スプルス同一等級構成集成材 E95-F315
			<b>柱頭・柱脚金物</b> ■ GP-95 ホソパイプ ■ GP-95(+) ホソパイプ □ GP-140 ホソパイプ □ GP-190 ホソパイプ □ GP-235 ホソパイプ ■ HDP-10 ホールダウンパイプ ■ HDP-10(+) ホールダウンパイプ ■ HDP-15 ホールダウンパイプ ■ HDP-20 ホールダウンパイプ □ HDP-CC 柱継ぎパイプ □ HMP-140 柱持たせパイプ □ HMP-260 柱持たせパイプ	 < GP-95 > < GP-95(+)> < GP-140 > < GP-190 > < GP-235 > < HDP-CC > < GP-235 > < HDP-10 > < HDP-10(+)> < HDP-15 > < HDP-20 > < HDP-15 > < HDP-20 > < HMP-140 > < HMP-260 >	<b>水平斜梁金物</b> □ BAP-180 30L/R 梁成: 180 水平角30度 □ BAP-180 45L/R 梁成: 180 水平角45度 □ BAP-180 60L/R 梁成: 180 水平角60度 □ BAP-240 30L/R 梁成: 240 水平角30度 □ BAP-240 45L/R 梁成: 240 水平角45度 □ BAP-240 60L/R 梁成: 240 水平角60度	HDP-15 柱: 杉KD 横架材: ミツガKD PBH-63 スプルス同一等級構成集成材 E95-F315
<b>座金・ナット</b> ■ 角座金 W4.5×40/W6.0×54 □ NS パクナット M12 □ HDW-M16/M12 W6×φ67 □ 丸座金SW付 W4.5×φ45 ■ 丸座金 W4.5×φ45	 < 角座金 > < NS > < HDW-M16/12 > < HDW-N16/12 > < 丸座金SW付 > < 丸座金 >	<b>ボルト・ナット</b> ■ MB M12中ボルト ■ MZ 丸座軸太ボルト ■ DP ドリフトピン	HDP-20 柱: 杉KD 横架材: ミツガKD ※ 表中 (Z) : Zマーク表示品アンカーボルト ■ 試験時使用樹種以上を使用可能推奨樹種としております。 ■ 試験耐力値は材幅105mm以上を基本としておりますが、材幅90mmの耐力値も一部別途ございます。 ■ 試験機関について 住木: (公財)日本住宅・木材技術センター HP: ハウスプラス確認検査機構 建試: (一財)建材試験センター 社内: 株式会社タツミ社内試験 金物詳細情報URL <a href="http://www.tatsumi-web.com/login">http://www.tatsumi-web.com/login</a> ※ ユーザー登録が必要になります。			

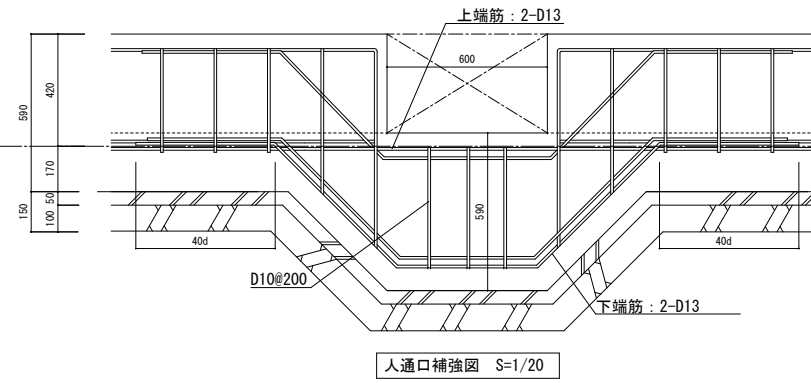
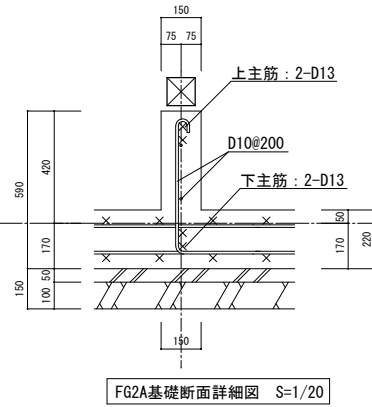
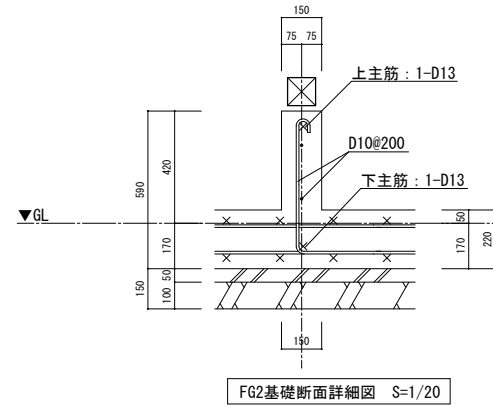
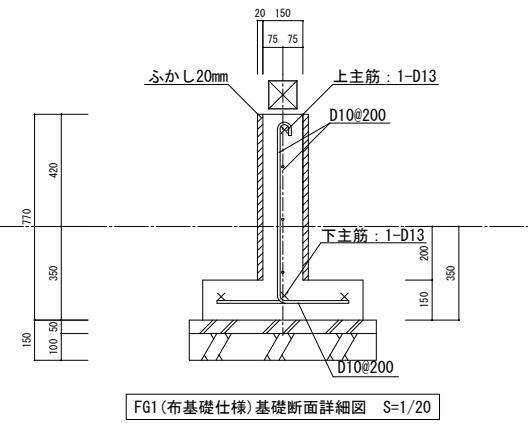
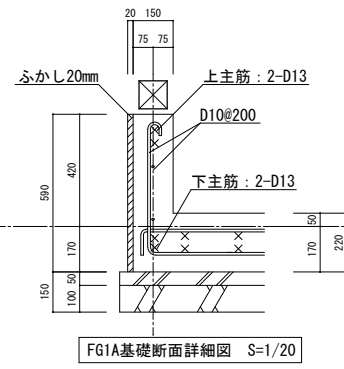
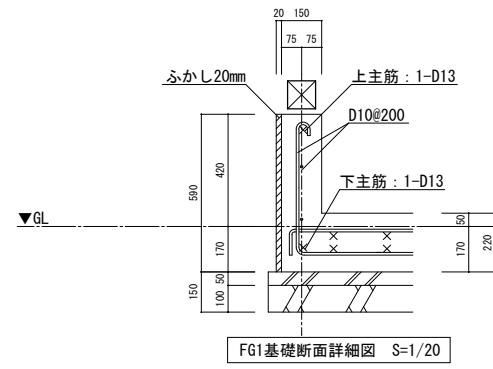


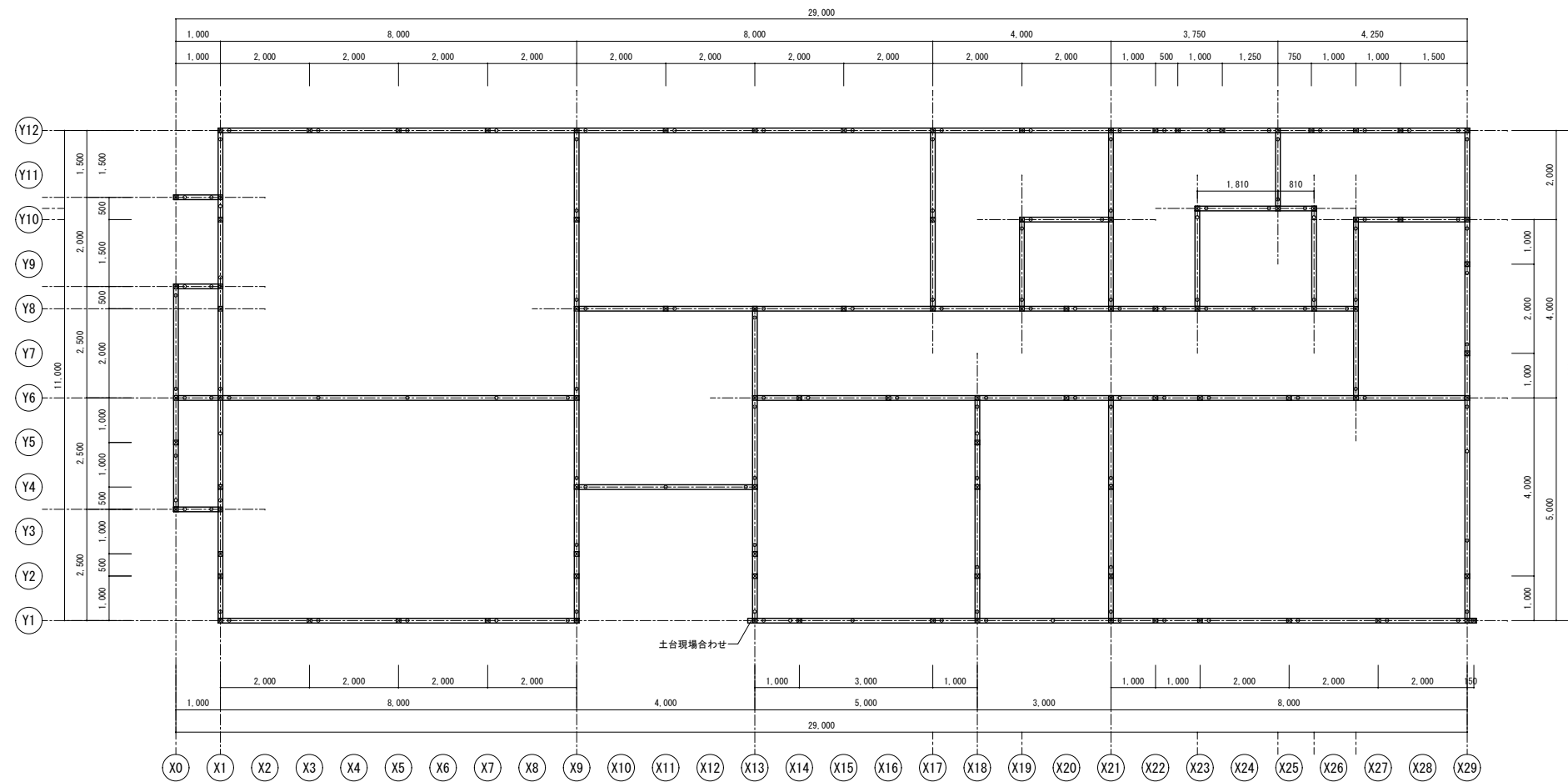
基礎伏図 S=1/100

材料強度	
捨コンクリート	Fc=18N/mm <sup>2</sup>
基礎コンクリート	Fc=21N/mm <sup>2</sup>
土間コンクリート	Fc=21N/mm <sup>2</sup>
鉄筋	D16以下: SD295 D19以上: SD345
地盤	
地業	-
地耐力	30kN/m <sup>2</sup> (長期)
部材リスト	
スラブ	FS1 t=220 スラブ天 特記なき限りGL+50 配筋: D13@200 ダブル (タテ・ヨコ共)

※特記なきスラブはFS1とする。

- 凡例
- 人通口 幅600
  - 床下点検口位置



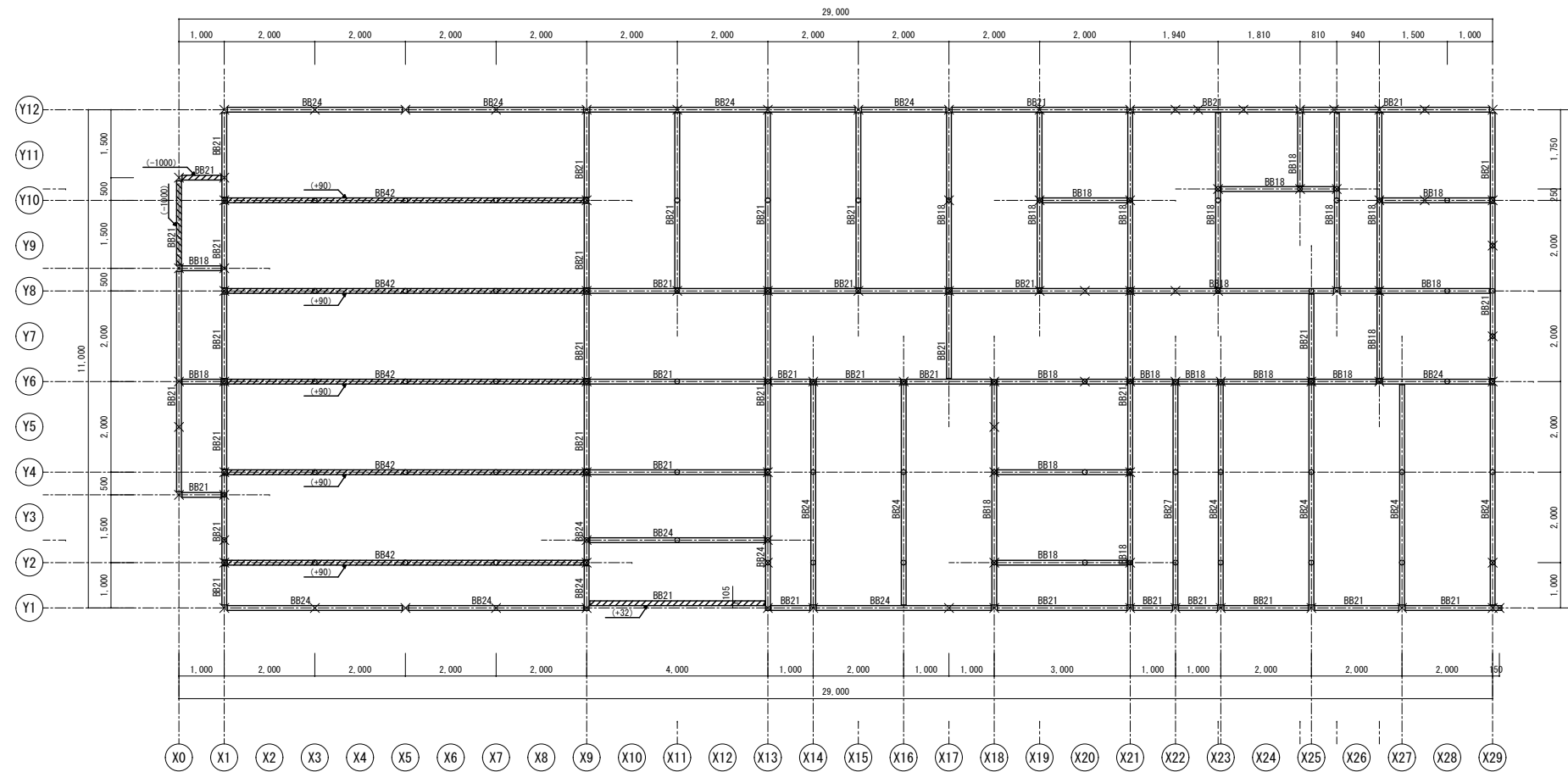


土台伏図 S=1/100

部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
土台		105×105	ひのき	構造用集成材	E95-F315	
柱	P1	105×105	すぎ	構造用集成材	E65-F255	
土台用 アンカーボルト		○ M12 埋込み長さ=250mm以上 土台端部、土台継ぎ手、耐力壁端部に配置 その他2000mm以内				

※土台標準天端高さは設計GL+545とする。  
※特記なき柱はP1とする。



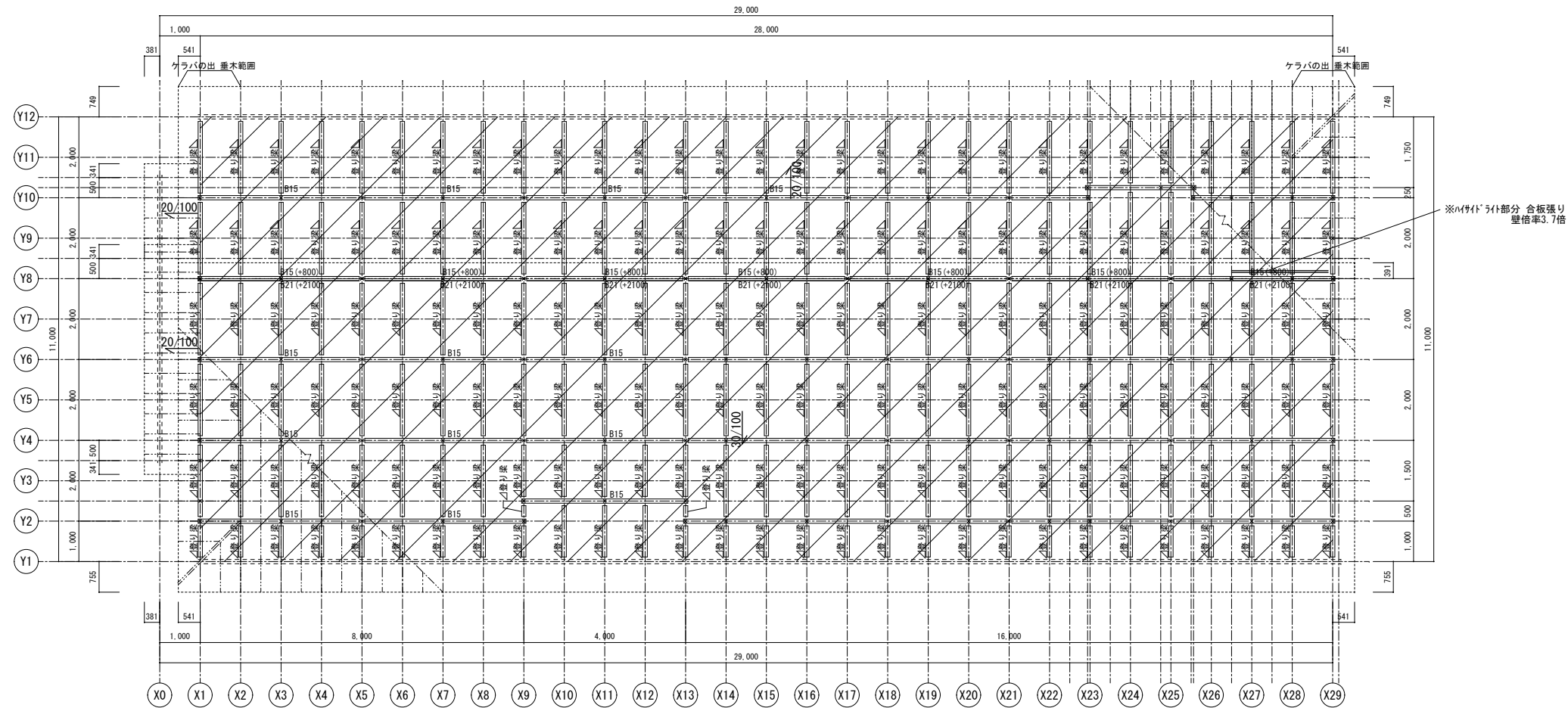


小屋伏図 S=1/100

部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
梁	BB18	105×180	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
	BB21	105×210	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
	BB24	105×240	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
	BB27	105×270	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
	BB42	105×420	べいまつ	構造用集成材	E170-F495	
小屋束	○	105×105	すぎ	構造用集成材	E65-F255	広島県産材

※特記なき梁天端はGL+3545とする。(基準梁天端)  
 ※( )内の数値は基準梁天端からの高さを示す。  
 ※梁仕口金物は、テックワンP3とする。

<凡例>  
 × : 下階柱



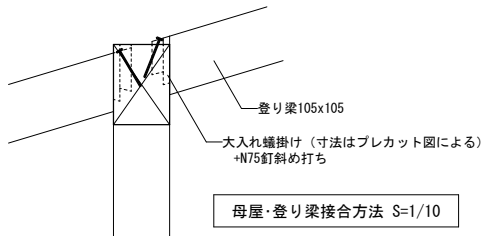
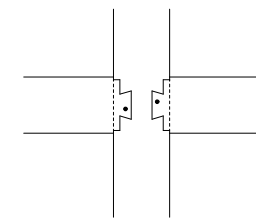
部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度	備考
母屋	B05	105×105	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
	B15	105×150	べいまつ・すぎ	構造用集成材	HB E120-F330	広島県産材
小屋根	×	105×105	すぎ	構造用集成材	E65-F255	広島県産材
垂木		45×120	すぎ	構造用製材	E50	@500
登り梁	△登り梁	105×105	すぎ	構造用製材	E50	広島県産材 @1000

※登り梁端部は在来仕口（大入れ蟻掛け+N75釘斜め打ち）とする。

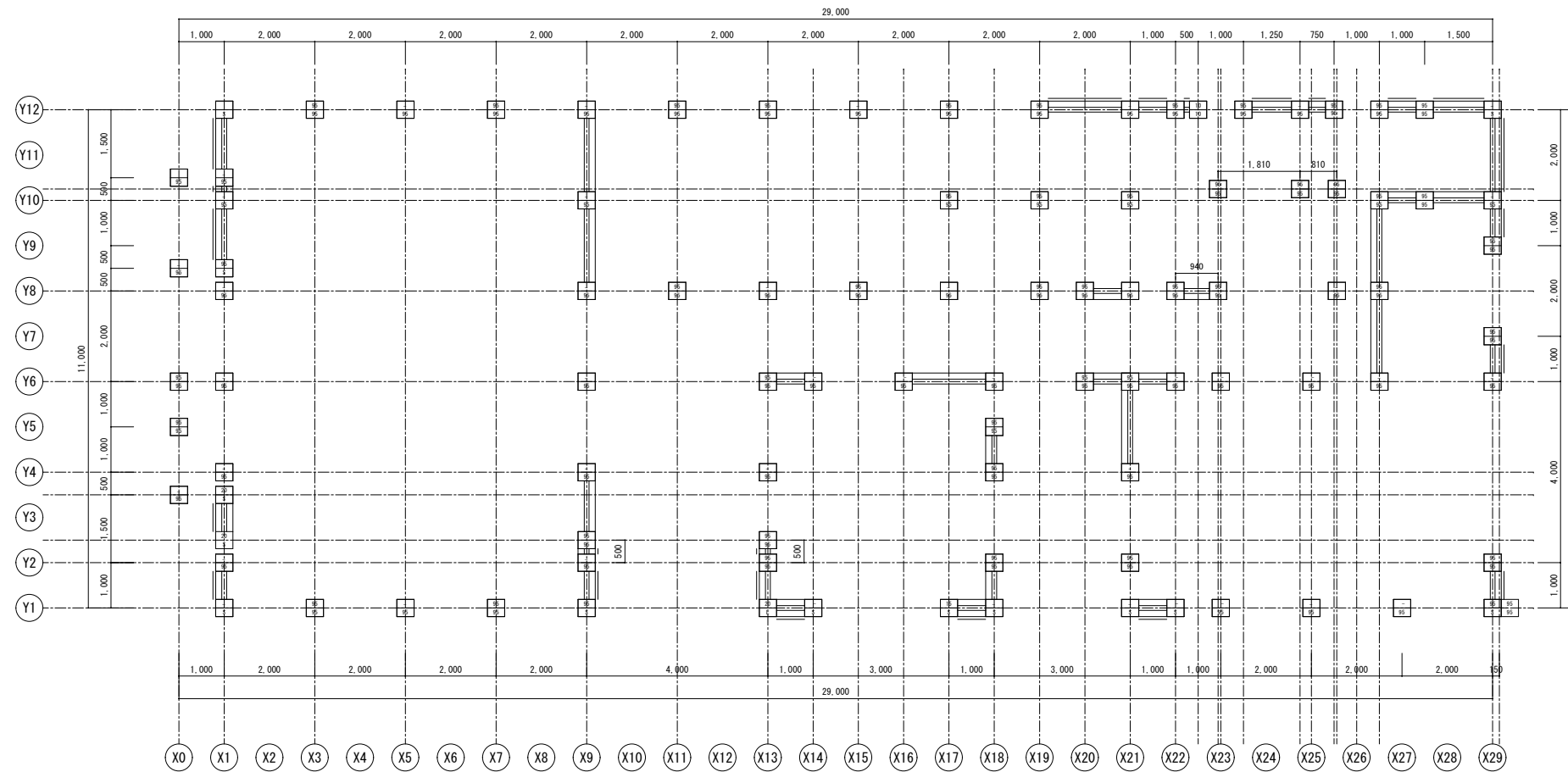
※特記なき母屋は105×105とする。  
 ※特記なき登り梁は105×105とする。

<屋根構造> 倍率1.8倍仕様  
 ・構造用合板 t=24 面材の短辺の外周部分に各1列、  
 その間に1列を釘N75@150で梁組に対し打ち付け

<凡例>  
 × : 母屋下束



屋根伏図 S=1/100



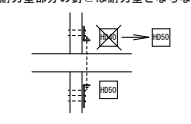
1階柱壁伏図 S=1/100

※特記なき柱はP1とする。

部位	記号	寸法	樹種	構造材	強度
柱		105×105	すぎ	構造用集成材	E65-F255
<b>耐力壁</b>					
	構造用合板	t=9	大壁仕様		壁倍率3.7倍
	釘CNS0	外周#75	中通り#150		
	構造用合板	t=9	受材真壁仕様	H30 国土交通省告示第490号	壁倍率3.3倍
	釘CNS0	外周#75	中通り#150	受材: 釘N50#200	
	構造用合板	t=9	大壁仕様		壁倍率7.0倍
	釘CNS0	外周#75	中通り#150		
	構造用合板	t=9	受材真壁仕様	H30 国土交通省告示第490号	
	釘CNS0	外周#75	中通り#150	受材: 釘N50#200	

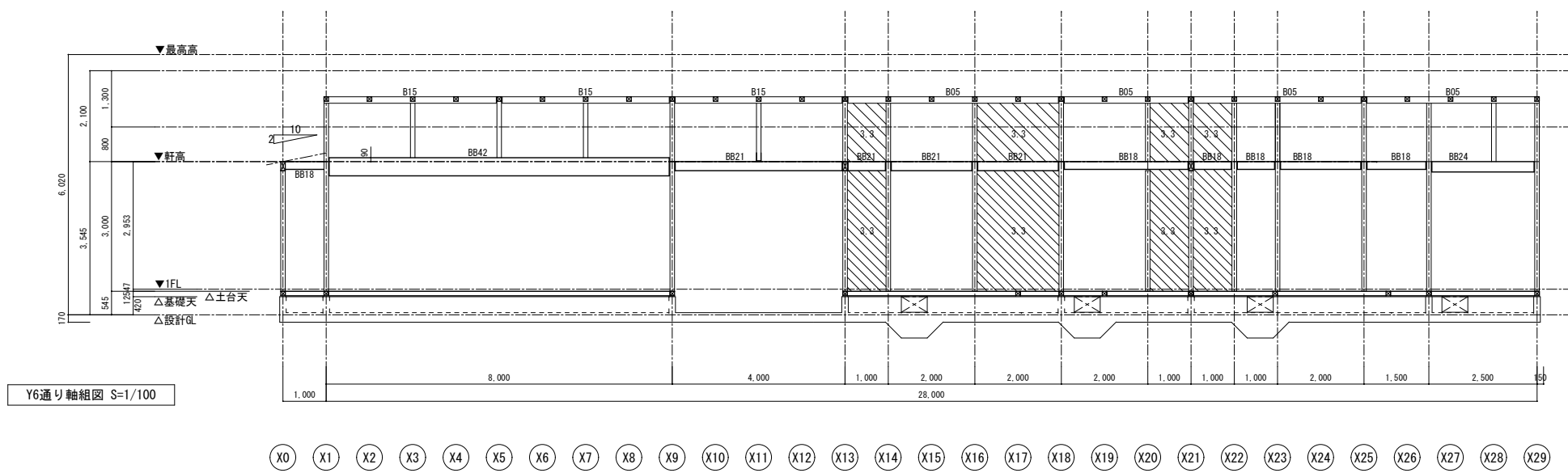
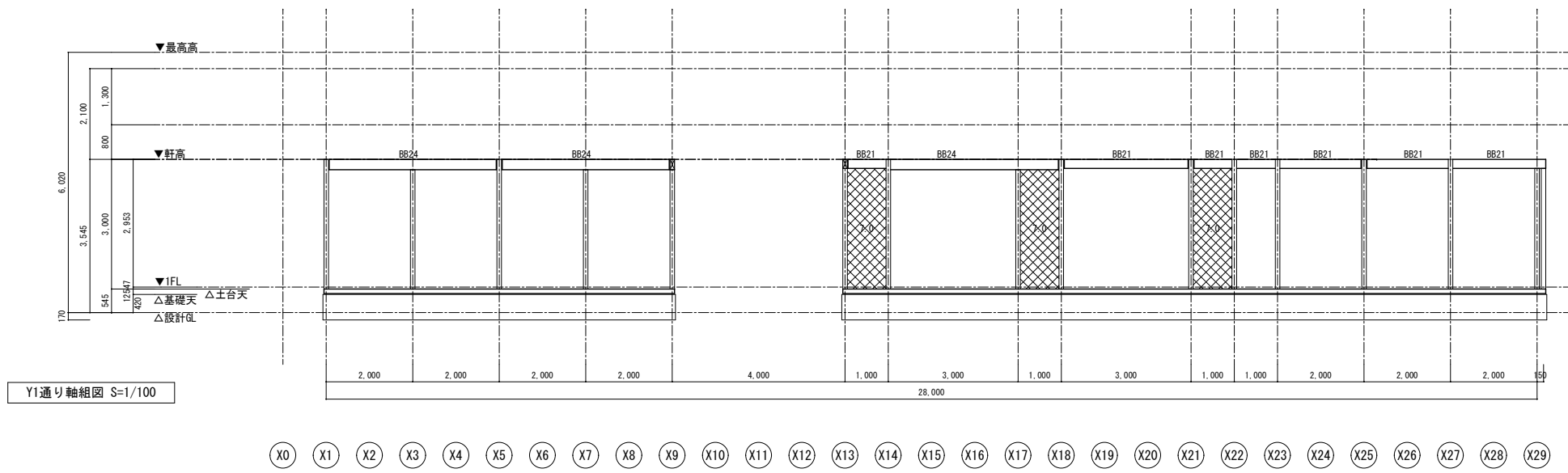
柱脚・柱頭金物	柱頭金物	管柱	柱脚及び柱頭金物記号
—	金物なし(柱勝ち)		
95	GP-95		
10	HDP-10		
15	HDP-15		
20	HDP-20		
S	HDCⅢ-S		
L	HDCⅢ-L		

※H40~50金物において梁の上下で引き合う場合は強度の高い方に合わせる事  
 ※非耐力壁部分の釘#は耐力壁とならないように#300以上とする事



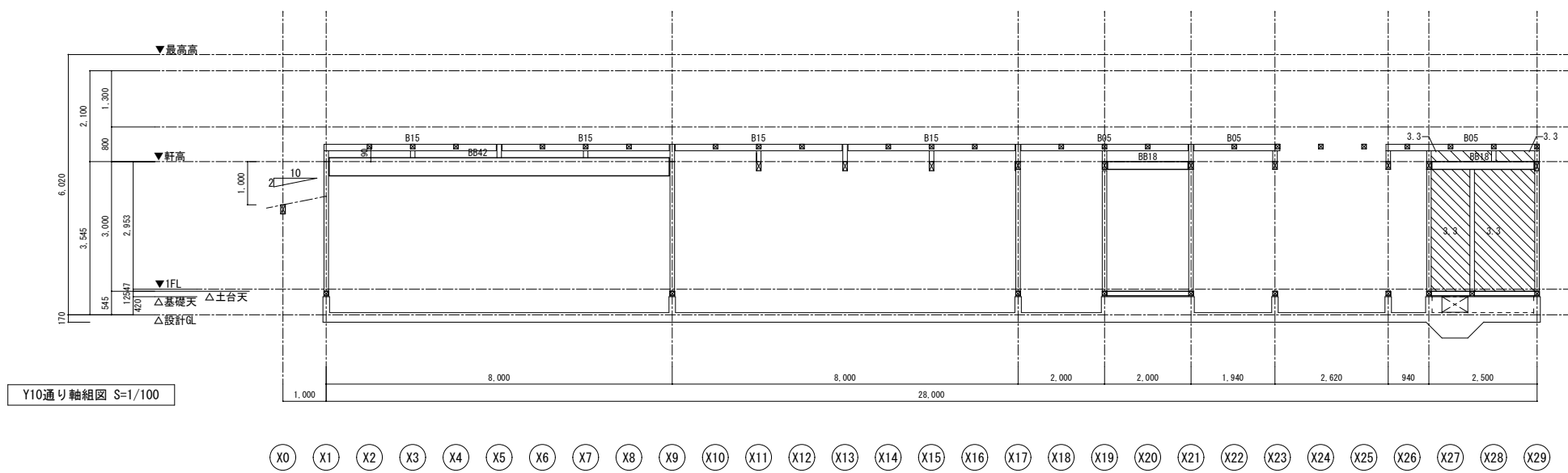
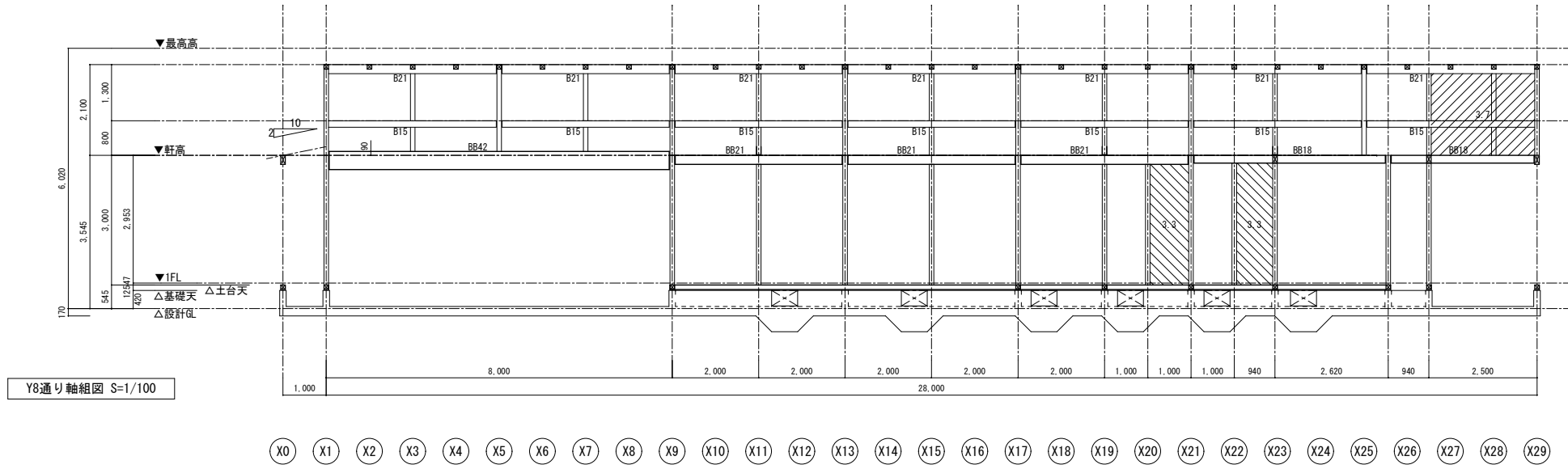
耐力壁 凡例		壁倍率 3.7倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150	H30 国土交通省告示第490号 受材：釘N50@200
		壁倍率 3.3倍	構造用合板 t=9 受材真壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍	構造用合板 t=9 受材真壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150	

有効細長比  
 $\frac{3000}{\sqrt{105^2/12}} = 98.98 < 150.0K$



耐力壁 凡例		壁倍率 3.7倍 構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍 構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150
		壁倍率 3.3倍 構造用合板 t=9 受材真壁仕様 H30 国土交通省告示第490号 釘CN50 外周@75 中通り@150 受材：釘N50@200		壁倍率 7.0倍 構造用合板 t=9 受材真壁仕様 H30 国土交通省告示第490号 釘CN50 外周@75 中通り@150 受材：釘N50@200

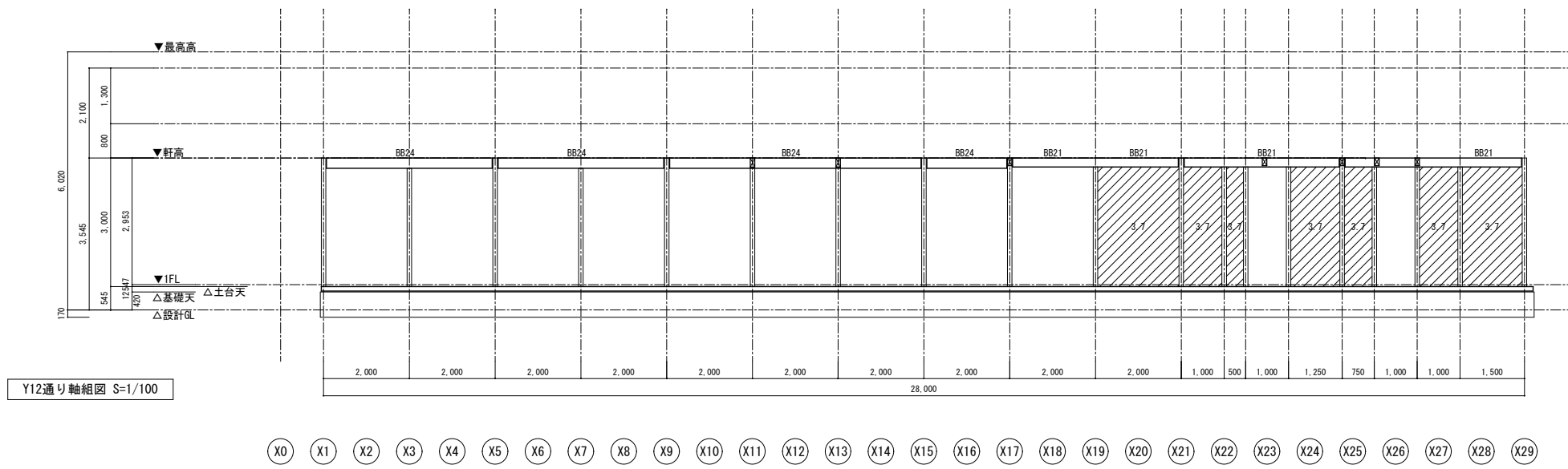
有効細長比  
 $\frac{3000}{\sqrt{105^2/12}} = 98.98 < 150.0K$



耐力壁 凡例		壁倍率 3.7倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150
		壁倍率 3.3倍	構造用合板 t=9 受材真壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		構造用合板 t=9 受材真壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150	H30 国土交通省告示第490号 受材：釘N50@200

有効細長比  

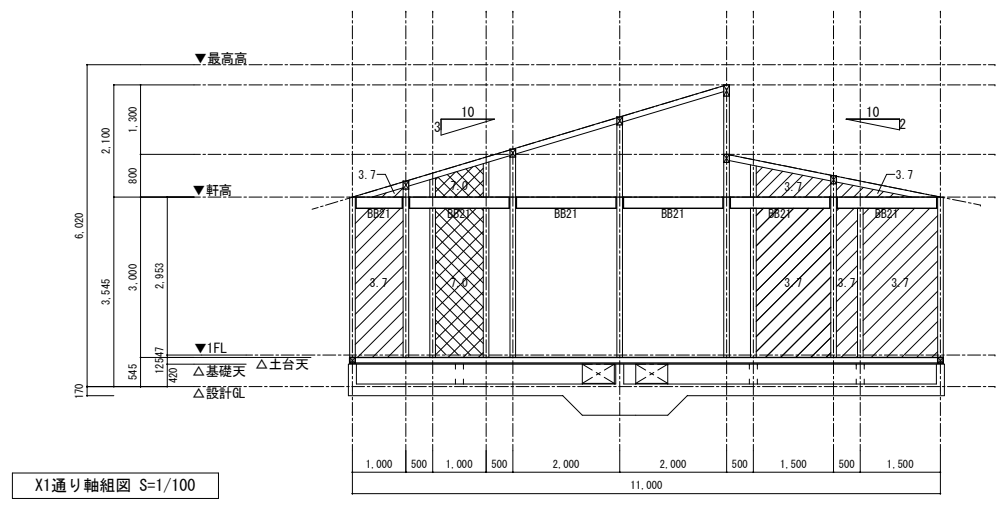
$$\frac{3000}{\sqrt{105^2/12}} = 98.98 < 150. : OK$$



- (X0) (X1) (X2) (X3) (X4) (X5) (X6) (X7) (X8) (X9) (X10) (X11) (X12) (X13) (X14) (X15) (X16) (X17) (X18) (X19) (X20) (X21) (X22) (X23) (X24) (X25) (X26) (X27) (X28) (X29)

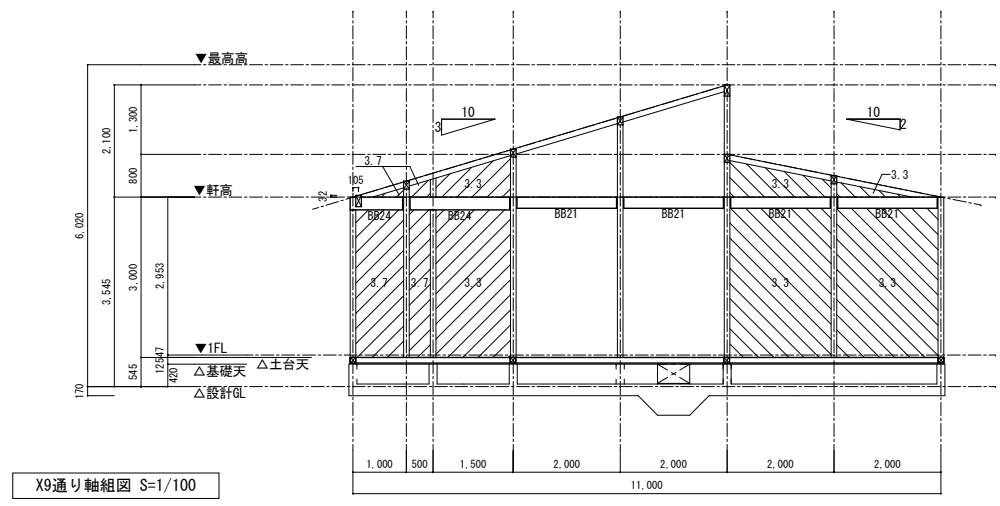
耐力壁 凡例		壁倍率 3.7倍 構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍 構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150
		壁倍率 3.3倍 構造用合板 t=9 受材真壁仕様 H30 国土交通省告示第490号 釘CN50 外周@75 中通り@150 受材：釘N50@200		壁倍率 3.3倍 構造用合板 t=9 受材真壁仕様 H30 国土交通省告示第490号 釘CN50 外周@75 中通り@150 受材：釘N50@200

有効細長比  
 $\frac{3000}{\sqrt{105^2/12}} = 98.98 < 150.0\text{OK}$



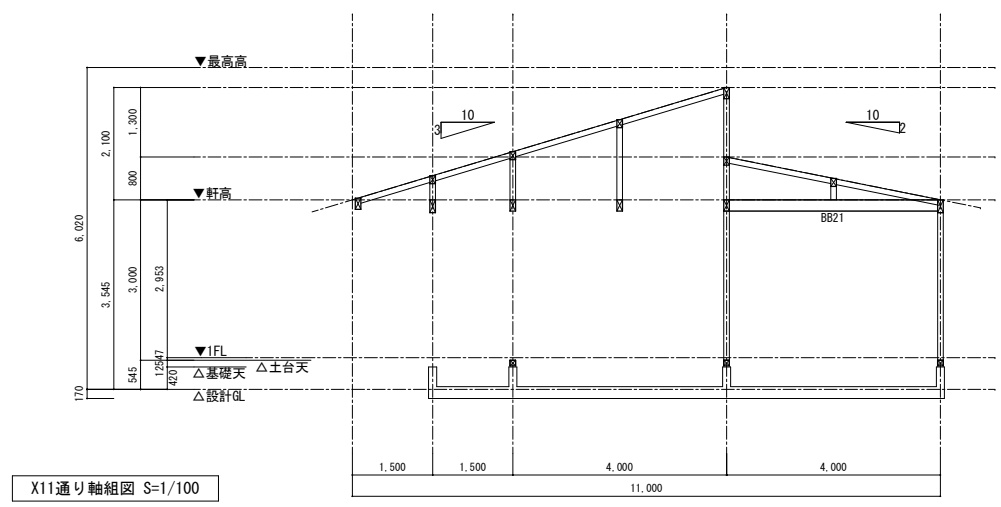
X1通り軸組図 S=1/100

- Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12



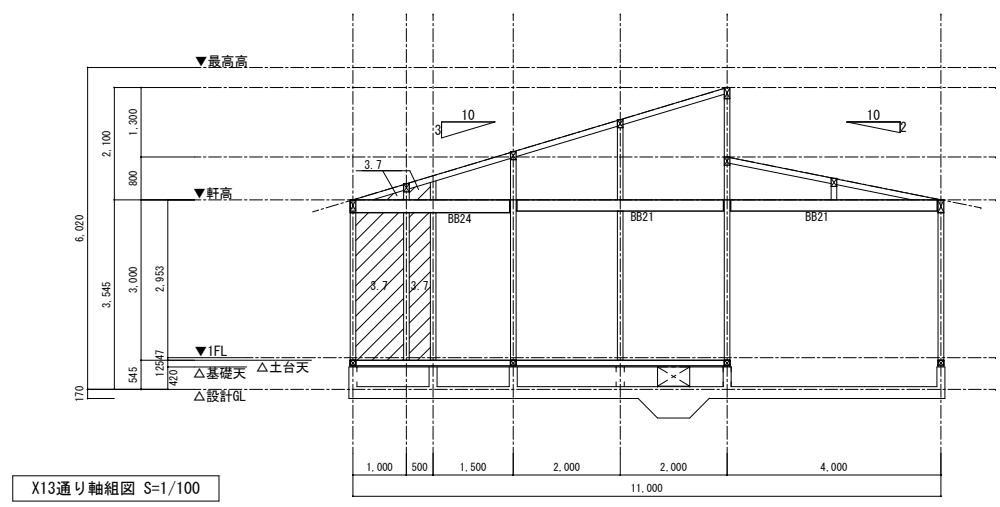
X9通り軸組図 S=1/100

- Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12



X11通り軸組図 S=1/100

- Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12

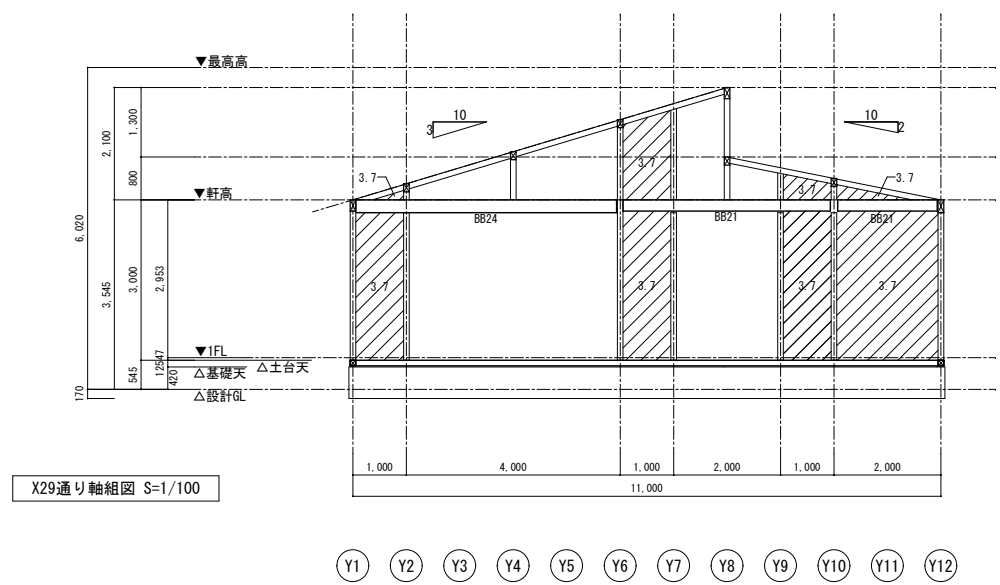
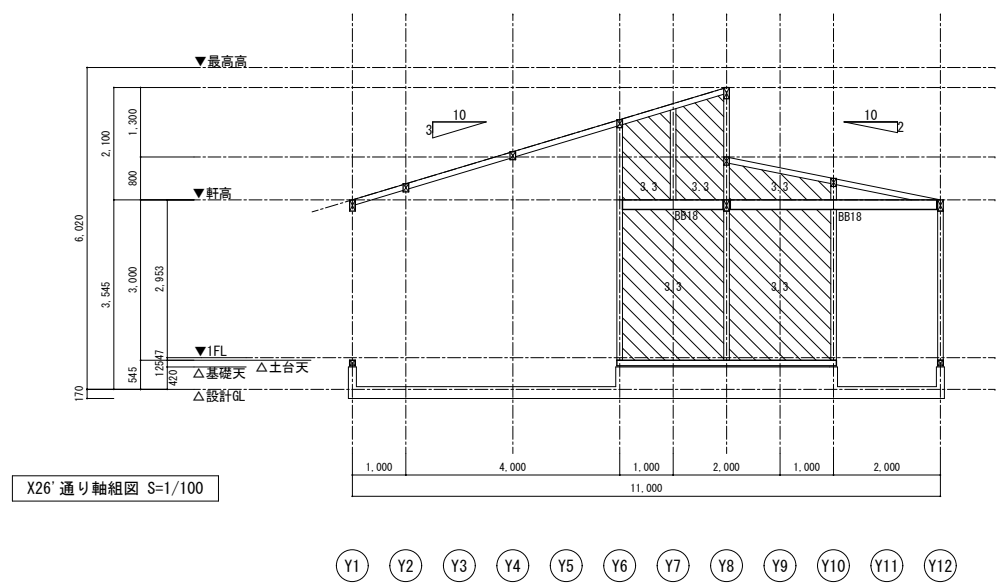
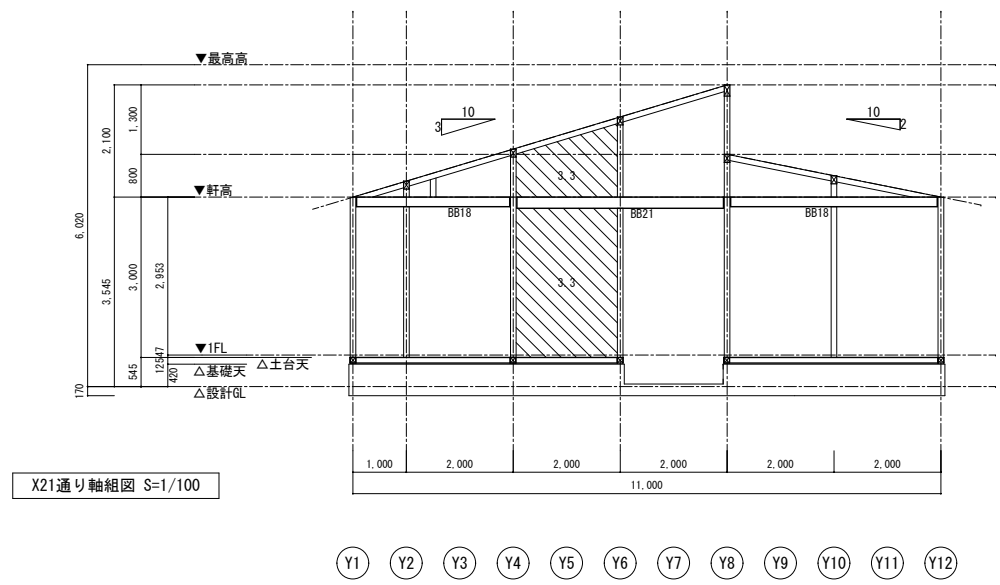
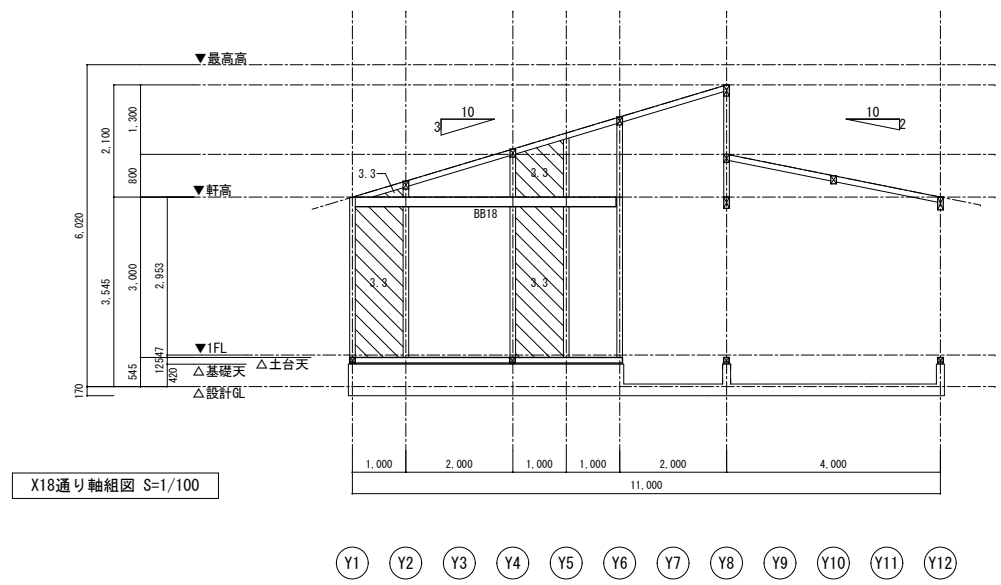


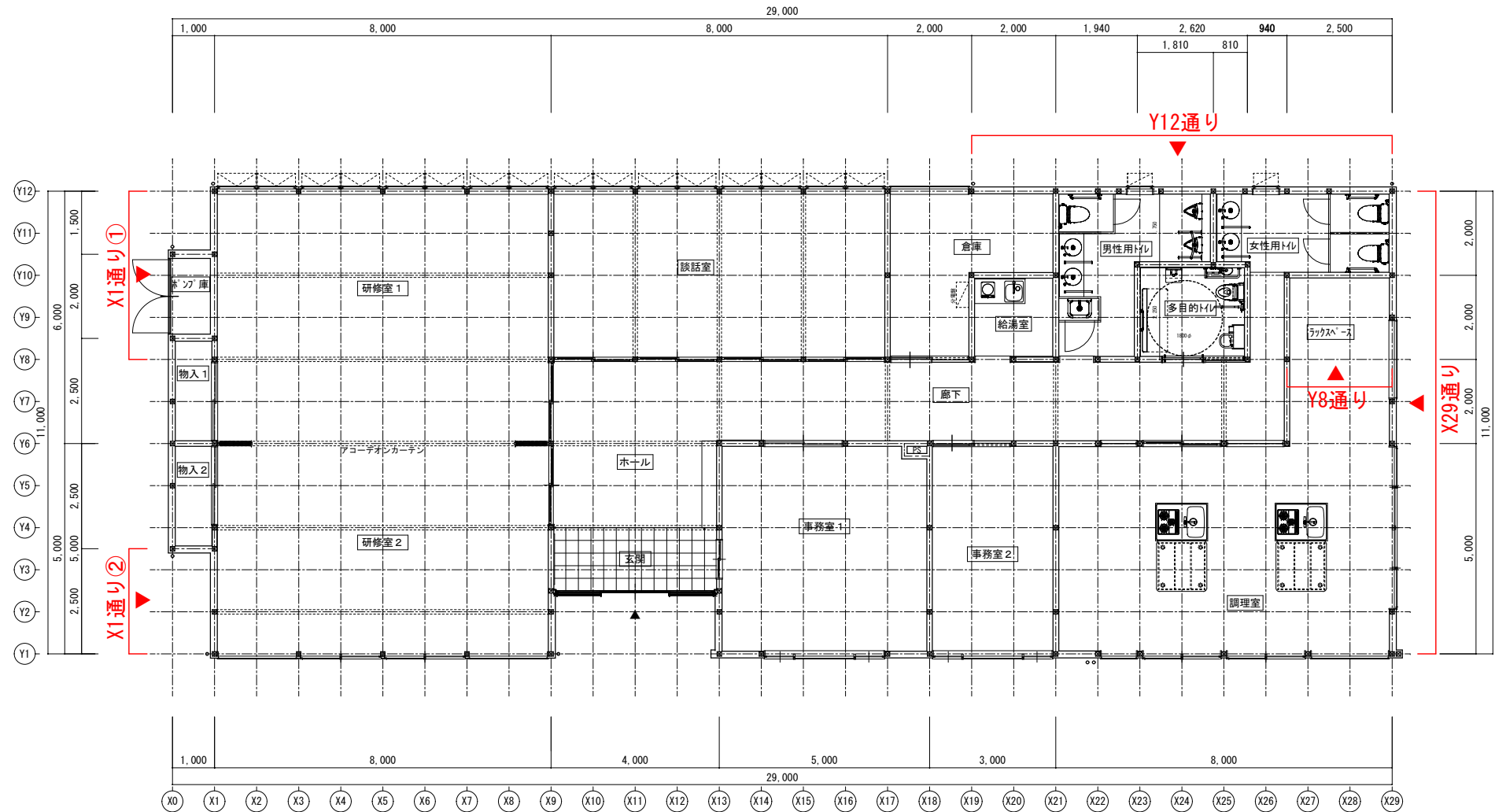
X13通り軸組図 S=1/100

- Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11 Y12

耐力壁 凡例		壁倍率 3.7倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		壁倍率 7.0倍	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150
		壁倍率 3.3倍	構造用合板 t=9 受材真壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150		H30 国土交通省告示第490号 受材：釘N50@200	構造用合板 t=9 大壁仕様 釘CN50 外周@75 中通り@150

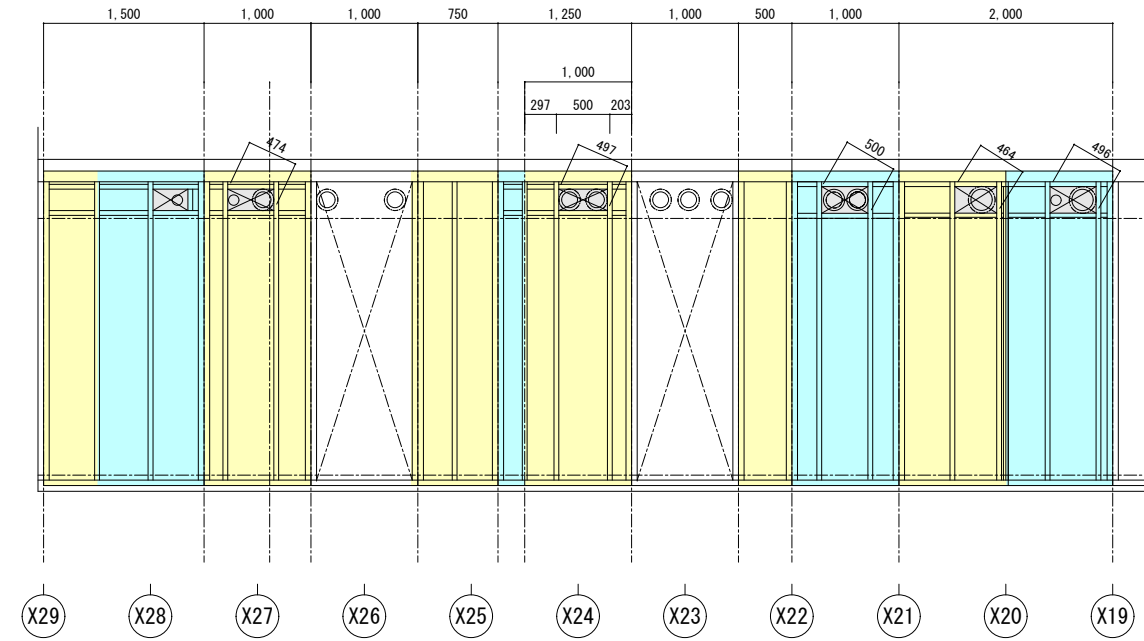
有効細長比  
 $\frac{3000}{\sqrt{105^2/12}} = 98.98 < 150.0 \text{OK}$



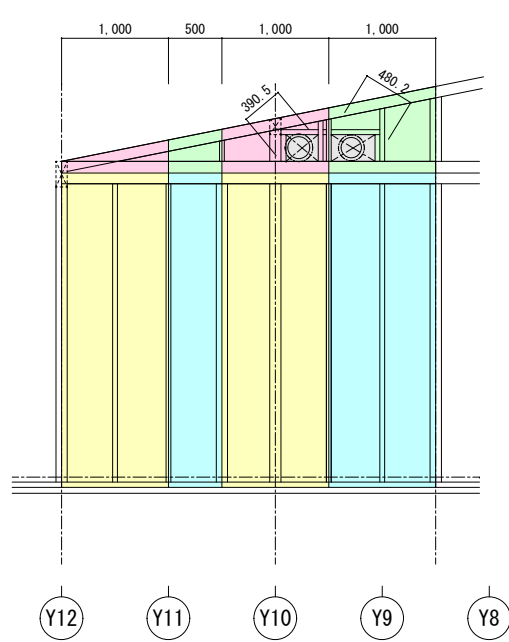


**特記事項**

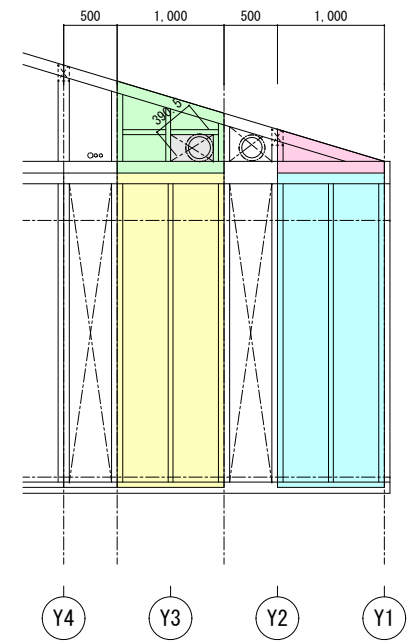
- ※開口部は間柱勝ちとし、水平補強受材は柱から柱まで設ける。
- ※は開口補強される範囲を示す（構造用合板の開口は円形の孔でよい）
- ※本図はあくまで開口部補強の参考として使用し、パネル継ぎ部や際間柱などの検討も含め施工図にて基準に従い、再検討すること。
- ※ロックウールt50の被覆となるダクトなど、開口基準を順守することが難しい箇所は耐力壁の部分のみ、同等の被覆性能で厚さを薄くできる製品を使うなど機械工事と打合せの上、施工すること。
- ※本図にない箇所の開口も、必要な箇所は基準に従って開口部補強を設けること。



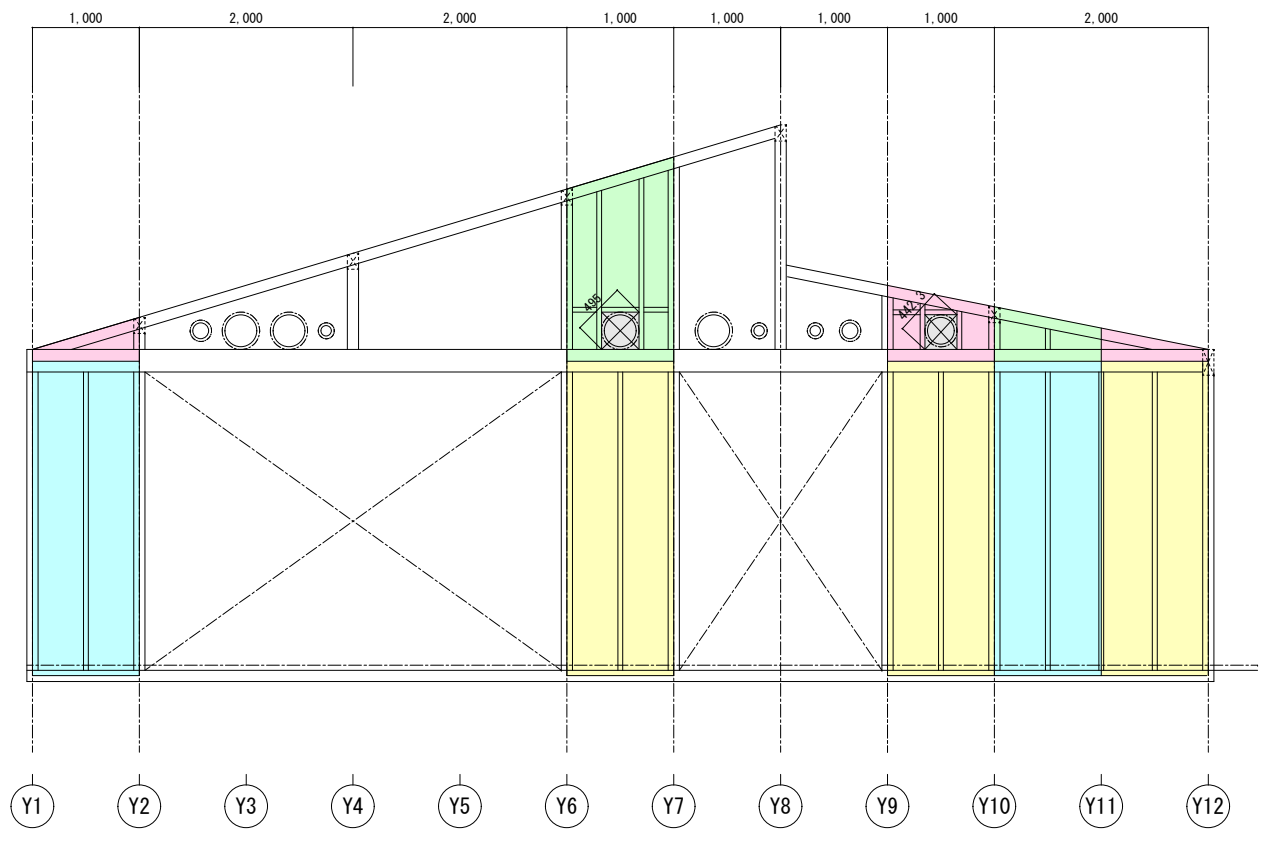
Y12通り



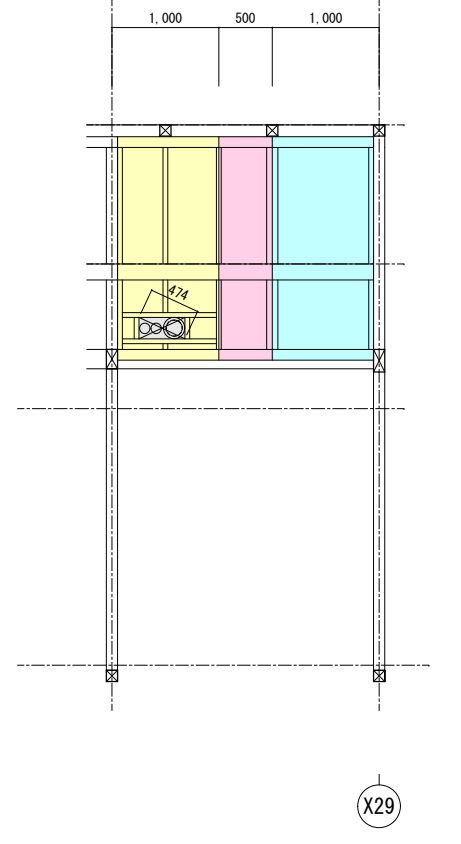
X1通り①



X1通り②



X29通り



Y8通り

# 深層混合処理工法 特記仕様書

【ウルトラコラム工法 GBRC性能証明 第08-06号 改4（更新1）】

## 1. 工法概要

本地業は、深層混合処理工法（ウルトラコラム工法）による、地盤改良地業でありスラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、十字型の共回り防止翼を装置した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の科学反応により所要の強度所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

## 2. 一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（2018年11月30日 財団法人 日本建築センター・財団法人 ベタリービング、以下指針という）による

## 3. 特記事項

- （1）コラム径、掘削深度（改良長+空堀長）、本数配置等は、設計図書による。
- （2）コラムの径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上変更することができる。
- （3）コラムの設計基準強度は $F_c=800 \text{ kN/m}^2$ とする。
- （4）使用する工法は公的な機関の評価を得た工法とする（ウルトラコラム工法同等）

## 4. 施工計画

- （1）本工法の施工業者は本工法の施工技術に精通したものである。
- （2）施工計画書  
工事に先立ち施工計画書を監督員に提出する。また次の事項を施工計画書に明記する。

- ① 工事内容（掘削長、コラム長、空堀長、本数、コラム配置、設計基準強度）
- ② 工事期間・工程表
- ③ 工事要領（仕様固化材、配合）
- ④ 施工機械・機器
- ⑤ 施工手順
- ⑥ 施工管理方法
- ⑦ 品質管理方法
- ⑧ 安全対策
- ⑨ 建築請負業者の工事責任者名
- ⑩ 本工事施工会社名及び責任者名

## 5. 施工

- （1）施工機械が傾斜、転倒しないように作業地盤の養生を行う
- （2）スラリー注入は掘削時に充填する。
- （3）改良部分の掘削速度は1.0m/分以下とし、改良部分の引き上げ速度1.0m/分以下で行う。
- （4）地中障害物、貫入障害物があった場合は監督員と協議する。
- （5）施工により発生される残土は場内処理とする。

## 6. 施工機械

- （1）施工機本体は自走式とし掘削装置の深度、速度、スラリー吐出量を記録できる管理装置付きとする。
- （2）共回り現象を防止する共回り防止翼付きの攪拌翼を使用することとする。
- （3）ミキシングプラント及びスラリー圧送ポンプは所定吐出量を十分に供給できるものとする。

## 7. 配合管理

- （1）使用する固化材はセメントまたはセメント系固化材とする。
- （2）配合強度  
本工事における配合管理で想定する変動係数を $V_d=30\%$ と想定し合格率80%とする場合の割り増し係数表を下表を用いて設定する。

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
割り増し係数 $\alpha$	2.597	2.24	2.095	1.961	1.869	1.792

$$X_f = \alpha \cdot F_c \quad (X_f: \text{配合強度}, F_c: \text{設計基準強度})$$

- （3）室内配合試験  
本施工において、使用する固化材添加量、固化材液の配合（W/C）は室内配合試験の結果に基づいて（現場/室内）強度比を考慮した上で設計基準強度を満足するように設定する。あるいは正確に土質に対する既存データがある場合はその結果を用いて添加量を決定する。

## 8. 施工管理

- （1）施工の安定性を確保する為に次に示す項目について管理する。
  - ① 形状・寸法  
コラム径 攪拌翼の形状を計測  
鉛直性 施工機本体のリーダー内に配置された傾斜計で管理  
コラム芯 事前にコラムの芯にマークを設ける  
掘削深度 深度計により計測
  - ② 固化材  
材料の計量 水・固化材の重量  
固化材液の密度 マッドバランス等  
吐出量・吐出深度 流量計により計測  
掘削・引上げ速度 速度計により計測
  - ③ 攪拌混合度合  
掘削・引上げ速度 速度計・トルク計で計測管理
  - ④ 支持地盤  
速度・トルク値

## 9. 品質管理

- （1）検査対象群、調査ヶ所数、検査対象層
  - ① 検査対象群は、概ね100本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層を0.5mとする。
  - ② 検査対象層は粘土・粘土質砂礫・花崗岩風化土とし、設計対象層は粘土とする。
- ③ 調査ヶ所数
  - 頭部コア 2ヶ所（50本に1ヶ所とする）
  - 最弱層部コア 2ヶ所（50本に1ヶ所とする）
  - 深部コア 2ヶ所（50本に1ヶ所とする）
- ④ 採取してコアを所定の材令にて一軸圧縮試験を行う。（供試体個数=3個/ヶ所）
- ⑤ コラムが未固化の状態では抵抗測定をそれぞれ50コラムに1本行う。

- （2）合格判定基準
  - ① 検査手法はAを適用する。
  - ② 検査対象層に対し採取ヶ所をNとする。1ヶ所当り3個の供試体採取し、その平均強度を対象層の強度とする。
  - ③ 合格判定は検査対象層Nヶ所（採取ヶ所数）の一軸圧縮強さの平均 $X_N$ と合格判定値 $N_L$ の関係式である。下式を満足すれば合格とする。

$$X_N \geq X_L = F_c + k_a \cdot \sigma_d$$

$X_N$ : Nヶ所の一軸圧縮強さの平均値 (KN/m<sup>3</sup>)  
 $X_L$ : 合格判定値  
 $F_c$ : 設計基準強度 (KN/m<sup>3</sup>)  
 $k_a$ : 合格判定係数  
 $\sigma_d$ : 標準偏差 (kN/m<sup>3</sup>) ( $V_d \cdot q_{ud}$ )  
 $q_{ud}$ : 想定した一軸圧縮強さ (kN/m<sup>3</sup>)

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9~
合格判定係数 $k_a$	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

## 10. 報告

工事改良後、次の項目について報告書をまとめ3部監督員に提出する

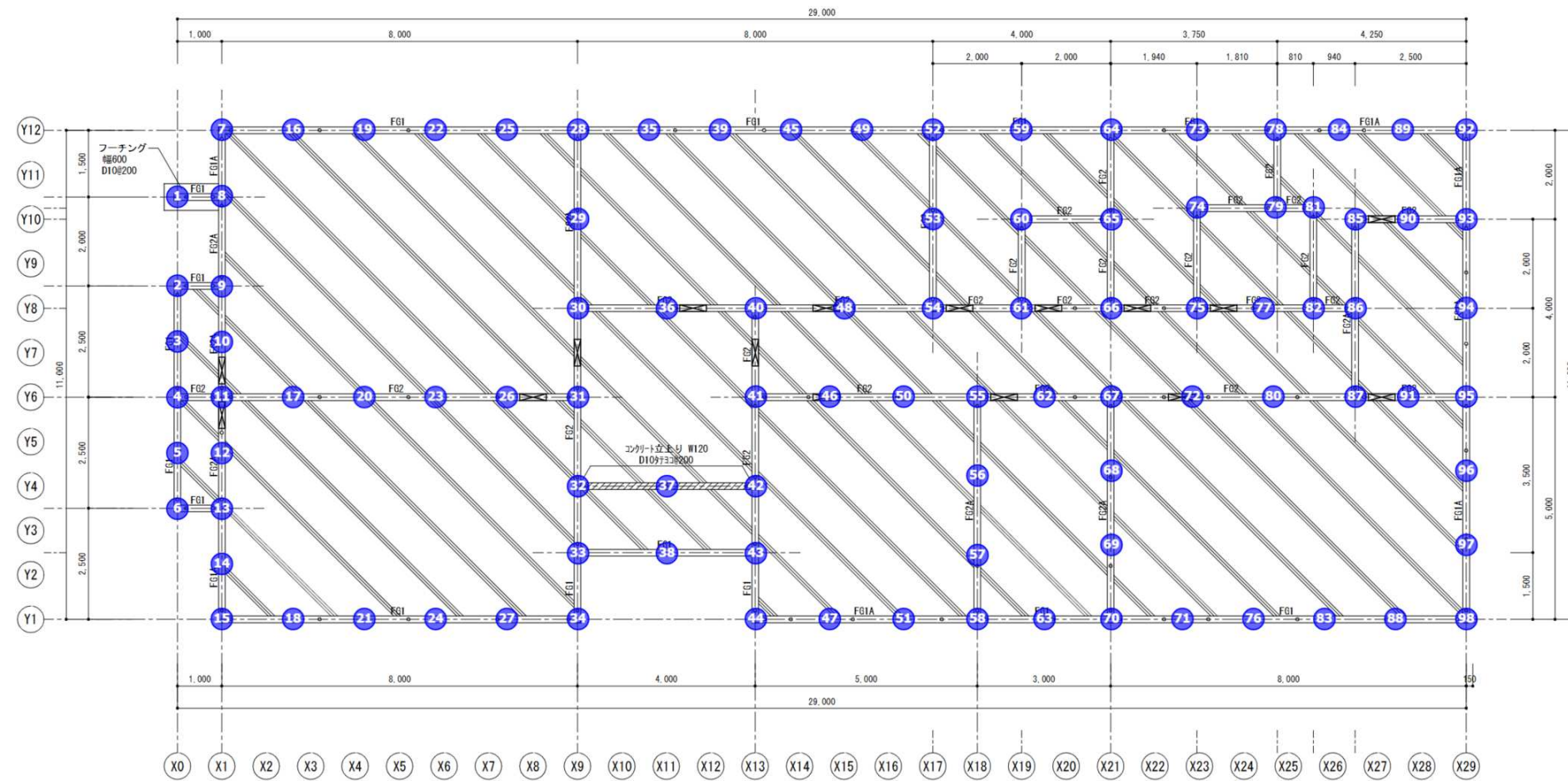
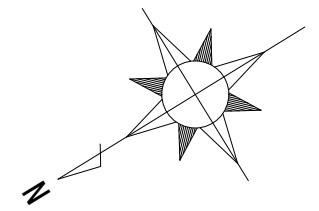
- ① コラム伏図及び施工番号
- ② コラムの施工日
- ③ コラム径及び長さ
- ④ 掘削深度（空堀長+改良長）
- ⑤ 掘削速度及び引上げ速度
- ⑥ トルク値
- ⑦ 固化材液の配合と固化材液の使用量
- ⑧ コア供試体の一軸圧縮試験結果
- ⑨ 合否判定

## 11. その他

本施工前に室内配合試験時の供試体を用いて六価クロム溶出試験を実施し、溶出量が環境庁告示第46号の土質環境基準値（0.05mg/l）以下であることを確認する。試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメントおよびセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要綱(案)の一部変更について」による。  
※）本工事における試験種別および個数：配合設計の段階で実施する溶出試験 検体数 1







※特記なきスラブはFS1とする。

凡例  

 人通口 幅600

材料強度	
捨コンクリート	Fc=18N/mm <sup>2</sup>
基礎コンクリート	Fc=21N/mm <sup>2</sup>
土間コンクリート	Fc=18N/mm <sup>2</sup>
鉄筋	D16以下: SD295 D19以上: SD345
地盤	
地業	
地耐力	30kN/m <sup>2</sup> (長期)
部材リスト	
スラブ	FS1 t=220 スラブ天 特記なき限りGL+50 配筋: D13@200 ダブル (タテ・ヨコ共)

2026年3月13日  
 ウルトラコラム工法  
 【建築技術性能証明 GBRC 第08-06号 改4(更1)】  
 改良径: φ700mm  
 設計基準強度: Fc=800KN/m<sup>2</sup>  
 改良深度: L=11.0m-98本  
 合計: 1078.0m (98本)

地盤改良伏図 1/100

# 参 考 数 量 書

工事名称：令和8年度 地域活動拠点整備事業  
安宿地域センター新築工事（建築）

## <注意事項>

- 1 本工事は、数量公開の対象工事です。
- 2 この数量書は適正な積算のための参考指標として数量を示すものです。  
数量は参考数量であり、設計図書ではありません。内容の如何にかかわらず、契約上の拘束をするものではありません。
- 3 この参考数量書の内容に疑義のある場合は、設計図書に対する質疑書とは別に、別添様式の「数量に関する参考質問応答書」を提出すること。なお、提出期間、閲覧期間及び提出・閲覧方法は、入札公告の質問書提出期間、回答書閲覧期間に掲げる期間及び提出・閲覧方法とする。

## 数量に関する参考質問応答書

番号	質 問 事 項	回 答
工事名称	令和 8 年度 地域活動拠点整備事業 安宿地域センター新築工事（建築）	
見積者名		
東広島市 都市交通部 営繕課		

工事名称 令和8年度 地域活動拠点整備事業  
安宿地域センター新築工事（建築）  
工事場所 東広島市豊栄町安宿

単価適用年月日  
・宮繕工事市場単価 令和8年春号  
・宮繕工事複合単価 令和8年3月労務  
・刊行物  
建設物価 2026-5月号  
積算資料 2026-5月号  
建築コスト情報 2026-4月号（春号）  
建築施工単価 2026-4月号（春号）  
・公共工事設計労務単価 (令和8年3月)  
・広島県 令和7年度～8年度 建設発生土処分先一覧表 (令和8年5月改定)  
・広島県 令和7年度 再資源化施設一覧表  
【コンクリート塊・アスファルトコンクリート塊】 (令和8年5月一部改定)  
・広島県 令和7年度 再資源化施設一覧表  
【建設発生木材】 (令和8年1月一部改定)

工事費内訳

名 称	数 量	単 位	金 額	備 考
直接工事費				
直接工事費	1	式		
計				
共通費				
共通仮設費	1	式		
現場管理費	1	式		
一般管理費等	1	式		
計				
工事価格	1	式		
消費税等相当額	1	式		消費税率 10 %
工事費	1	式		







建築工事 中科目別内訳

6

本館					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
直接仮設		1	式		
計					
土工		1	式		
計					
地業	地業	1	式		
地業	杭地業	1	式		
計					
鉄筋	躯体	1	式		
計					
コンクリート	躯体	1	式		
計					
型枠	躯体	1	式		
型枠	外部仕上	1	式		
計					
外壁		1	式		

建築工事 中科目別内訳

7

本館					
科目名称	中科目名称	数量	単位	金額	備考
計					
防水	外部	1	式		
計					
タイル	外部	1	式		
タイル	内部	1	式		
計					
木	躯体	1	式		
木	仕上(部位別)	1	式		
計					
屋根及びとい	外部	1	式		
計					
金属	外部	1	式		
金属	内部	1	式		
計					
左官	外部	1	式		



建築工事 細目別内訳

本館		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
遣方		1	式			別紙 00-0001
墨出し		1	式			別紙 00-0002
養生		1	式			別紙 00-0003
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0004
外部足場		1	式			別紙 00-0005
内部仕上足場		1	式			別紙 00-0006
災害防止		1	式			別紙 00-0007
仮設材運搬		1	式			別紙 00-0008
計						

建築工事 細目別内訳

本館		土工				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
埋戻し(D種)	再生ｺﾝｸﾘｰﾄ砂	8	m3			
計						

建築工事 細目別内訳

本館		地業			地業	
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
砂利地業	再生クワツヤツ	31.6	m <sup>3</sup>			
砂利地業	再生クワツヤツ	1.9	m <sup>3</sup>			
床下防湿層敷き	ポリエチレンフィルム 厚0.15	314	m <sup>2</sup>			
土間下断熱材敷き	3種bA 厚さ20mm	6	m <sup>2</sup>			
立上り断熱材敷き	3種bA 厚さ20mm	3.3	m <sup>2</sup>			
捨てコンクリート	FC18 S15	15.8	m <sup>3</sup>			
コンクリート打設手間		1	式			別紙 00-0009
止水板		83	m			
計						

建築工事 細目別内訳

本館		地業			杭地業	
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
別注工法	【建築技術性能証明取得工法】	1	式			別紙 00-0010
建設発生土運搬	ダンプトラック 10t積級 バック約0.45m <sup>3</sup> 土砂 DID区間無し 4.5km以下	83	m <sup>3</sup>			
建設発生土処分	処分費(汚泥)	83	m <sup>3</sup>			
計						











本館		木		躯体		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
屋根構造用面材	t=24 t=12	820	m <sup>2</sup>			
構造材運搬費	10t車平積み	4	台			
小計						
【技術費用】						
販売管理費	現場対応費	1	式			
承認図作成費	ﾌﾟﾚｶｯﾄ図含む	93.5	坪			
諸経費		1	式			
小計						
【建て方工事費】						
柱脚金物セット	ｱｶｰﾎﾞﾙ設置と台直しは別途	2	セット			
建て方	柱・梁・筋交	397	m <sup>2</sup>			
土台敷き	基礎ﾊﾞｯｷﾝｸﾞ、座金込み	246	m			
垂木取付	垂木加工・取付	820	m <sup>2</sup>			
屋根合板貼り	現場加工	820	m <sup>2</sup>			
構造間柱取付	外周及び耐力壁部迄	6.5	m <sup>3</sup>			

本館		木		躯体		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
構造壁合板貼り	外周及び耐力壁部迄	455	m <sup>2</sup>			
釘・金物	垂木・間柱・合板用釘	309	m <sup>2</sup>			
現場管理費		1	式			
諸経費		1	式			
ｸﾗｲｰﾝｸﾞｰﾝ (油圧伸縮ｼﾞﾌﾞ型)	25t吊り ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ付き 賃料	5	日			
小計						
【防蟻処理】						
防蟻処理	木部処理、土壌処理	309	m <sup>2</sup>			
諸経費		1	式			
小計						
計						

本館		木		仕上(部位別)		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
胴縁下地		511	m <sup>2</sup>			
野縁下地		92.3	m <sup>2</sup>			
天井廻縁	杉15角	27.1	m			
鴨居	杉 集成材 120*105	14.9	m			
敷居	SUS7ラットレール	23.9	m			
敷居	SUS7ラットレール小	0.9	m			
空調室内機吊り材		1	式			
構造用合板	t12mm	15.6	m <sup>2</sup>			
計						

本館		屋根及びとい		外部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
(屋根)						
たてひら葺き (Iパ-ル-たてひら 2型)	塗装溶融55% アルミニウム亜鉛合金めっき鋼板 0.5mm (Iカニカマ-Pro)	408	m <sup>2</sup>			
アスファルト-フィング	940	408	m <sup>2</sup>			
軒先唐草水切	屋根同材 サバ 片面戸@350共	67.2	m			
ケバ 唐草水切	屋根同材	31.8	m			
水切片棟包み (換気付)	片棟S形	30.6	m			
壁取合部水切 (換気付)	雨押えS形	36.6	m			
雪止めアングル	L-4 x 50 x 50共	58.6	m			
材料運搬・ 荷上げ費		1	式			
小計						
(とい)						
軒樋	ガ 111 リウム鋼板製 吊り金具@600共	58.6	m			
軒樋	珪酸ソーダ	2	か所			
落し口	丸落し75	7	か所			
壁樋	ガ 111 リウム鋼板製 75 支持金具共	24.8	m			













建築工事 細目別内訳

本館		内装		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
ビニル床シート	マ-フル 厚さ2.0 複層ビニルシート-FFS 一般床 熱溶接工法 -	19	m <sup>2</sup>			
ビニル床シート	マ-フル 厚さ2.0 複層ビニルシート-FFS 多湿部 熱溶接工法 防滑仕様	48.1	m <sup>2</sup>			
ビニル床シート	マ-フル 厚さ2.0 複層ビニルシート-FFS 多湿部 熱溶接工法 防滑仕様 消臭・抗菌剤 <sup>1</sup>	23.1	m <sup>2</sup>			
畳床敷きビニル床タイル	t=5 0A707(H=40)含む	1	式			別紙 00-0017
天然木化粧複合フローリング	厚さ15 かば	167	m <sup>2</sup>			
乾式二重床	A種 ビ-ズ 法ホリソソフォーム2号 t=65	295	m <sup>2</sup>			
隠根太	LVL材30*40	273	m			
床 耐水合板張り	t=12.0 捨て張り	295	m <sup>2</sup>			
幅木 ビニル床シート	マ-フル 厚さ2.0 複層ビニルシート-FFS 多湿部 熱溶接工法 防滑仕様 消臭・抗菌剤 <sup>1</sup> H=100	34.1	m			
ビニル幅木	高さ60	143	m			
壁ビニル吹張り		376	m <sup>2</sup>			
壁 せっこうボード張り(GB-R)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード 下地 下地張り -	376	m <sup>2</sup>			
壁 吸放湿化粧石こうボード張り	厚12.5	22.3	m <sup>2</sup>			
壁 シーリング せっこうボード張り(GB-S)	厚12.5 不燃 鋼製、木、ボード 下地 下地張り -	52.6	m <sup>2</sup>			
壁 化粧けい酸 加沙合板張り	タイプ2(ノアス)0.8FK 厚 6 鋼製、木、ボード 下地 下地張り -	113	m <sup>2</sup>			

建築工事 細目別内訳

本館		内装		内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
壁 耐水合板張り	t=12.0	60.3	m <sup>2</sup>			
壁 グラスウール張り	24K 厚さ50mm	44.7	m <sup>2</sup>			
天井 化粧 せっこうボード張り(GB-D)	厚 9.5 準不燃 トライ-チ 突付け	76.9	m <sup>2</sup>			
天井 防湿気密シート張り		4.3	m <sup>2</sup>			
天井 高性能グラスウール 吸音板張り	16K 厚さ100mm 二重張り	4.3	m <sup>2</sup>			
天井 ロッキング 化粧吸音板張り (DR)	フラット内部用 厚 9 不燃 下張GB-R 厚9.5共	51.9	m <sup>2</sup>			
天井廻縁	塩化ビニル製	129	m			
計						



本館		ユニット及びその他			内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
消火器	ABC10型	3	か所				
消火器スタンド		2	か所				
【トリアース】							
TB-1	3258 × 2500	1	か所				
TB-2	2240 × 2500	1	か所				
TB-3	2510 × 2500	1	か所				
運搬取付費		1	式				
館銘板	W300 × H900 × D20 ステンレス HL t1.5 箱曲加工 焼付塗装	1	か所				
ピクトサイン (突き出し型)	200 × 200 アクリル板 t5.0 St17 ラケット(焼付塗装)	2	か所				
ピクトサイン (平型)	200 × 200 アクリル板 t3.0+3.0(スライドロック)	1	か所				
CS室名サイン	200 × 60 アクリル板 t3.0+3.0(スライドロック)	6	か所				
【ロールスクリーン・カーテン】							
ロールスクリーン	W1895 × H900	4	か所				
遮光ロールスクリーン	W2000 × H900	4	か所				

本館		ユニット及びその他			内部		
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考	
遮光カーテン	W7870 × H2800	1	か所				
遮光カーテン	W7870 × H2750	2	か所				
遮光カーテン	W8000 × H1990	1	か所				
カーテン	W7900 × H2700	1	か所				
カーテン	W5300 × H2700	1	か所				
横型ブラインド	W3000 × H1700	1	か所				
横型ブラインド	W2870 × H1700	1	か所				
ハコ式アコーディオン WD-5	W7860 × H2630	1	か所				
【カーテンレール】							
カーテンレール	アルミカム製 手引き 引分け 重量用(10-90)	44.7	m				
房掛け		8	個				
【家具】							
F-1 下足入れ	2060 × 350 × 1640	1	か所				
F-2 キッチン	1200 × 600 × 900	1	か所				
F-3 生徒用調理台	1200 × 900 × 800	2	か所				





本館		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
遣方		1	式			別紙 00-0001
遣方	一般	315	m <sup>2</sup>			
計						
墨出し		1	式			別紙 00-0002
墨出し	一般	309	m <sup>2</sup>			
計						
養生		1	式			別紙 00-0003
養生	一般	309	m <sup>2</sup>			
計						

本館		直接仮設				
名称	摘要	数量	単位	単価	金額	備考
整理清掃後片付け		1	式			別紙 00-0004
整理清掃後片付け	一般	309	m <sup>2</sup>			
整理清掃後片付け	竣工時清掃	309	m <sup>2</sup>			
計						
外部足場		1	式			別紙 00-0005
くさび緊結式足場 (手すり先行方式)	幅900mm 高さ10m未満 期間6か月 運搬費共 最上部安全手すり含む	312	m <sup>2</sup>			
計						
内部仕上足場		1	式			別紙 00-0006
内部仕上足場	脚立足場	309	m <sup>2</sup>			
計						











名 称	摘 要	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮囲い	ガードフェンス H=1.8m 6.0ヶ月 運搬費共	131	m			
キャスターゲート	W6.0m × H1.8m 6.0ヶ月	1	か所			
鉄板敷き	厚22mm 整備費、供用1日賃料 6.0ヶ月	68	m <sup>2</sup>			
交通誘導警備員		150	人			
環境測定		5	か所			
広島県工事中情報共有システム		1	式			
計						